

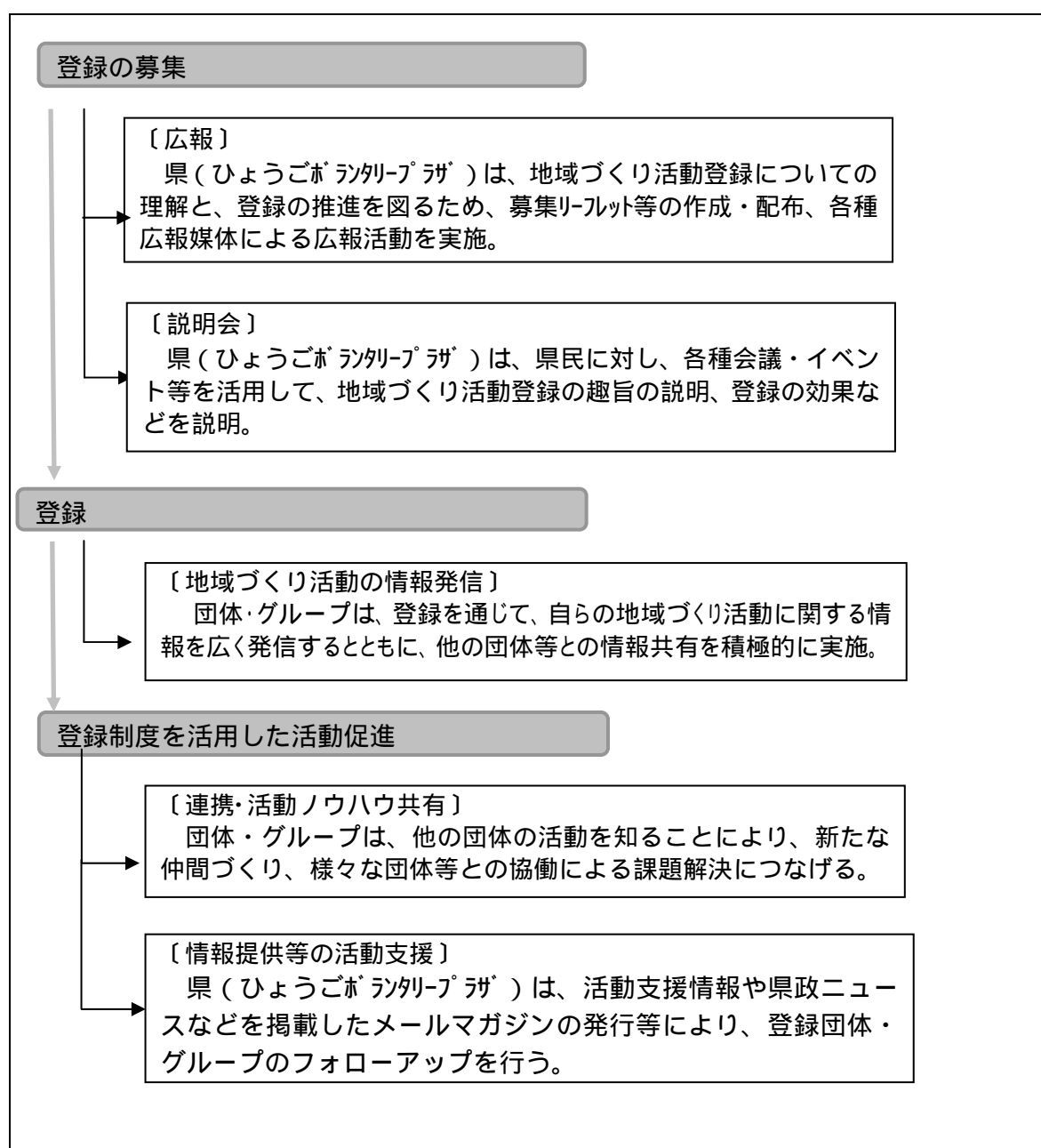
(2) 地域づくり活動への支援に関する施策(20 施策) 新たな活動を生み、育む

地域づくり活動登録制度の運用（県民政策部）

事業概要

団体等が自ら取り組む地域づくり活動の概要（活動の内容、活動分野、活動地域、団体の概要など）を登録し、情報発信することを通じて 地域・分野を超えた活動ノウハウ等の共有 共通する課題解決に向けた複数のアプローチの発見 複数のアプローチを協働して取り組むきっかけづくり、などによる地域づくり活動の活性化を応援するため、ひょうごボランティアプラザにおいて地域づくり活動登録制度を運用します。

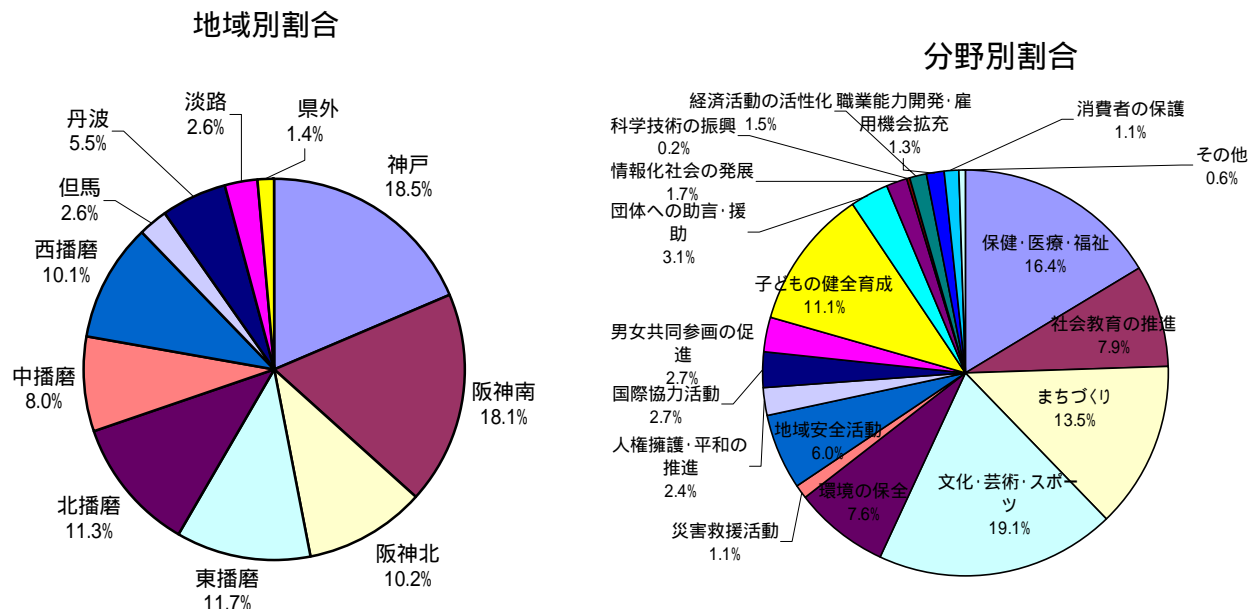
参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

地域づくり活動登録件数

地域づくり活動登録制度は、平成 15 年 7 月から運用を開始し、活動登録件数は、2,515 件です。地域別、分野別、団体別の主な内訳は次のとおりです。



参画と協働の今後の主な取り組み方向

(登録数の充実)

現在の地域づくり活動登録件数は、2,515 件ですが、県内ボランティア活動の状況等からみて、さらに積極的に登録を呼びかけ、制度の充実を図ることが必要です。

このため、ひょうごボランティアプラザを中心として、地域別・分野別支援機関のネットワーク「活動支援ネット」を構築し、各支援機関の登録グループや、助成・顕彰・NPO法人認証等各種手続きの機会をとらえて登録を呼びかけるとともに、「県民だよりひょうご」「日曜フォーラム」等の各種媒体による広報、さらに、個人情報等への配慮及び登録手続の簡素化に関する周知を通して登録制度の普及を図るとともに、既に登録している団体向けに発行しているメールマガジンを活用して登録情報更新の促進を図ります。

(登録制度の機能強化)

(1) 登録団体と企業等のマッチング機会の創設など登録メリットの充実

地域づくり活動支援情報提供システム「ひょうご活動支援ナビ(仮称)」(平成 17 年度開発予定)上において、登録団体に募集情報(イベントボランティアや寄附の募集)発信の場を提供することにより多様なマッチング機会を提供します。

(2) 登録制度における情報発信機能の強化

登録団体に対しては、現行の発信情報(「団体情報」「活動情報」「活動写真」)に「広報誌等」を追加掲載できるようにシステムを改善して団体の広報活動をサポートするほか、「ひょうご活動支援ナビ(仮称)」上に集約される様々な支援情報を活用し、情報提供(メールマガジン)の一層の充実を図ります。

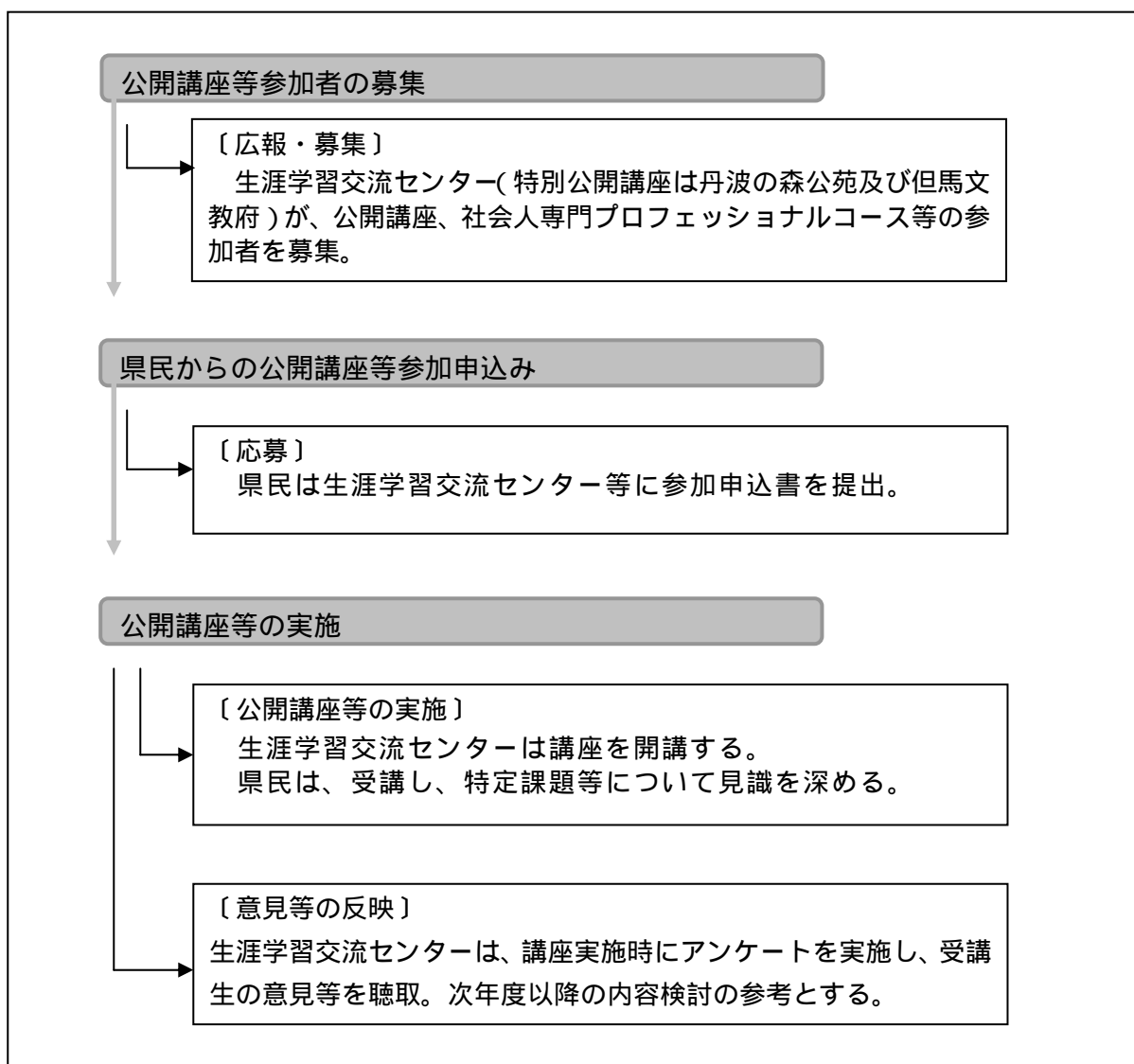
兵庫県立大学 生涯学習交流センターの設置(新) (企画管理部)

事業概要

大学固有の専門的教育資源の活用に見点を置き、社会人のリカレント教育や高度な教養教育等、県民の多様な生涯学習ニーズにこたえるため、事業・制度の企画立案、学内の総合調整及びその推進をになう組織として「生涯学習交流センター」を設置し、大学の教育機能を活用し、広く県民に学習の機会を提供します。

リカレント教育：一度社会に出た者が、学校やそれに準ずる教育・訓練機関に戻ることが可能な教育システム。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

公開講座

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
パソコン教室 ホームラン(LAN)をつくりましょう	30名	33名	全3回	神戸学園都市 キャンパス
食文化教室 スローフードとイタリア	40名	18名	全3回	神戸学園都市 キャンパス
スポーツ教室 テニス	30名	34名	全6回	神戸学園都市 キャンパス
よくわかる最新の科学と技術	80名	56名	全8回	姫路書写 キャンパス
いざという時の命と健康を守る術	100名	24名	全2回	明石キャンパス

特別公開講座

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
くらしの中の科学と技術	50名	60名	全5回	丹波の森公苑
地域で役立つこれからの看護	50名	50名	全3回	但馬文教府

国際セミナー

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
情報通信技術(ICT)と次世代の 看護 - 看護実践の教育・研究におけ るICTの活用 -	400名	116名	全2回	明石キャンパス

社会人専門プロフェッショナルコース

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
起業家コース	20名	21名	全10回	神戸キャンパス

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(公開講座等の内容の充実)

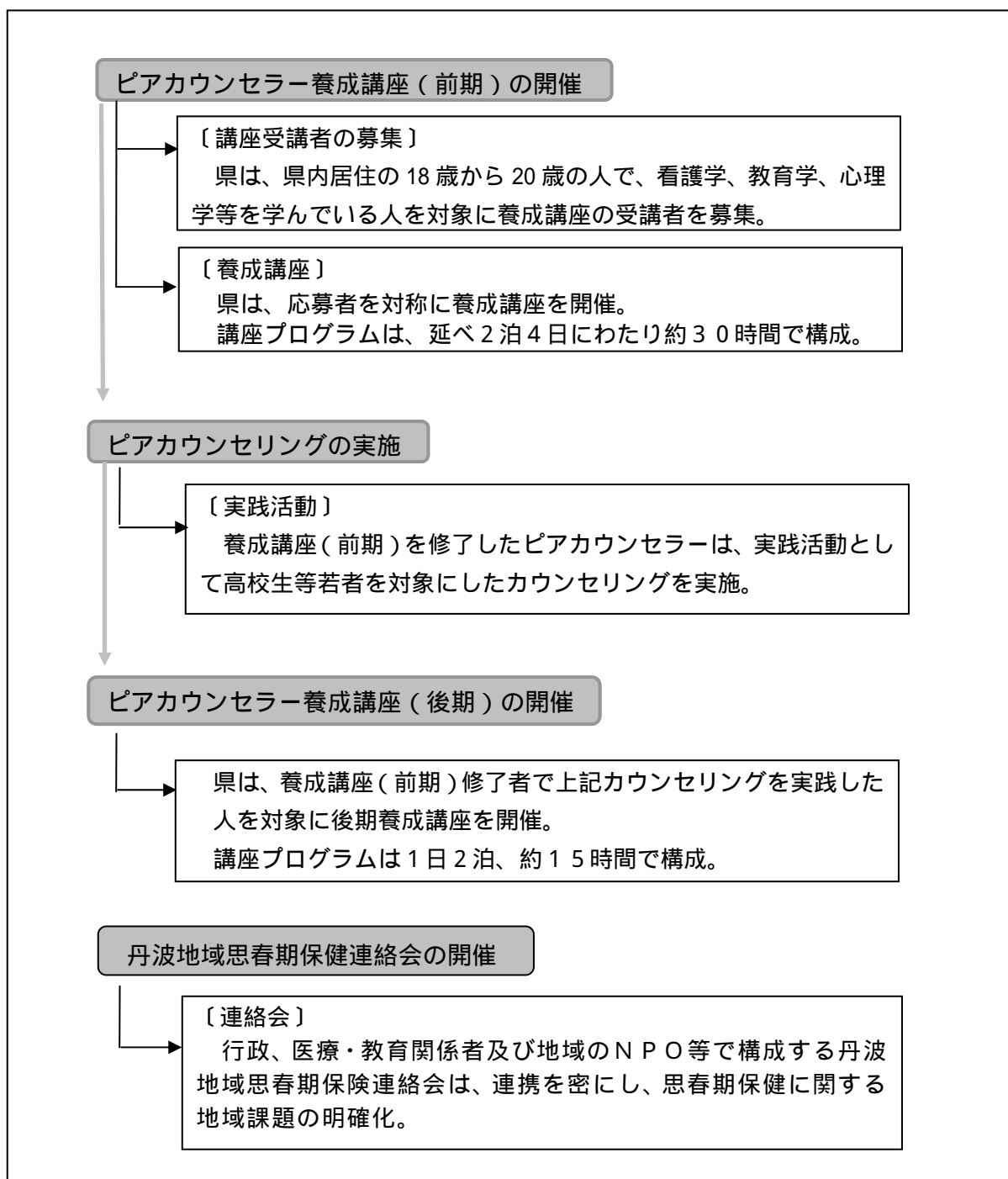
従来の公開講座を踏まえながら、今後地域交流型の講座を検討するなど、県民のニーズをよりきめ細やかに拾い上げていきたい。

思春期ピアカウンセリング事業（丹波県民局）

事業概要

丹波地域における中高生の健康や生（性）に関する課題に対応するため、同世代の若者をピア（＝仲間）カウンセラーとして養成し、中高生が相談しやすいカウンセリング体制を整えるとともに、課題に対する若者の自己決定能力を高める。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

思春期ピアカウンセラー養成講座の受講者

養成講座には看護学生大学生が参加し、27名が修了しました。



(講義の様子)



(グループによる実演・発表)

思春期ピアカウンセリング事業の実施

地域の若者ゆうゆう広場や高校において思春期ピアカウンセリング事業を4回実施しました。



参加ピアカウンセラー 延べ49名
高校生 延べ408名

広報

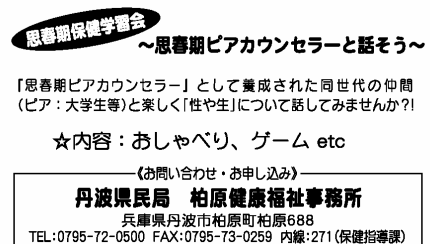
上記事業の実施に向けて、NPO法人の参画でホームページを立ち上げました。また、県が丹有学区の高校生7600名にPRカードを配布しました。

(PRカード)

表



裏



丹波地域思春期保健連絡会の開催

3回(平成16年7月26日、12月16日、平成17年3月25日)

参画と協働の今後の主な取り組み方向

（思春期ピアカウンセリングの継続実施）

ピアカウンセリングには多くの高校生が参加し、カウンセリングを受けてよかったと好評だったので、引き続きピアカウンセラーによるカウンセリング事業（集団・個別相談）を実施します。

（思春期保健連絡会の継続実施）

多様な関係団体が連携することにより地域の課題を共有できるとともに、事業の実施にあたっては協力して速やかに取り組めたので、当該事業の定着に向けて協議、連携を継続します。

（事業の効果測定等）

この事業を実施してみて、関係団体から全県的に取り組む意義は大きいのではないかという意見も出されているので、事業の効果測定、評価を行い、全県事業として取り組むことを提言できるよう進めていきます。

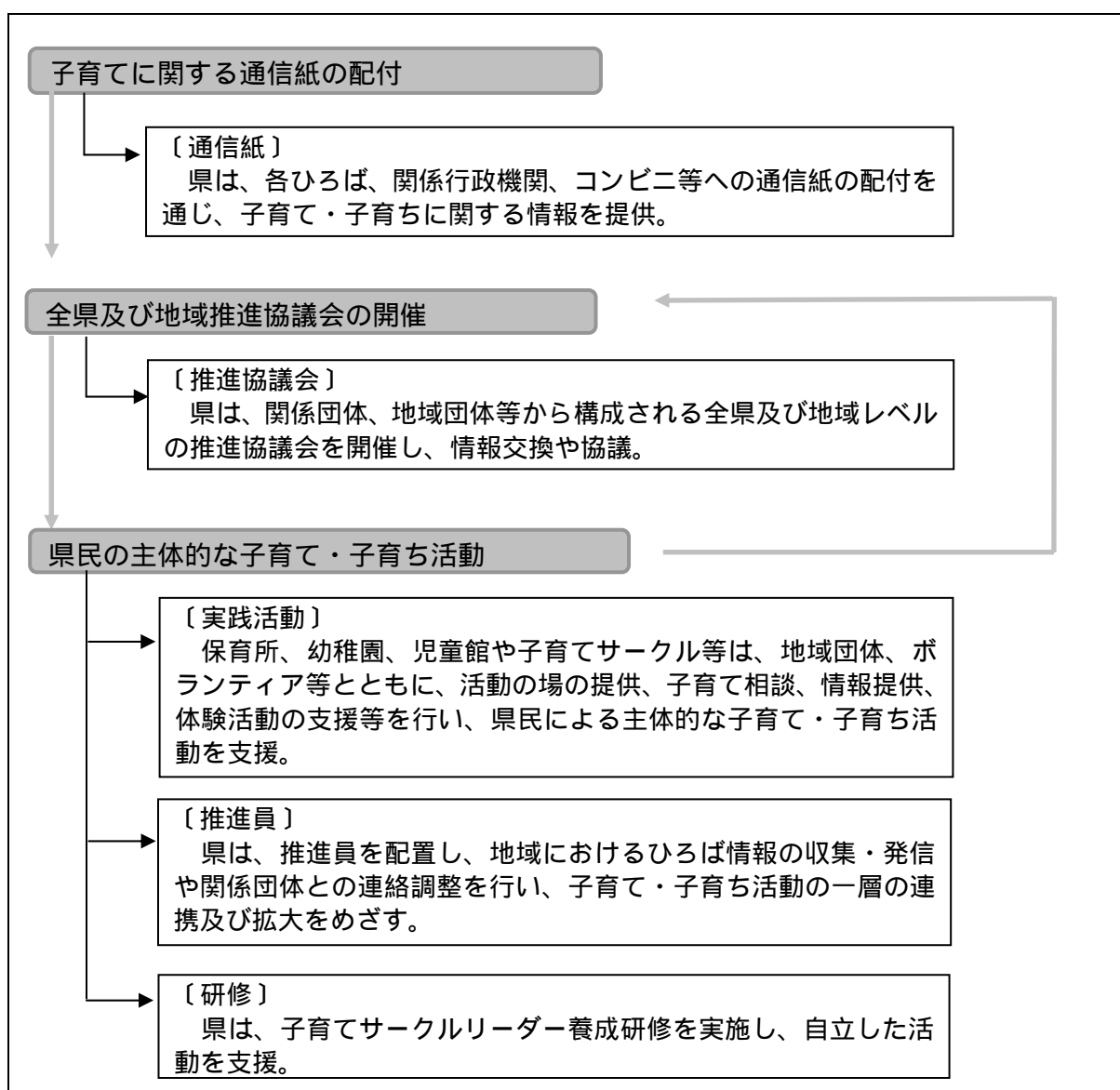
まちの子育てひろば事業の推進(健康生活部)

事業概要

子育て中の親が気軽に集い、仲間づくりを通して子育ての悩みを解決し、情報交換ができる身近な拠点となる「まちの子育てひろば」(以下「ひろば」という。)の開設を促進し、地域団体やボランティア等との参画と協働により、子育て相談や親子の体験活動を支援するなど、地域全体で子育てを支える仕組みづくりを推進します。

参画と協働の方法

下記のような進め方を標準モデルに、具体的な手法については各地域で創意工夫を凝らし展開しています。



参画と協働の実施状況

「まちの子育てひろば」設置状況

(平成17年3月末現在)

県民局	保育所	子育てサークル	幼稚園	児童館	子育て学習センター	コープひろば	助産院	社会福祉協議会	まちの保健室	児童養護施設	乳児院	女性センター	その他	合計
神戸	28	71	91	116	0	14	3	0	2	0	1	0	68	394
阪神南	86	64	61	19	0	11	1	23	1	3	0	0	1	270
阪神北	16	99	43	11	0	4	5	1	1	0	1	1	7	189
東播磨	53	111	3	2	5	6	2	1	2	1	1	0	19	206
北播磨	52	31	2	10	8	1	1	0	0	0	0	1	2	108
中播磨	85	16	11	13	2	1	2	1	2	2	2	0	8	145
西播磨	42	27	0	9	9	3	1	9	0	1	0	0	2	103
但馬	39	39	0	3	14	0	1	2	0	0	0	0	6	104
丹波	21	10	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0	1	42
淡路	14	0	1	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	22
合計	436	468	212	190	47	40	17	37	8	7	5	2	114	1583

活動内容

- ・親子で体験活動（親子体操、工作、料理、季節の行事など）を実施
- ・ボランティアによる絵本の読み聞かせ、紙芝居、人形劇などの遊びの提供
- ・保育士、保健師、助産師等の専門人材による子育て相談の実施
- ・施設（園庭、自宅）開放 等

推進員の設置状況

ひろばに関する情報の収集・発信や関係団体との連絡調整等を行う「まちの子育てひろば推進員」を地域に配置します。

平成14年度	平成15年度	平成16年度
81名	103名	105名

配置個所	役割など
社会福祉課	全県下のひろば登録管理、助成金等交付事務、通信紙の発行等のため、3名配置
県民局	広域的な情報集約や連絡調整等を行うため、各県民局に1名ずつ配置
県立こどもの館	各ひろばに出向き、体験活動の指導や子育てリーダー研修を実施するため11名配置
保育所	保育所のひろばの情報集約や連絡調整等を行うため事務局及び各地区ブロック（旧県民局圏域）に1名ずつ配置
県社会福祉協議会	市町社協の推進員の情報集約や連絡調整等を行うため、2名配置
市町社会福祉協議会	各ひろばの情報集約や連絡調整等を行うため、各市町社協に1名ずつ配置（ただし人口の多い神戸市は11名、尼崎市、西宮市各2名配置）

子育てサークルリーダー養成研修の開催状況

- ・派遣市町数：13市6町（参考 11市9町）
- ・派遣回数：45回（参考 35回）
- ・参加人員：2,273名（参考 1,721名）
- ・研修内容：各地で広がりを見せている「子育てサークル」活動を支援するため、

その活動の中心的役割を果たす人材の養成及び子育てサークルリーダーとしての資質向上を図るための研修を実施。

まちの子育てひろば交流研修会の開催

まちの子育てひろばの活動の充実と相互交流を促進するため、ひろば開設者や老人クラブ、婦人会、民生委員・児童委員等のひろば応援団が参加し、事例発表や講演等を行う交流研修会を各県民局管内で開催しました。

県民局	日 時	参加人数
神 戸	H.17. 3.23	80 人
阪神南	H.17. 2.10	80 人
阪神北	H.17. 3.10	103 人
東播磨	H.17. 1.21	200 人
北播磨	H.17. 2.14	47 人
中播磨	H.16.11.30	95 人
西播磨	H.16.11. 1	115 人
但 馬	H.16.11. 8	85 人
丹 波	H.17. 2.26	250 人
淡 路	H.17. 3.23	14 人

参画と協働の今後の主な取り組み方向

14年度から実施しているまちの子育てひろば事業は、地域全体で子育てを支えるしくみづくりを推進してきた。その結果、1,500箇所を超えるひろばが開設され、気軽に身近に集える場としての「ひろば」づくりの促進という所期の目標は、ほぼ達成されました。

今後はひろばが親子にとって安心でき、子育てに夢が持てる場となるよう、専門家による相談機能の強化や、親子の社会性の涵養につながる多様な体験活動の実施など、家庭・地域・行政の力を結集して、ひろば活動の内容を充実させ、“魅力あるひろばづくり”をめざします。

なお、児童福祉施策全般との連携をより密接に図る必要があるため、17年度から所管課を社会福祉課から児童課へ移管しました。

(ひろばの相談機能の強化)

ひろばにおいて子育て相談機能を強化するため、保育士や教員OB等による「ひろば子育て相談員」を各県民局に登録し、ひろばからの要請に応じて派遣します。

(コーディネート機能の強化)

ひろば事業が充実して展開されるよう、各県民局、県保育協会、私立幼稚園協会、県社協等に「まちの子育てひろばコーディネーター」を配置し、ひろばの継続運営を支援するための情報集約や連絡調整等を行います。

(地域での子育て力支援体制の充実)

ひろば応援団に関する情報紙の発行や交流会の実施など、ひろば運営を側面的に支援するとともに、ひろば応援団機能の強化を図り、地域の子育てを支える環境づくりを一層推進します。

(行政における子育て支援専門機関による支援)

こどもの館に体験活動指導員を配置し、こどもの館を中心に多様な体験活動の指導によりひろばを支援するとともに、専門的機能を積極的に活用し、家庭・地域の子育て力の総合的な向上を図ります。

さらに、こども家庭センター、健康福祉事務所等が、これまで保育所や幼稚園などに通わなければ発見できなかったような障害、発達遅滞及び虐待事例等を早期に発見し、初期段階から専門家による適切な処遇につながるよう支援します。

県民すべてがかかわる兵庫の教育推進事業の実施～オープンスクールの推進～(新)

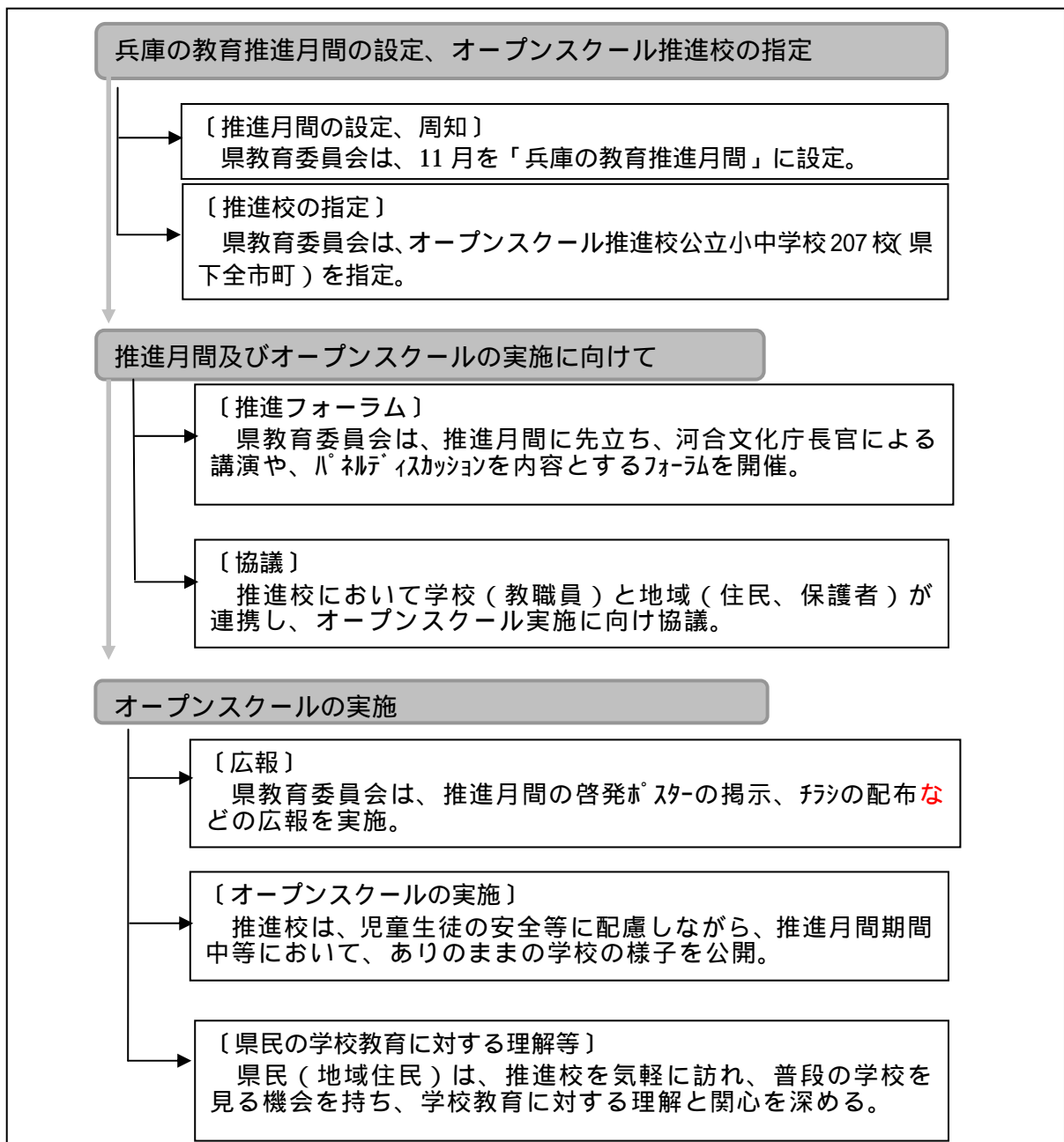
(教育委員会)

事業概要

学校、家庭、地域社会の連携のもとに展開されている教育活動の支援や、県民の教育への関心と理解を深めることを目的として、11月を「兵庫の教育推進月間」と設定し、広報活動等の実施により子どもたちの教育活動へのかかわりを促進します。

また、従来から実施されている授業参観や学校行事の参観をはじめ、普段の学校の教育活動を保護者や地域住民に公開しようとする取り組みとして「オープンスクール(学校公開)」を推進します。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

兵庫の教育推進月間の取り組み

学校、家庭及び地域社会の連携のもとに展開されている諸活動を支援し、子どもたちの教育への県民の関心と理解を一層高めるために、11月を「兵庫の教育推進月間」と設定し、オープンスクールなど、県民すべてがかかわる本県の教育を推進しました。

- ・「兵庫の教育推進月間」推進フォーラムの開催

(日時) 平成16年8月3日

(場所) 兵庫県公館

(参加者数) 県民、学校関係者、教育行政担当者、教育関係諸団体関係者など380名

- ・啓発ポスター、チラシの作成・配布

- ・教育委員会ホームページ等による広報

県内各地で推進月間中に実施される教育活動を集約、紹介



(啓発ポスター)

オープンスクール実施に向けて

オープンスクールの実施に先立ち、教職員と地域住民、保護者がオープンスクールの実施内容、役割分担等について話し合う機会を持ち、受け入れ準備をすすめました。

オープンスクールの推進

保護者や地域住民自らが受付や校内の巡視活動などに携わることや、保護者のみならず地域住民にもありのままの学校を見ていただくことで、子どもたちの教育への県民の関心と理解を高めることができ、学校、地域社会において下記のような効果がありました。

(学校)

開かれた学校づくりの促進

- ・家庭や地域社会との相互理解の促進
- ・地域の教育力の活用 など

(地域)

子どもたちを地域で育む意識の醸成

- ・学校教育に対する理解と関心の促進 など



オープンスクール受付の様子
< 西播磨教育事務所管内 >

平成16年度県下の小・中学校におけるオープンスクールの実施状況

全体 69.2%

(小学校 67%、中学校 74.4%)

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(兵庫の教育推進月間の取り組み)

「兵庫の教育推進月間」を平成16年度に設定し、取り組みを実施し始めたところ
です。

今後、「兵庫の教育推進月間」の趣旨を県民に周知するとともに、推進月間の定着を図り、子どもたちの教育に対する県民の参画と協働を促進し、県民すべてがかかわる本県の教育をさらに推進していきます。

(オープンスクールの本格展開)

平成16年度に実施したオープンスクール推進事業においては、学校と家庭、地域社会との相互理解のもと、受付や校内の巡視活動が保護者や地域住民の支援により行われるなど、一定の成果がありました。アンケート調査結果をみても、地域の学校のありのままの様子がよくわかり、学校を身近に感じる事ができたので、今後も継続して欲しいという意見がほとんどであるなど、好評を得ています。

一方、課題として、児童生徒の安全確保のために、より一層不審者対策を講じる必要があることや、学校が地域に対し積極的な情報提供を行い、より多くの地域住民等の参加を促すことが挙げられます。

これらの成果と課題を踏まえ、不審者への対応等児童生徒の安全確保に配慮しつつ、学校・家庭・地域の連携のもと、県下の全公立小中学校においてオープンスクールの実施を目指します。

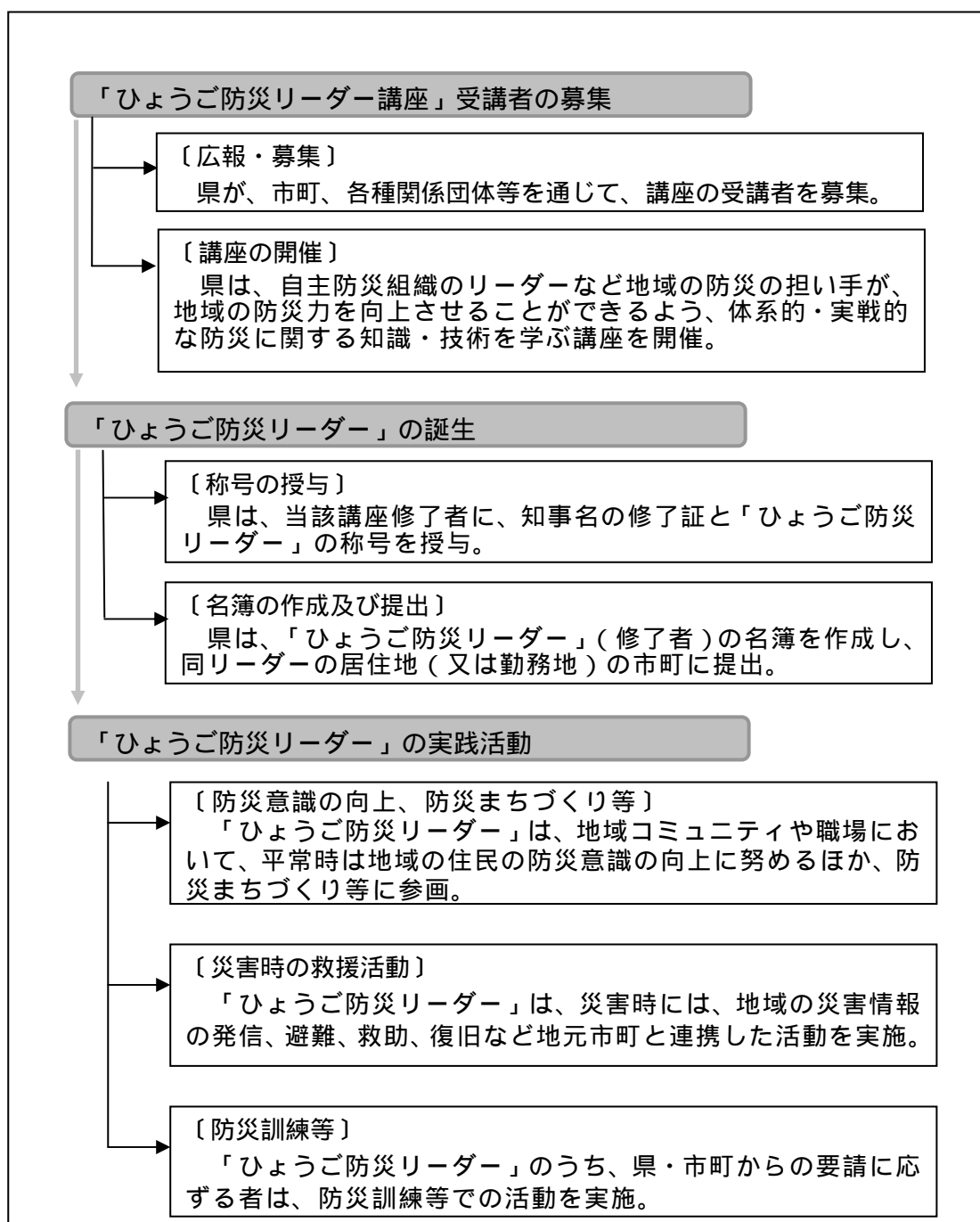
活動を高め、支える

防災協働社会を担う人材の育成(新) (企画管理部)

事業概要

今世紀半ばまでに発生するといわれている東南海・南海地震などの地震や、近年数多く発生している台風や集中豪雨などの風水害等に的確に対応できるよう、自主防災組織のリーダーなど地域の防災の担い手が、防災に関する体系的・実戦的な知識・技術を習得し、地域の防災力を向上させることをねらいとして、「ひょうご防災リーダー講座」を開催します。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

ひょうご防災リーダー講座の開催

防災に関する体系的な知識や実戦的な技術を身につけ、各地域や職場で防災リーダーとして活動できる人材を育成するため、「ひょうご防災リーダー講座」を平成16年度より実施しています。

《受講者数等の状況》

項目	受講希望者	受講者	修了者
人数	149名	128名	113名

受講者募集にあたっては、県民局、市町等の協力も得て、予想を上回る希望者を得ました。このため、当初予定していた受講者の上限（100名）を引き上げ、128名を受講者としました。

講座では、災害のメカニズム、わが国の防災のしくみ、応急対策（火災消火、避難誘導、避難所運営等）のあり方等について、学識者、実務家等を招いて講義を行い、また、各種実習（応急手当、心肺蘇生法、ボランティア受け入れ、コミュニティ形成）、グループ討議等も行いました。

《講座の開催状況》

12回開催（月2回×6か月）

1回の講座につき3講義（1講義90分）

（ただし、最終第12回第3時限は、NPO法人日本防災士機構が行う「防災士」資格取得試験を実施。）

ひょうご防災リーダーの登録数（ひょうご防災リーダー講座修了者数） 113人

参画と協働の今後の主な取り組み方向

（講座内容の充実）

全体として、受講者からは、一流の講師による充実した内容の講義であり、今後の地域活動に大いに役立つと好評でした。しかし、次年度の課題として、実技の時間を増やすなど、地域の活動にすぐに役立つ実践的な内容を充実して欲しいなどの要望がありました。そのため、今後、これら受講者の感想・要望等を踏まえ、実技の時間を増やすなど、カリキュラムをより充実させていきます。

（リーダーの活動をしやすくするためのしくみづくり）

当該講座を修了した「ひょうご防災リーダー」については、リーダーが個々に地域や職場において防災活動の取り組みを行うことが中心となるように、また、県・市町と密接な連携を図れるように、しくみづくりを充実していく必要があります。

（目標とするリーダー数）

当面5年間で600人（1年に120人）のリーダーを育成することを目標としており、目標達成に向けて今後も取り組んでいきます。

コミュニティサポート支援事業(新) (県土整備部)

事業概要

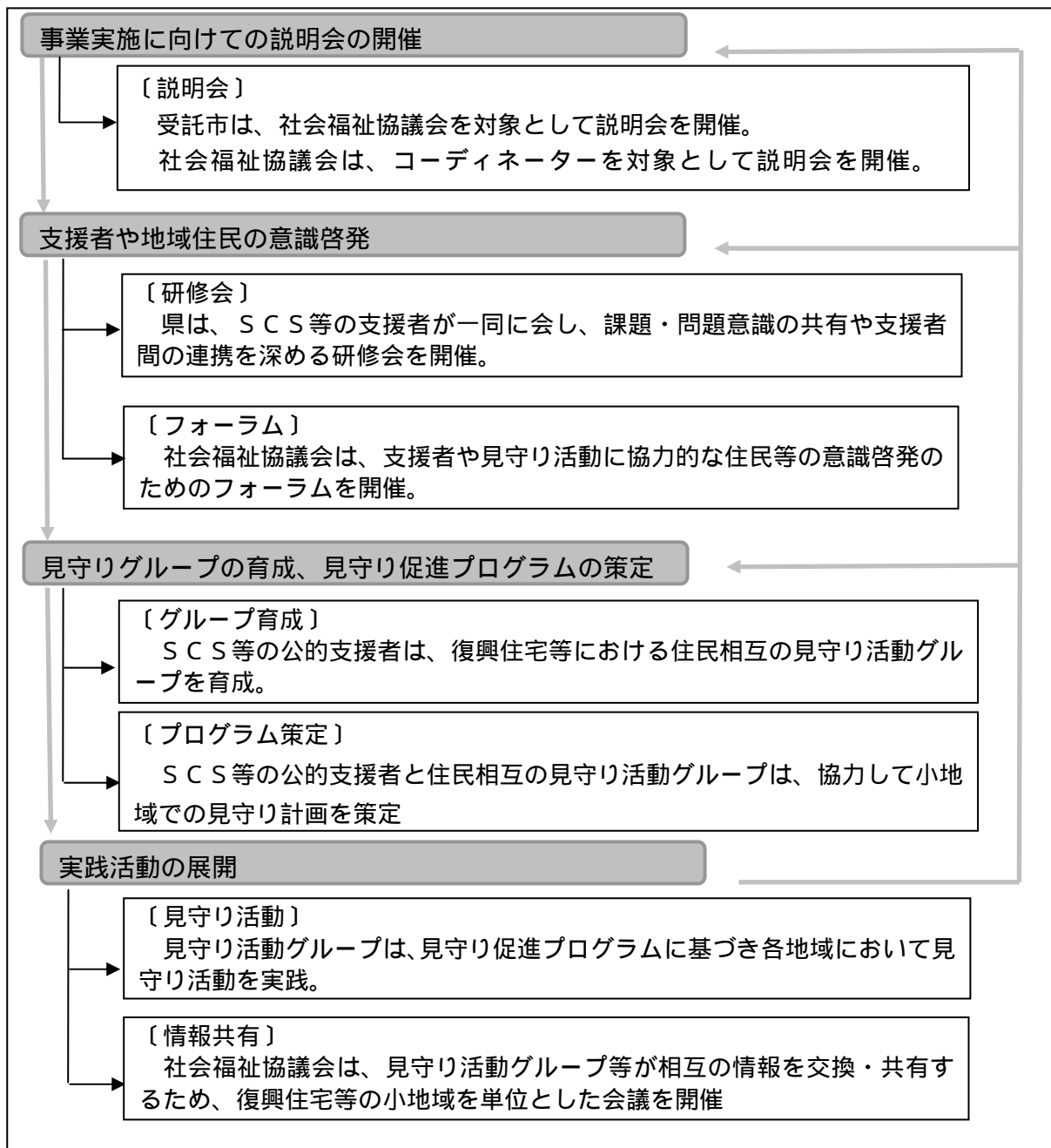
災害復興公営住宅では、高齢世帯生活援助員（ＳＣＳ）等の公的支援者を中心とした見守り等の支援を行ってきたが、今後訪れる超高齢社会においては、住民相互の見守りの重要性が高まると考えられます。

このことから、被災高齢者等への見守り体制の一層の充実を図るため、災害復興公営住宅等における住民相互の見守り活動グループ（コミュニティサポートグループ）の育成を促進するとともに、効果的な見守り活動を実践するための「小地域見守り促進プログラム」の策定を支援します。

事業の実施にあたっては、ＳＣＳを設置している市町等に委託します。

参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルとして、事業を実施しています。



参画と協働の実施状況

コミュニティサポートグループの育成

神戸市と西宮市の災害復興公営住宅等において225グループが活動しました。

地域	グループ数
神戸市	200
西宮市	25
計	225

【参考：神戸市の取り組み状況】

(1) 育成手法

神戸市及び各区社会福祉協議会の指導・支援のもとに、災害復興公営住宅及び高齢化率の高い住宅・地域を対象に、高齢世帯生活援助員（SCS）、見守り推進員及びLSAがコミュニティサポートグループの育成を支援しました。

(2) 研修会の開催

各地区民生委員児童委員協議会単位で「小地域見守り連絡会」等を開催し、本事業の説明や情報交換会を開催しました。

平成16年9月及び平成17年3月にコミュニティ支援をテーマとした研修会を開催するとともに、コミュニティサポートグループ育成支援の事例発表を行いました。

(3) コミュニティサポートグループに対する主な支援内容

チラシ・掲示板その他により協力者に呼びかけ、キーパーソンの発掘に努めました。地域の協力者、キーパーソンとなる人に対する説明、協力依頼、検討会の開催を行いました。

説明会、研修会の開催により、グループ化につなげました。

グループ育成のために連絡会や情報交換会を継続して開催しました。

(4) 取り組みの成果

支援団地数 156団体（地区）

育成グループ数 200グループ

《活動内容による内訳》

活動内容	グループ数
友愛訪問	84
ふれあい給食	4
ふれあい喫茶	32
ミニデイ	4
趣味活動等	27
外出介助	1
その他	48
計	200

小地域見守り促進プログラムの策定

神戸市と西宮市の31地域で策定されました。

地域	プログラム策定地域数
神戸市	28
西宮市	3
計	31

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(コミュニティサポートグループの育成)

現在、住民相互の見守りグループは神戸市(200グループ)と西宮市(25グループ)の2市で育成されましたが、他の被災市町も含め概ね100戸の見守り対象世帯を1グループが見守るよう、平成17年度以降も住民相互の見守り活動グループの育成支援を継続して行います。

(仲間づくり交流事業)

災害復興公営住宅のコミュニティ活性化及び見守りグループに対する継続的なフォローを行うため、被災高齢者の仲間づくり・生きがいをねらいとした「仲間づくり交流事業」を実施します。

仲間づくり交流事業の例

被災高齢者の交流会、セミナーや趣味の講座の開催、
複数自治会による交流事業の実施など

(小地域見守り促進プログラム事例集の作成)

平成16年度にモデル事業として策定した小地域見守り促進プログラムを今後の地域における見守りの参考事例として広く発信することが必要であることから、策定されたプログラム等を冊子等にとりまとめ広く被災各市町へ情報発信を行います。

北はりま田園空間博物館交流推進事業（北播磨県民局）

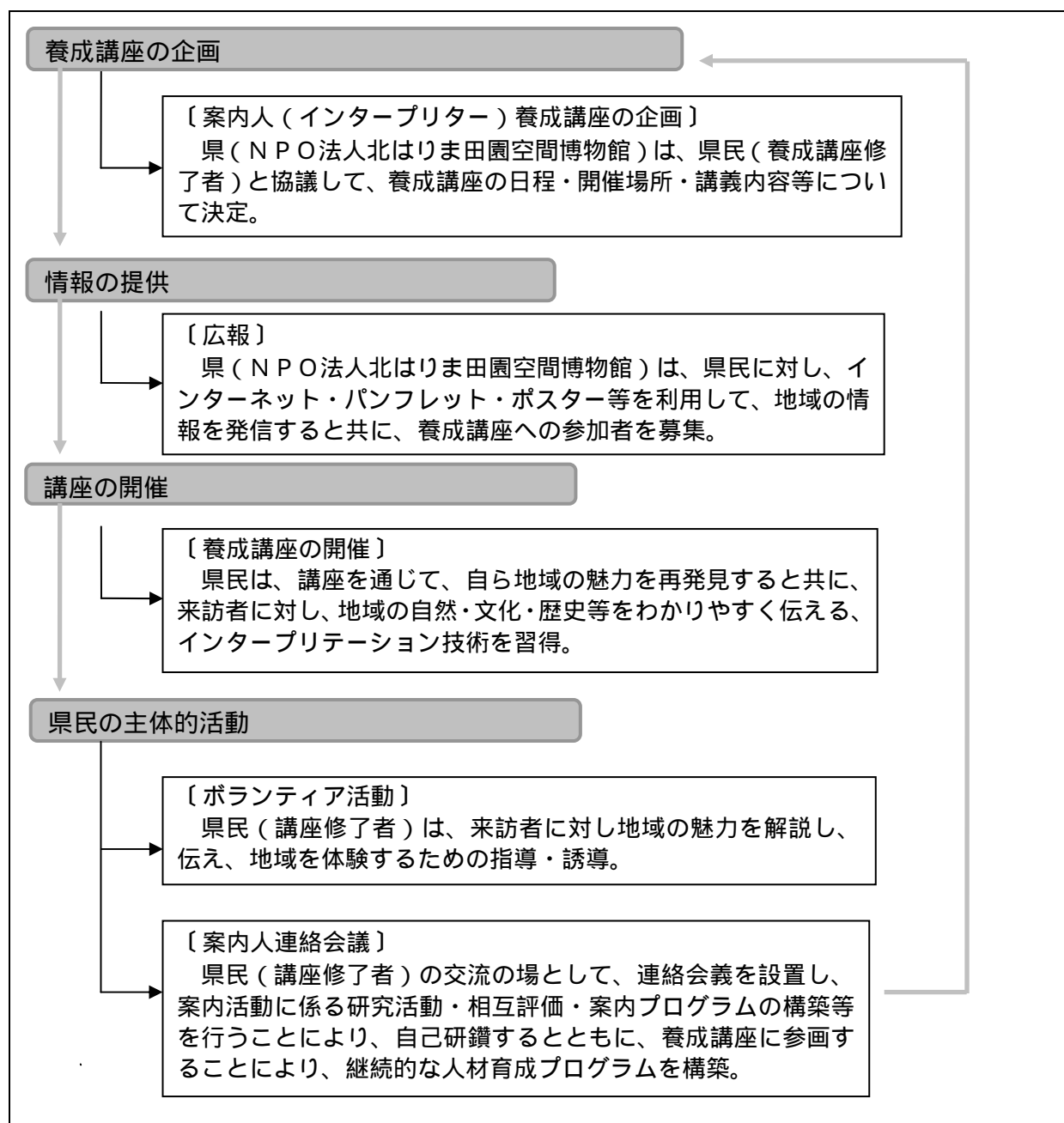
事業概要

北播磨地域における、都市と農山村との交流を通じた豊かな地域づくりのため、北はりま田園空間博物館を拠点として、地域情報の発信・地域案内人の育成を図り、行政と住民が連携し、北播磨地域が持つ様々な資源を生かして、都市住民との交流を図る北播磨交流の祭典を含む、住民の参画と協働による交流の舞台づくりを支援します。

なお、事業の実施にあたっては、住民主導の運動として実施し、事業完了後も地域に根付いた運動とさせるため、現在、北播磨地域において、地域づくりの中核的組織である NPO 法人北はりま田園空間博物館に業務を委託します。

参画と協働の方法

16 年度は、養成講座によりインタープリター（地域案内人）の養成を図るとともに、養成講座修了者が巡回講座の企画運営に参加し、自らの案内技術の向上を図りました。17 年度以降は、養成講座修了者が一般の来訪者に案内を行うシステムの構築を図ります。



参画と協働の実施状況

地域案内人（インタープリター）養成講座

講座名	内 容	月 日	場 所	参加者数
第5回講座	(1)インタープリターについての基礎知識	6.26・27（土・日）	中町 ココロ那珂	16
第6回講座		8.7・8（土・日）	黒田庄町 フォルクスガ-テン	12
第7回講座	(2)インタープリテーション技術の実技	10.16・17（土・日）	西脇市 テラ・ド-ム	13
第8回講座		1.15・16（土・日）	八千代町 なごみの里山都	27
第9回講座	(3)博物館案内の企画・実践	2.26・27（土・日）	加美町 エコミール加美	23
計				91

巡回講座

平成15年度に比べ、開催数（6回 10回）参加者数（143人 289人）が大幅に増加しています。

講座名	内 容	月 日	場 所	参加者数
第7回巡回講座	各サテライトの案内人を目指す人達が、サテライトを巡回し、それぞれのサテライト案内人の案内を聞き、自らの案内技術の向上を図る。	4.4（日）	西脇市周辺 桜めぐり	20
第8回巡回講座		5.23（日）	西脇市内サテライト6カ所	23
第9回巡回講座		6.19（日）	加美町内サテライト7カ所	26
第10回巡回講座		7.25（日）	八千代町内サテライト5カ所	30
第11回巡回講座		8.28（日）	中町内サテライト8カ所	33
第12回巡回講座		9.26（日）	黒田庄町内サテライト6カ所	24
第13回巡回講座		11.23（日）	加美町内サテライト7カ所	22
第14回巡回講座		12.12（日）	西脇市・加美町サテライト3カ所	38
第15回巡回講座		2.13（日）	中町・八千代町サテライト4カ所	33
第16回巡回講座		3.13（日）	八千代町サテライト5カ所	40
計				289

参画と協働の今後の主な取り組み方向

（人材の育成と活用）

養成講座・巡回講座の実施により、住民自らが地域の風土・資源を再認識し、地域づくりの実践者としての意識の醸成を図るとともに、地域を訪れる来訪者に、地域の魅力を解説できる人材の育成が進んでいます。

また、養成講座の修了者により案内人連絡会議「^{てんこもり}田湖森」が設立され、巡回講座の企画・運営などに携わることにより、案内技術の向上を図る機会が得られました。

一般の来訪者に対して案内を行うシステムが整備されていないので、今後、来訪者が気軽に案内を依頼し、地域案内人による案内を受けることができるシステムづくりを行っていきます。

県民交流広場事業（仮称）の推進(新)（県民政策部）

事業概要

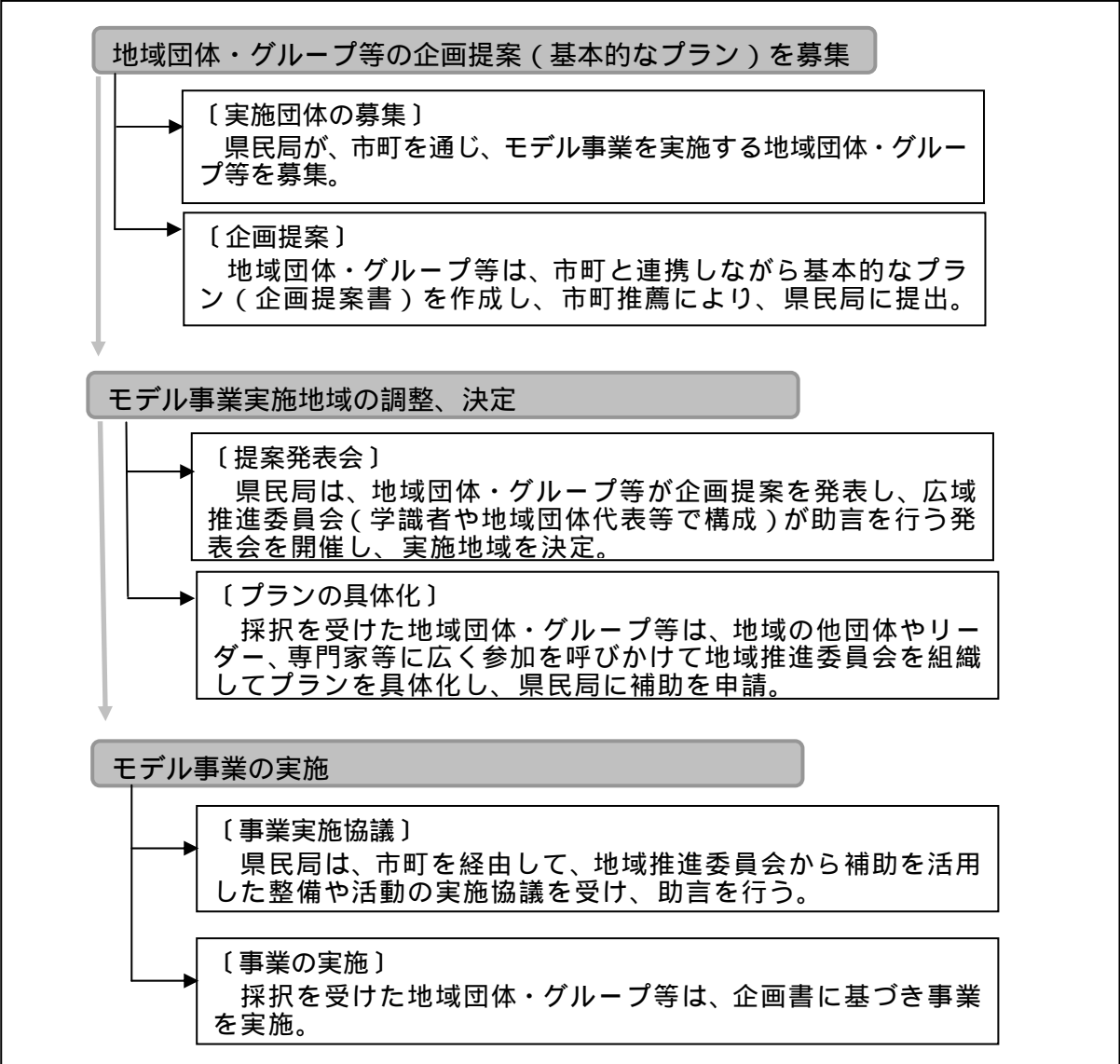
県民一人ひとりが、身近な地域を舞台に、多彩な分野で、実践活動・交流、生涯学習、情報収集・発信等に取り組むことができるよう、地域の主体的な企画提案のもと、身近な活動の場の整備や、広場を活用した地域づくり活動のきっかけや基盤づくりを支援し、参画と協働によるコミュニティの再生・構築をめざします。

16年度は、地域の課題やニーズなどの実情に即した効果的な事業スキームを検討するため、県民局毎に、以下の5タイプから基本となる整備タイプを設定してモデル事業を実施しました。

- 生活図書と学習の広場、 生活情報の広場、 パフォーマンスと活動の広場
- 地域まちかどギャラリー、 地域ふれあいキッチン・工房

参画と協働の方法

16年度モデル事業については、下記のような進め方で、兵庫県（県民政策部、県民局）及び市町が連携して事業を推進しました。



参画と協働の実施状況

16年度モデル事業の概要

- ・実施地区 各県民局 概ね1小学校区
- ・補助内容 整備費 1,000万円以内
活動費 必要に応じて、300万円以内
- ・実施主体 地域推進委員会(自治会、婦人会、老人クラブ、まちづくり協議会などの地域団体や地域内のリーダー等により構成される組織)

整備の基本タイプとモデル事業実施地域

それぞれの地区において、～の各整備タイプを基本とした活動の場の整備を進め、さまざまな活動を実施している。

生活図書と学習の広場 [生活図書室を中心とした学習活動や交流の拠点]	阪神南：芦屋市大原地区 東播磨：稲美町天満南地区
生活情報の広場 [パソコン等を備えた情報室を中心とした地域情報や交流の拠点]	阪神北：宝塚市長尾台地区 淡路：南あわじ市(南淡町)阿万地区
パフォーマンスと活動の広場 [簡易ステージ等の活動フロアを中心とした地域パフォーマンスや交流の拠点]	西播磨：宍粟市(千種町)鷹巣地区 丹波：丹波市(春日町)黒井地区
地域まちかどギャラリー [展示設備を備えたギャラリーを中心とした活動発表や交流の拠点]	中播磨：姫路市太市地区
地域ふれあいキッチン・工房 [調理室や工房を中心とした創作活動や交流の拠点]	神戸：神戸市長田区重池地区 北播磨：多可町(八千代町)大和地区 但馬：新温泉町(浜坂町)久斗山地区 豊岡市奈佐地区

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(事業フレームの確立)

各県民局ごとに、県民参加のワークショップ、市町意見交換会の実施等を通じて、様々な立場の方々のご意見を集約しながら、平成16・17年度に実施しているモデル事業の検証・評価を行い、これを踏まえて、「参画と協働による地域コミュニティの再生・構築」という事業趣旨に合致し、地域の実情に柔軟に対応できる事業のしくみを検討します。

(事業趣旨やイメージの普及啓発)

地域の実情は様々であり、それに伴う課題やニーズも多岐にわたっていることから、地域の主体的な企画提案を基本とし、これに柔軟に対応できる事業としていく必要があるとの意見が多く出されています。そのためには、まず地域の方々に、モデル事業の実例等を通じて、事業趣旨やイメージを理解いただくよう、積極的なPRに努めます。

(継続的な活動への側面支援)

モデル事業での成果や課題を踏まえながら、各地域の継続的な広場運営や活動に向け、広場の担い手の確保方策検討や広場と広場、広場とその支援者のネットワーク化、高齢者の地域づくり活動への参画推進等、側面的支援を検討・展開します。

活動をつなぎ、広げる

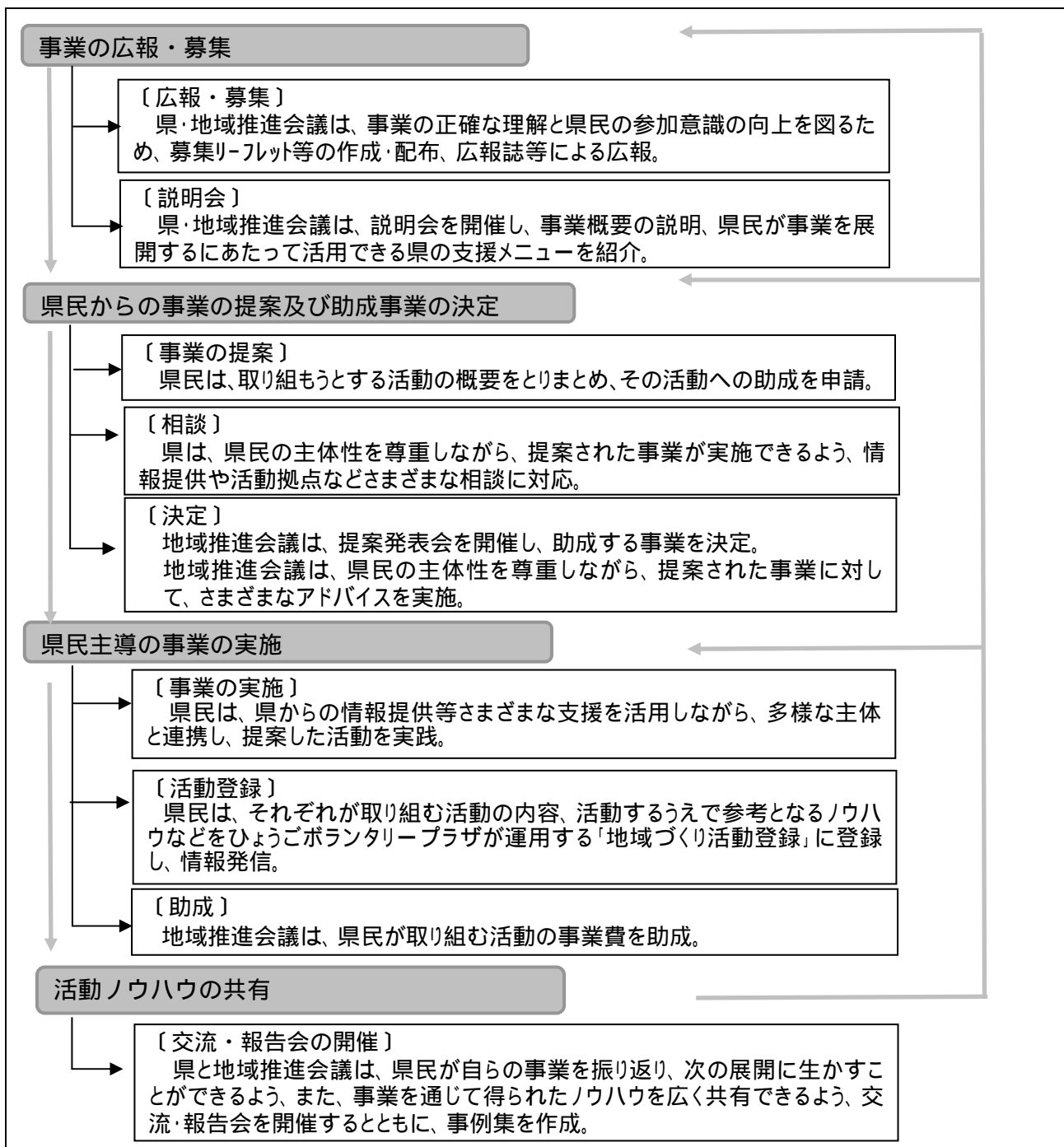
地域づくり活動応援(パワーアップ)事業(県民政策部)

事業概要

地域団体(自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会等)が提案する、地域をよりよくするさまざまな取り組みの企画に対して、県民局単位で助成します。〔助成金額1件あたり50万円以内(中間支援組織である広域団体等(市町域を越える地域団体の連合組織等)による取り組みや市町域を越える活動拠点への支援については、1件あたり100万円以内)各県民局1,000万円を限度とします。〕

なお、事業の実施にあたっては、より地域の主体的な取り組みを推進するため、県民局が、各地域における地域団体のネットワーク組織であるところ豊かな美しい地域推進会議(以下「地域推進会議」という。)に補助し、同会議が募集、助成決定、交流・報告会の開催等を行います。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

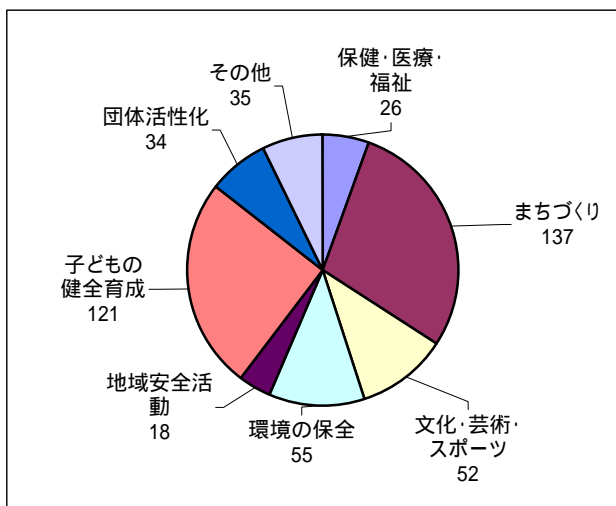
県民局ごとの助成状況

(単位：件、千円)

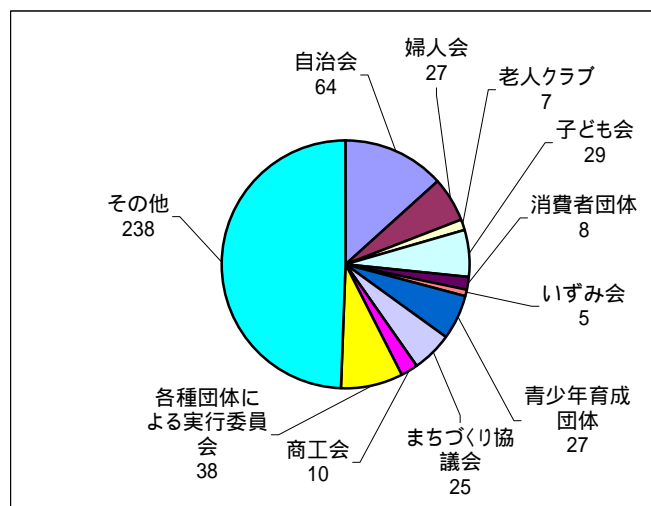
県民局名	応募 件数	助成 件数	助成額	成果及び活動例
神戸	49	48	9,870	<p>青少年の健全育成や安全・安心なまちづくりなど都市部特有の課題に加え、外国人との相互理解を図る事業など、神戸の地域特性に応じた事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気や障害を抱える人、不登校や引きこもりの人などと共に生きる地域社会をめざしたフォーラム開催事業 ・国際理解を図るため、地域で暮らす留学生を生涯教育の場等へ派遣し、文化・歴史等について学ぶ事業
阪神南	78	49	9,972	<p>都市部特有の課題を踏まえた取り組みや地域団体の活性化はもとより、親子・世代間・地域の交流をめざした事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形劇の上演技術の向上を図り、親子で楽しむ人形劇の開催事業 ・「川サミット」を開催し、都市河川の自然保護を啓発するとともに、市民グループの役割について考える事業
阪神北	63	48	10,000	<p>保健・福祉、文化、環境、まちづくりなど幅広い分野で、地域や世代を越えた交流を図る事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミ堆肥化のためのコンポスト作成講習会を行い、家庭から出る生ゴミの減量化を促進する事業 ・「ありがとぅ」の文字で作成される芸術作品を普段は交流のない「高齢者」「障害者」「子どもから大人」が協働で作成することによる協働事業
東播磨	57	54	9,537	<p>まちづくりや環境保全の取り組みについて、平成15年度助成事業の内容や地域を拡大・発展させた事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹炭を使用した河川の水質浄化の実施及びフォーラム・講習会の開催事業 ・地域伝わる「わらべうた」を収集・CD化し、幼稚園・老人ホーム等に配布する事業
北播磨	66	61	9,950	<p>子育て支援、青少年の健全育成、昔遊びによるまちづくりなど多彩な地域課題に応じた事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生にビジネスの模擬体験をさせる経済教育事業 ・JR加古川線の電化開通を記念したイベント及び乗車促進キャンペーン事業
中播磨	57	47	10,000	<p>市部、郡部それぞれの地域課題に応じ、歴史や自然を生かした事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城下町として賑わった地域の歴史探訪や町づくり講座の開催、史跡説明版設置等による歴史を生かしたまちづくり事業 ・小学校の廃校跡の活用方法について、地域住民が交流しながら検討するとともに、地域行事や観光資源を活用し地域の活性化を図る事業
西播磨	39	38	9,750	<p>地域の自然・文化・伝統等の地域資源を活用した多彩な事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作業などの体験を経て郷土料理の講習を行い、子どもたちに地元産食材のすばらしさの理解を促す事業 ・演奏機会の少ない町の音楽家や高校生、大学生等が相互に協力し、町を挙げて実施する音楽祭開催事業
但馬	62	54	9,690	<p>豊かな自然環境の保全や伝統文化等の地域資源を活用した地域づくり活動が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空家を利用した修理体験や交流イベントによるコミュニティ形成事業 ・重要有形民俗文化財である農村舞台における農村歌舞伎の練習、公演を通じた村づくり事業
丹波	47	42	9,510	<p>都市と農村の交流をはじめ、森林や河川等の自然を活用した交流基盤の形成を図る事業が多く展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放置されている湧き水を再生し、「湧き水を再生した森遊びの砦」として整備する事業 ・農産物の生育・収穫体験と交流イベントによる都市・農村交流事業

淡路	42	37	9,989	子育て支援、障害者福祉、環境保全等の多彩な分野で、他の地域のモデルとなり得る事業が展開された。 ・空ペットボトルの活用など環境面も考慮して市街地をライトアップする街の装飾事業 ・地域文化である人形浄瑠璃、雑俳等を集大成した記念誌の発行と住民への普及・交流事業
合計	560	478	98,268	

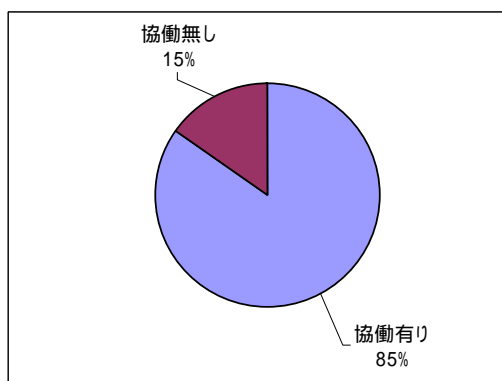
助成した団体の活動分野別内訳 (団体数)



助成した団体の属性別内訳 (団体数)



助成した団体の協働の状況



助成した団体の活動内容の内訳

活動内容の区分	平成15年度(初年度)		平成16年度	
	団体数	構成比(%)	団体数	構成比(%)
新たな取り組み(他の団体との協働の場合を含む)	277	54.7	129	27.0
平成15年度助成事業のさらなる展開を図る事業			151	31.6
平成14年度以前から実施している活動に新たな工夫を加えた事業	219	43.3	198	41.4
中断していた活動をパワーアップ事業を契機に復活した取り組み	10	2.0		
合計	506	100.0	478	100.0

広域活動枠事業の状況

地域	(団体数)										計
	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	
件数	11	2	2	0	2	4	3	5	5	3	37

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(広域的な活動への支援)

平成15年度に開始した本事業が、地域の課題を自ら見つけ出し、自ら解決しようとする活動の一つの契機となりました。

このため、「地域づくり活動支援指針」において、地域づくり活動の支援にあたっての県の役割は、広域課題への対応を基本とし中間支援組織である広域団体への支援を図ることとしており、このような考え方に基づいて、「広域活動枠」を創設し、助成限度額を優遇しましたが、助成件数は37件(7.7%)にとどまりました。

今後は、地域づくり活動サポーターによる指導・助言を行うことにより広域活動枠の活用を促進するなど、広域的な活動への支援を進めていくこととします。

(ネットワーク化への支援)

協働の取り組みの多くは地域団体相互の協働による取り組みでしたが、地域団体がグループやNPOと協働した取り組みや地域団体が各種専門家と協働した取り組みなど今までになかったネットワークづくりも多く見受けられました。

今後、地域団体とグループ、NPO、企業といった多様な団体による協働の取り組みが、一層多彩に展開されて、ネットワーク化による効果が図られるよう、地域づくり活動サポーターによる相談・助言等の支援を展開していきます。

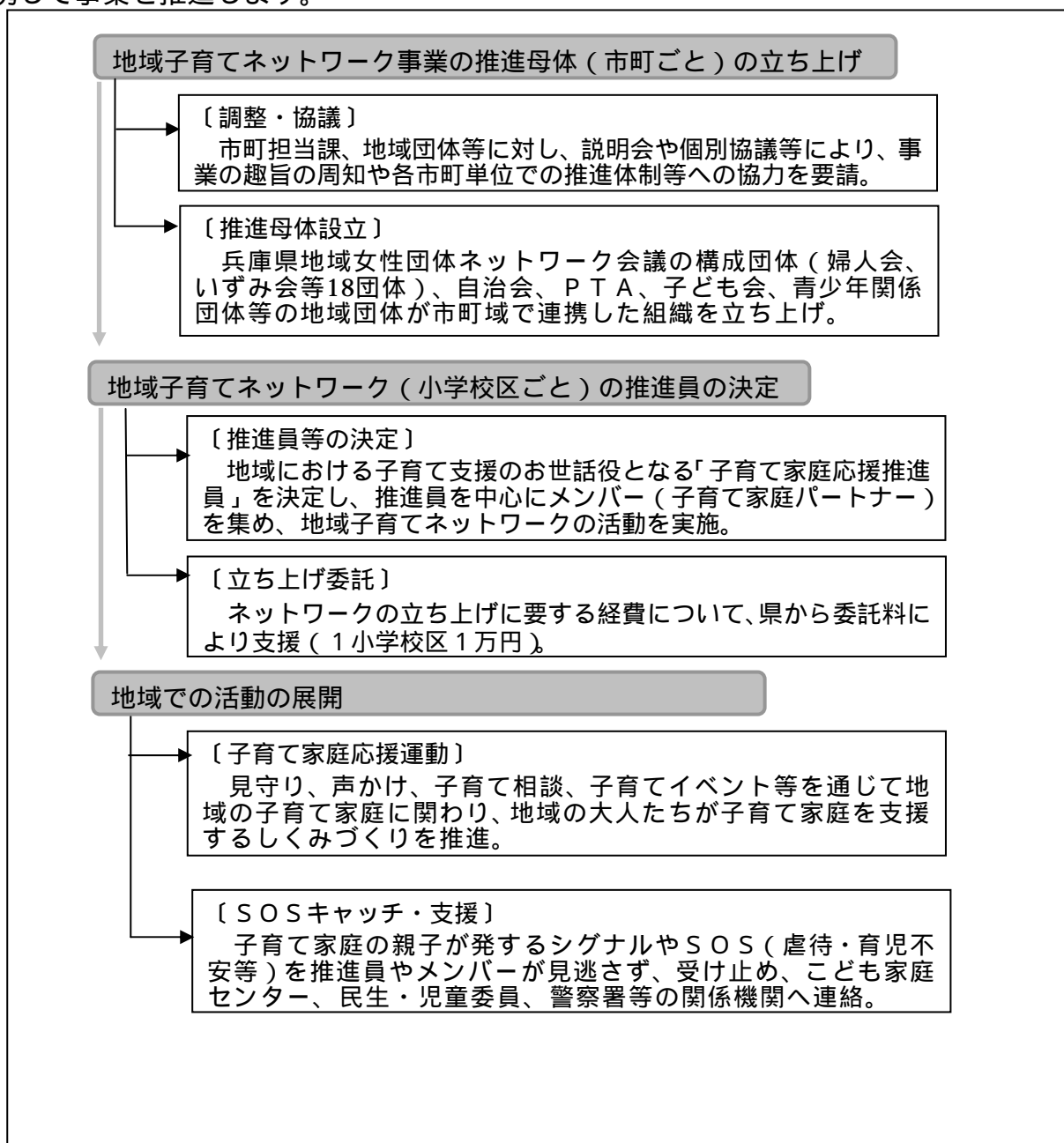
'子育て応援ネット'(地域子育てネットワーク事業)(新)(県民政策部)

事業概要

地域を舞台に、県民、団体、事業者等が協働して、地域ぐるみで子育て家庭を応援する環境をつくるため、地域の団体や住民がネットワークを組み、子育て家庭への見守りや声かけ、子育て相談などを行う子育て家庭応援運動を展開するとともに、その中で、虐待や問題行動等のシグナルやSOSを見逃さずにキャッチし、関係機関に連絡すること等の子育て家庭応援の活動を全県的に推進します。

参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルに、兵庫県(県民政策部、県民局)市町、地域団体等が連携して事業を推進します。



参画と協働の実施状況

地域子育てネットワークの設立状況

身近な地域を舞台に、兵庫県地域女性団体ネットワーク会議の構成団体（婦人会、消費者団体、いずみ会などの18団体〔下表参照〕）、自治会、子ども会、青少年関係団体、PTA等の地域の団体などがネットワークを組み、子育て家庭を支援しています。

平成17年3月末現在、下記の38市町で489のネットワークが立ち上がり、活動が展開されています。

神戸市、尼崎市、芦屋市、宝塚市、川西市、猪名川町、高砂市、稲美町、播磨町、西脇市、小野市、社町、滝野町、東条町、中町、加美町、姫路市、家島町、夢前町、神崎町、市川町、福崎町、香寺町、大河内町、赤穂市、新宮町、揖保川町、上郡町、竹野町、香住町、美方町、浜坂町、温泉町、朝来町、篠山市、丹波市、東浦町、南あわじ市

兵庫県地域女性団体ネットワーク会議（18団体で構成）

兵庫県連合婦人会、神戸市婦人団体協議会（神戸市消費者協会）、兵庫県消費者団体連絡協議会、兵庫県生活学校連絡会、兵庫県交通安全協会婦人部連絡協議会、兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会、兵庫県いずみ会、兵庫県愛育連合会、兵庫県民生委員児童委員連合会、兵庫県更生保護女性連盟、兵庫県老人クラブ連合会、兵庫県婦人共励会、神戸市母子福祉たちばな会、兵庫県商工会女性部連合会、兵庫県J A女性協議会、兵庫県生活研究グループ連絡協議会、兵庫県女性農漁業士会、兵庫県漁協女性部連合会

推進員等の状況

平成17年3月末現在、子育て家庭応援推進員として、950人の方にネットワークのお世話役となっていただき、メンバー（子育て家庭パートナー）を集め、活動していただいています。

取り組み例

各地の推進母体では、平素から子育て家庭に対する見守り、声かけ、子育て相談などを行うとともに、地域の実情に応じた特色ある取り組みを行っています。

（16年度の取り組み例）

- ・ 自宅等に「子育て家庭応援運動ステッカー」を掲示するとともに、子育てに関する事業や関係機関を紹介する「子育て家庭応援手帳」や子育て支援に役立つ情報を盛り込んだ「地域子育てネットワークだより」（月1回発行）を活用し、子育て家庭への情報提供や相談への対応
- ・ 登校時に子どもたちに声をかけるおはよう運動の実施
- ・ 親子で参加する料理教室やおにぎりコンクール、人形劇などの子育てイベントの実施
- ・ 小中学校のオープンスクールへの参加
- ・ 登下校時に子どもたちを見守るパトロールの実施
- ・ 子育てのチラシの各戸配布やポスターの掲示

等

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(全市町でのネットワークの立ち上げ)

平成16年度に引き続き、市町や地域団体等との調整を行い、県内全市町全小学校区でのネットワークの立ち上げを進めていきます。

(参加団体や参加者を増やし、裾野の拡大)

推進母体は、地域の状況に応じ、様々な地域団体等が連携した形となっています。

今後、その参加団体や参加者等を増やし、活動の裾野を拡げ、子育て家庭への支援の輪が一層大きくなるよう、市町や推進母体等との連携を進めていきます。

(活動の地域への定着)

16年度から各地で始まりつつあるネットワークの取り組みを、より地域に根ざしたものとする必要があることから、県の広報媒体等を活用し、各地域のネットワークの活動状況等の積極的なPRを進め、事業の趣旨をより多くの県民に広めていきます。

また、引き続き、活動の一層の広がりや活発化を図っていくため、「地域子育てネットワークだより」や「子育て家庭応援手帳」を充実させ、作成・配布していきます。

(活動の一層の展開)

市町ごとに、地域の実情に応じたネットワークの取り組みが進んでいる状況を踏まえ、すでに立ち上がっている推進母体等の子育て家庭の応援活動について、今後、一層の展開が図られるよう、推進母体(地域団体等)市町への働きかけを行っていきます。

また、子育て支援者間の交流、情報交換や研修等を一層図っていく必要があることから、各地域でネットワーク交流大会等を開催します。

さらに、立ち上がったネットワークの活動が、地域に定着し、将来にわたって継続した取り組みへと発展していくよう、活動経費に対する助成を行います。

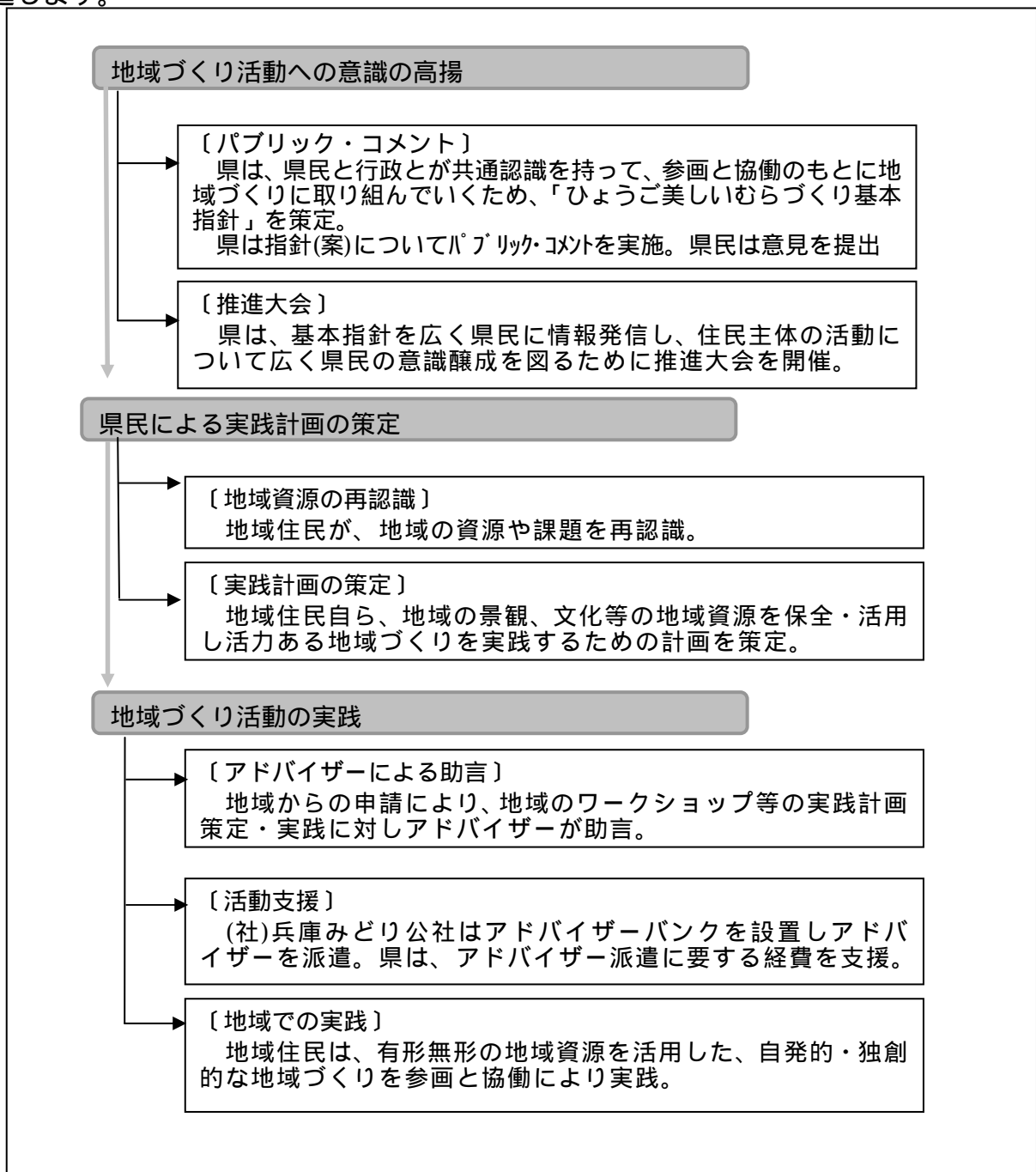
ひょうご美しいむらづくり推進事業(新) (農林水産部)

事業概要

本県の多様な地域特性や多彩な地域資源を再認識し、住民が主体となり地域固有の美しい景観や伝統的文化等を活用した魅力ある地域づくりを全県的に展開し、愛着と誇りを持った活力ある農山漁村づくりを推進します。

参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルに、兵庫県(農林水産部、農林(水産)振興事務所、農業改良普及センター、土地改良事務所)及び(社)兵庫みどり公社が連携して事業を推進します。



参画と協働の実施状況

推進大会の開催

地域資源を活用した住民主体の地域づくりを広く県民に周知し、取り組みについて動機づける「推進大会」を農山漁村集落代表、地域活動リーダー、行政関係者等640名の参加により開催しました。

アドバイザー登録数、実践活動実施集落数等（H17.3.31現在）

地域の実践活動への助言のため、住民から申請のあった29集落に対してアドバイザーを派遣し、ワークショップの開催等、各集落の取り組み状況に応じた助言活動を行いました。

実践集落では、地域を再点検し地域の魅力を再発見するもの、地域内のため池などの水辺空間の活用を図るもの、自然再生への取り組みとしての地域景観づくり、環境にやさしい営農の推進など、地域の特色を生かした取り組みが住民主体により展開されました。

項 目	実 績
実践活動実施集落数	29 集落
アドバイザー登録数	45 人



（推進大会の開催）



（実践活動でのアドバイザー助言）

参画と協働の今後の主な取り組み方向

（地域に対する普及啓発の継続）

住民の参画と協働による地域資源を活用した地域づくりの意義を積極的に啓発し、住民主体の取り組みを全県的に展開していきます。

平成16年度は29集落にアドバイザーを派遣しましたが、取り組みが県下各地に広がるよう各種広報媒体による啓発のほか、地域との積極的な連絡・相談等により、新たな集落が実践を開始するよう住民の意識を高めていきます。

また、多様な地域の要望に対応するためアドバイザーの充実など地域支援体制の充実を図ります。

（実践活動の向上・拡大へのしくみづくり）

地域づくり活動の継続的、発展的実践のため、実践計画の点検や地域のめざす姿のチェックを住民自らが継続的に行い、取り組み内容の向上を図ります。

住民自らが描く地域のめざす姿に対し、必要に応じ関連施策を実施するなど行政も支援を行います。

実践地区の意識の高揚や、内容の向上に繋げる活動発表の場の創設や、情報発信による他地域との連携について検討していきます。

阪神・淡路大震災 10 周年記念事業の推進(新) (企画管理部)

事業概要

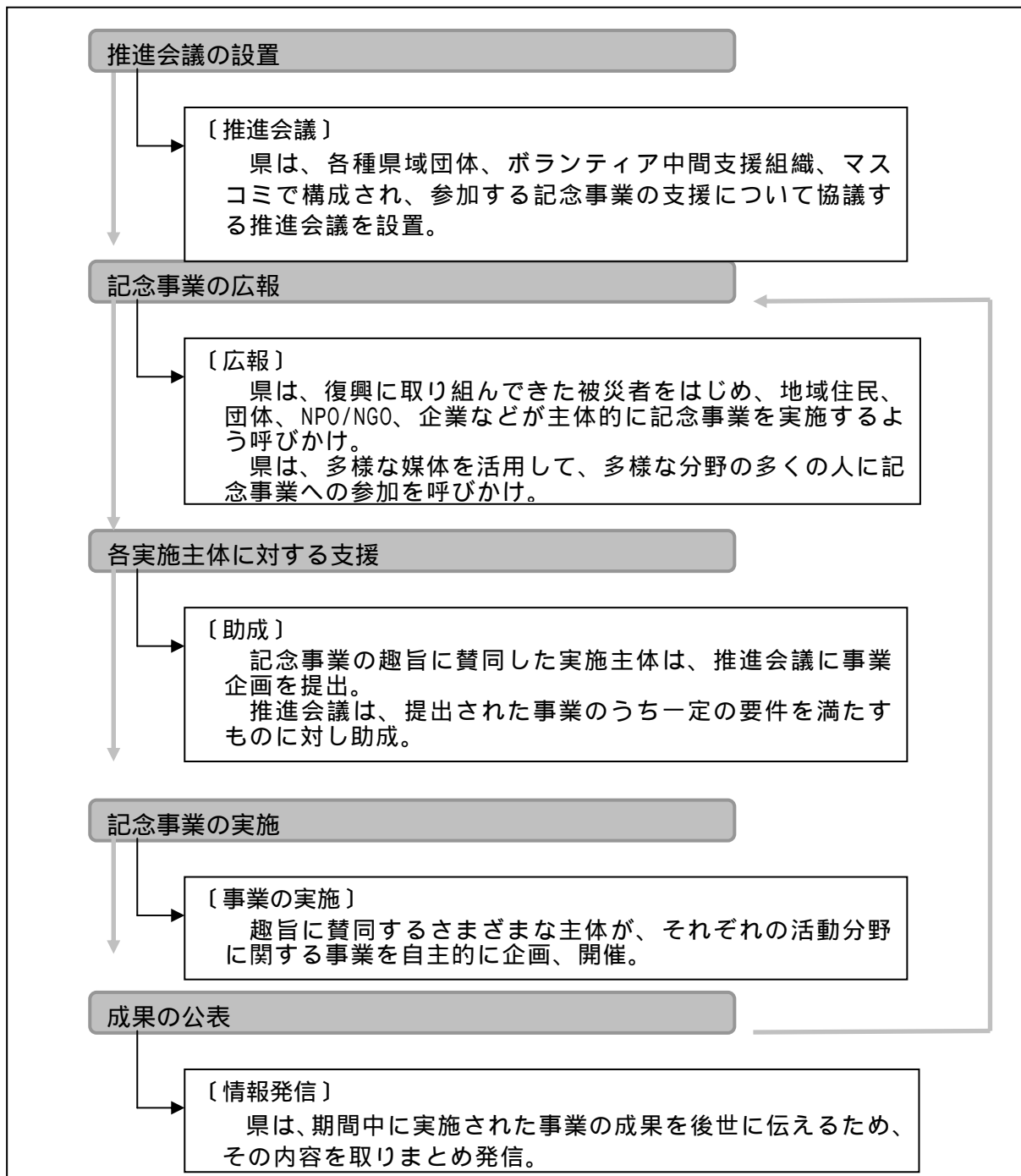
阪神・淡路大震災から 10 年の節目を迎え、これまでの創造的復興の歩みを振り返り、その成果を確認し、支援や励ましへの感謝の気持ちを表すとともに、未来へのステップを踏み出すため、被災地が一体となって、阪神・淡路大震災 10 周年記念事業を展開します。

テ ー マ：「1.17 は忘れない」

開催期間：平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月

開催場所：原則として、被災地内（12 市 1 町）

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

推進会議の開催状況

	開催日	協議内容
設立総会	平成15年12月11日 (木)	推進会議規約決定、役員選出、記念事業開催の意義と事業内容、記念事業の推進方針
第2回総会	平成16年3月26日 (金)	阪神・淡路大震災10周年記念事業実施計画、平成16年度事業計画、平成16年度収支予算
第3回総会	平成17年3月28日 (月)	平成16年度事業報告、平成16年度補正予算 平成17年度事業計画、平成17年度収支予算

記念事業数（平成17年3月末現在）

（助成事業）

共同企画事業：県・関係県民局・被災市町が参画する実行委員会が実施する事業

自主企画事業：各種団体・グループ・NPO/NGO等が自主的に企画、開催する事業

（届出事業）

記念事業の趣旨に賛同し、実施を届け出た各種団体による事業

	共同企画事業	自主企画事業	その他届出事業	合計
神戸市	157	349	108	614
阪神南地域	34	52	69	155
阪神北地域	6	19	8	33
東播磨地域	8	7	5	20
北播磨地域	2	4	0	6
淡路地域	23	5	25	53
その他	11	18	21	50
合計	241	454	236	931

助成状況

助成予定件数 695件

助成予算総額 約1,900百万円（2ヶ年度）

各事業の内容・実施報告について発信

パンフレット・ポスターの作成

広報資材等の作成

「記念事業かわら版」の作成

インターネットを活用した情報発信 等

参画と協働の今後の主な取り組み方向

事業趣旨が浸透し、県民主体の自主企画事業が65%を占めるといった成果があったので、引き続き記念事業への参画を呼びかけます。

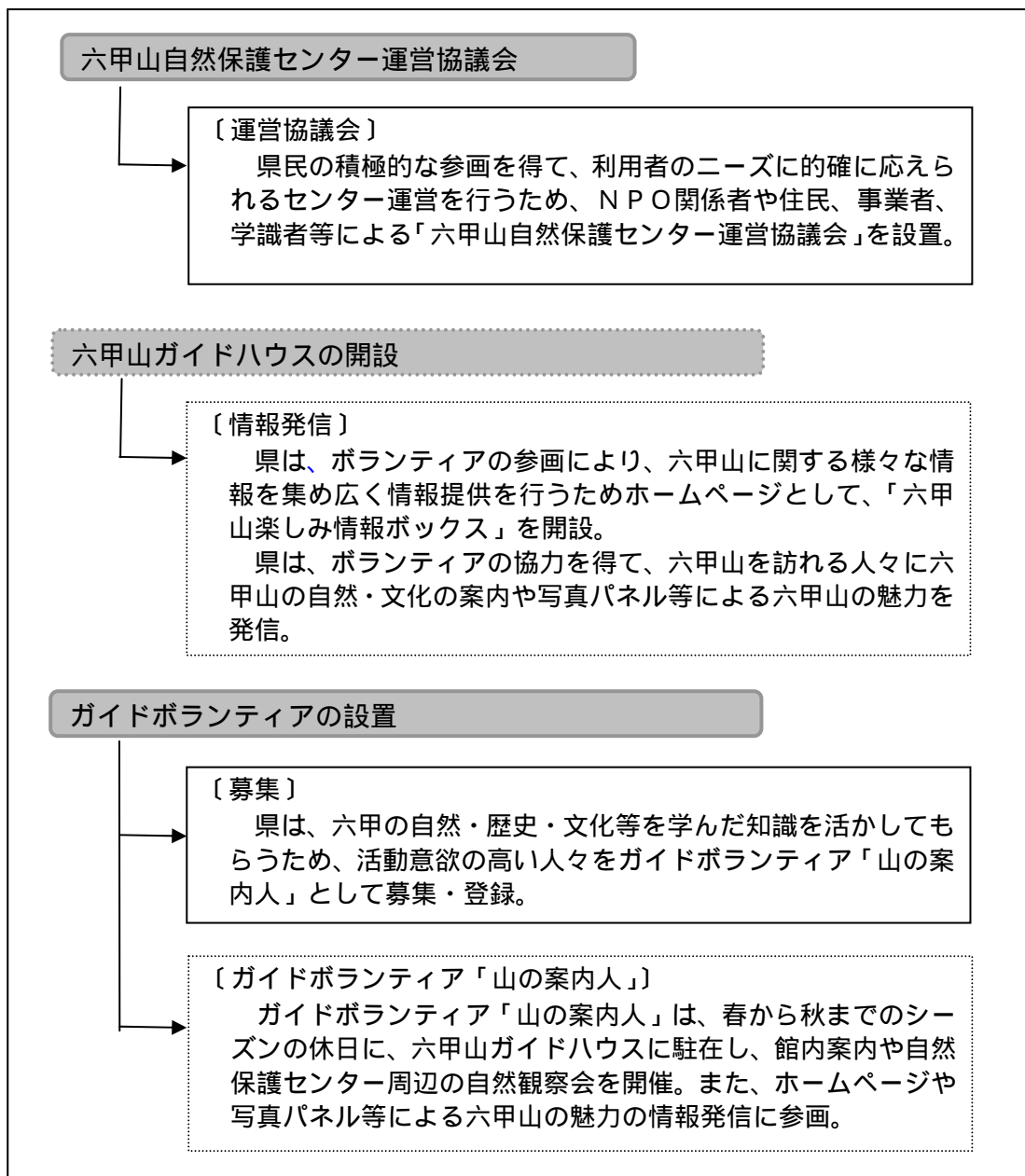
六甲山自然保護センターの機能強化(六甲山活性化の推進) (神戸県民局)

事業概要

多様な地域資源を横断的に活かし、六甲山を人と自然との共生のシンボルとして、環境の保全と創造のもとで、都市と農村が交流した神戸らしい循環社会と賑わいのある都市生活の実現を推進します。そこで、六甲山自然保護センターが六甲山の活動拠点、情報発信拠点となるよう機能強化を図ります。

参画と協働の方法

都市に近接し交通至便の地ながら豊かな自然に恵まれている六甲山の活性化に資するよう、インフォメーション機能を持つ「六甲山ガイドハウス」を開設します。あわせて、県民の主体的な参画を得て、公園利用者への案内や自然観察会、六甲山に関する様々な情報の提供等を行うなど、同センターの機能強化を図ります。



参画と協働の実施状況

県立六甲山自然保護センター分館として、六甲山のインフォメーションセンター機能を持つ六甲山ガイドハウスを平成17年4月29日にオープンすることとし、オープン後の施設が積極的に県民に活用いただけるよう次の取り組み等を行いました。

六甲山ガイドハウスの開設準備

六甲山ガイドハウスでは、春から秋までのシーズンの休日に、ガイドボランティア「山の案内人」が駐在し、施設の案内や自然保護センター周辺の自然観察会を実施するほか、ホームページや写真パネル等によって六甲山の魅力の情報発信を行うこととしました。

「六甲山自然保護センター運営協議会」の設置

県立六甲山自然保護センターに関し、県民の主体的な参画を得て、六甲山の活性化に資するよう有効かつ円滑な運営を図るため、NPO関係者、住民、事業者、学識者等による「六甲山自然保護センター運営協議会」を設置しました。

第1回運営協議会 開催日：平成17年2月10日

委員：16人

ガイドボランティア「山の案内人」の募集

六甲の自然・歴史・文化等を学んだ知識を活かしてもらうため、活動意欲の高い人々を募集・登録し、ガイドボランティア「山の案内人」として、館内案内をはじめとした案内や自然観察会を行ってもらうこととしました。

登録人数：57人

「六甲山楽しみ情報ボックス」の開設

ボランティアの参画により、六甲山に関する様々な情報を集め広く情報提供を行うためホームページとして、「六甲山楽しみ情報ボックス」を開設しました。

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(取り組みの継続に向けた支援)

六甲山自然保護センター及び六甲山ガイドハウスの運営方針については、設置主体である兵庫県に加え、関係行政機関、住民、活動団体、事業者、学識経験者で構成する「六甲山自然保護センター運営協議会」において協議されるなど、様々な主体が一体となって取り組む体制が整備されたことが画期的でした。そこで、平成17年度においては、この協議会を活用して、運営方法についての様々な提案を受け、さらに利用者の立場に立った運営を進めます。

また、活動意欲の高い人々からなる「山の案内人」については、六甲山ガイドハウスに駐在し、案内や自然観察会を実施するなど、県立六甲山自然保護センターのビジターセンター機能の充実に大きな役割を果たしていただきます。

こうした取り組みを通じて六甲山活性化に向けた県民の主体的な取り組みをさらに進めていきます。

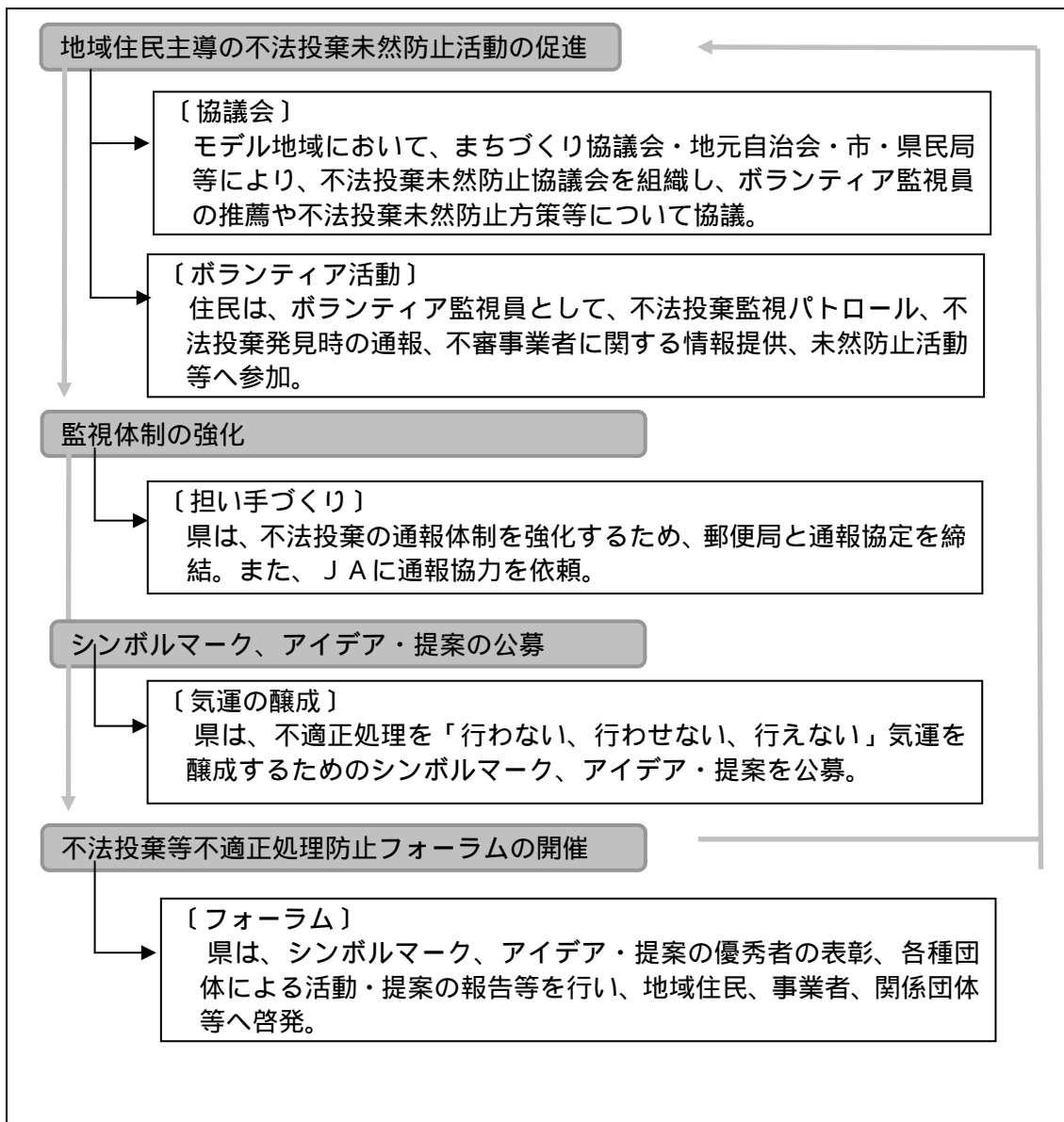
地域環境力の向上による廃棄物不適正処理未然防止対策の推進（阪神北県民局）

事業概要

阪神北地域は都市近郊の自然に恵まれているものの、大都市圏の後背地に位置していることから、廃棄物の不適正処理事案が多発しており、その未然防止対策の強化が求められています。そのため、地域住民、企業、NPO等の様々な主体が一体となって「地域環境力」を高め、廃棄物不適正処理の未然防止に取り組みます。

地域環境力：地域全体でより良い環境を創造しようと取り組む意識や能力

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

地域住民主導の未然防止活動の促進

宝塚市西谷地区をモデル地域として、「宝塚市西谷地区不法投棄未然防止協議会」を立ち上げました。

(活動内容)

協議会、地域住民による合同パトロール
住民ボランティア監視員の登録
不法投棄防止啓発看板、不法投棄防止フェンス等の設置



(合同パトロール)

郵便局、JAとの通報体制の整備

外務職員が配達途上などで不法投棄を発見した場合に県に情報提供をいただきました。

シンボルマーク等の応募状況

- ・シンボルマークの応募数 308件
- ・不法投棄防止のためのアイデア・提案件数 39件

不法投棄未然防止フォーラムの開催

県民、廃棄物処理業者等250名の参加のもと、不法投棄未然防止フォーラムを開催しました。公募したシンボルマークなどの優秀作品の表彰、廃棄物処理対策の事例発表、廃棄物処理対策に関する演劇や講演を行いました。



(シンボルマーク最優秀賞作品)



(フォーラムの開催状況)

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(活動の地域への定着)

モデル地域において、住民によるパトロールやハイキングを楽しみながらごみ拾いを行うクリーンハイキングなどを行い、不法投棄未然防止活動の地域への定着を図ります。

また、クリーンハイキングには都市域の住民の参加を呼びかけ、より多くの県民の不法投棄未然防止活動への意識が高まるよう努めます。

(活動の地域の拡大)

モデル事業地域の活動をふまえ、その成果や課題を生かしながら地域住民の活動支援地域を拡大します。

さらに、住民だけではなく、廃棄物処理業者や建設業者からの不法投棄物除去機材の提供や、企業の住民パトロールへの参加などの事業者の地域活動への参画を促し、地域全体としての廃棄物不適正処理未然防止活動を促進します。

参画と協働の実施状況

いなみ野パールプロジェクト

東播磨地域の固有種・ドブガイによる淡水真珠 いなみ野パールづくりの可能性を探るもので、行政とため池管理者・地域住民が力をあわせて放流・メンテナンスを行いながら実証実験を続けています。

- ・実施場所：西中下の池（加古川市） 阿弥陀新池（高砂市） 琴池新池（稲美町） 大池（播磨町）

「ため池協議会」の設置・運営支援

ため池管理者や地域住民が、各ため池などの維持管理・利活用に主体的・自律的に取り組んでいくための組織である『ため池協議会』を設置・運営するため、瓦版づくり、アンケート、地域集会、研修会、ワークショップ、イベントなどの取り組みを地域主導・住民主役で展開しています。

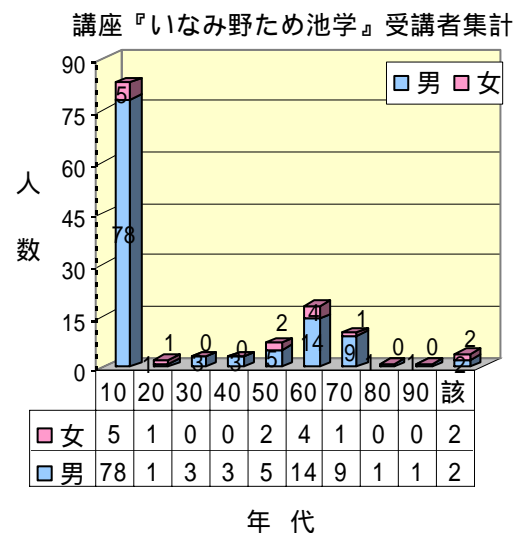
- ・ため池協議会設立（29）：【明石市】釜谷池ため池協議会、西島ため池協議会、黒星池ため池協議会 【加古川市】峠池を考える会、寺田池を語る会、寺田池協議会、野田池なかよしの会、神野21C水辺リフレッシュ推進協議会、野村池友の会、西牧ため池協議会、ながいけの会、皿池の未来を考える会、志方ノ上・中・下の池ミュージアム協議会、レイボープラン水足ため池に親しむ会 【高砂市】堂池ため池協議会、阿弥陀新池ため池協議会、魚橋鴻ノ池ため池協議会、私池ため池協議会 【稲美町】アサザを育む会、内ヶ池ため池協議会、和田新池公園協議会、梶ヶ池ため池協議会、おにおいたため池協議会、竜ヶ池につどう会、葡萄園池ため池協議会、後池・天井池につどう会、加古の池を愛する会、琴池を愛する会 【播磨町】かがやきの北池コミュニティ

講座『いなみ野ため池学』第2期の開設

ミュージアムに関連する各分野での専門的人材の発掘・育成を図るため、水辺を活かしたまちづくり講座を兵庫大学の正規カリキュラムとして開設しました。

- ・開設場所：兵庫大学
- ・内容：座学11回、フィールドワーク1回
- ・参加者：一般聴講生72名(高校生23名)、兵庫大学生60名

計132名
（一般聴講生のうち修了者：57名）



『いなみ野ため池塾（仮称）』試行

講座『いなみ野ため池学』第1期の受講生に、フィールドワークを中心としたプログラムを提供。約50名が自ら設定した課題研究に取り組み、ミュージアム活動推進の核となる“塾”設立をめざした新たな芽が誕生しました。

草の根講座の開設

管内の各市町で、市民グループ等が主催するため池を学ぶ、7つの“連続講座”（延べ約50講座）が開設され、延べ約2,000名が受講しました。

講座名	実施主体（主なもの）	特 色
水辺の達人養成講座	水辺に学ぶプロジェクト	全般（フィールドワーク中心）
あかし楽講座	明石の自然とまちづくりネット	自然環境（座学中心）
ため池楽校「水質管理セミナー」	播磨町消費者協会	水質（座学中心）
水質ササ隊	播磨町水利組合連絡協議会	水質（フィールドワーク中心）
いなみ野ため池楽校	播磨ウェットランドリサーチ	自然環境（中・高生対象）
あかし・ため池楽校	スポーツクラブ 21 大久保南	自然環境（小学生対象）
くらしと自然の関わりを考える	加古川北公民館	全般

水辺の魅力・再発見リレーイベント～いなみ野ため池ミュージアムの創設をめざして～の開催

ため池などの水辺空間を地域みんなで守り育てていく気運を高めるとともに、『いなみ野ため池ミュージアム』創設に向けた活動の輪を大きく広げていくため、毎週末に東播磨地域のどこかの水辺空間において地域主導・住民主役の個性的なイベントを開催しました。

- ・実施回数：104回
- ・開催場所：603のため池を中心とした東播磨地域の水辺空間
- ・参加者数：約10,000人

（地域別開催状況）

地 域	合 計
明石市	23
加古川市	33
高砂市	15
稲美町	25
播磨町	15
その他	8
合 計	119

（内容別実施状況）

項 目	回 数
ウォーキング	8
自然観察	29
文化学習	8
フォーラム	7
ふれあい交流	11
クリーンキャンペーン	24
その他	17
合 計	104

（複数市町で同時開催した場合は、重複して計上）

ホームページの運営・管理

平成15年度に開設したホームページ『ため池王国・東播磨の挑戦～新たな地域づくり「いなみ野ため池ミュージアム」の創設をめざして』の運営管理を行うとともに、将来の「いなみ野ため池ミュージアム・パル博物館（仮称）」を見据えながら質的な充実を図りました。平成17年3月31日現在、19,140人が閲覧されました。

ため池 魅力・イメージアップ 事業の展開

東播磨に位置するため池や水路等の魅力・イメージアップを図るとともに、それを地域内外に広くアピールするため、「いなみ野ため池ミュージアム」や「ため池や水路」などのシンボルマーク 利活用アイデア 写真を広く内外に募集しました。

項目	応募状況
みんなで進めよう～“いなみ野ため池ミュージアム”シンボルマーク募集	95点(うちジャンル78点)
もっと愛され親しまれる“ため池活用術”アイデア募集	44点(うちジャンル30点)
パトナルミュージアム/“ため池自慢”フォトギャラリー・展示作品募集	19人29点

地域の水辺空間を活用した多様な活動を“地域主導・住民主役”で行うことにより、地域のため池等の価値や魅力を再発見し、地域への愛着や誇りが生まれつつあるとともに、伝統文化の継承と新しい文化の創造ができています。また、地域住民の郷土意識や連帯意識の高揚により、地域の活力をうみだすことにつながっています。

東播磨地域のみならず、隣接する地域、県内各地・他府県の住民の参加も多く、地場産業振興や観光客誘致など経済的波及効果がみられます。

また、マスメディアに頻繁に取りあげられ、地域の知名度・イメージアップに貢献しています。近隣府県からの視察も多く、地域づくりの取り組み例として注目されています。

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(多様な主体のネットワーク化への支援)

地域のみんなでため池を守り活用し、それを核に魅力ある地域づくりを進めていこうとする「ため池協議会」が次々と設立。加えて、水辺の保全・活用に係る研究や実践活動を広域的に繰り広げていこうとするグループが生まれてきています。また、これまでから東播磨の水辺の調査研究や普及啓発に取り組んできた学識者・専門家集団の活動もより活発になってきています。

今後は、こうした多様な主体が連携・協力を図りながら、さらに充実した住民主役・地域主導の活動が繰り広げられるよう、ネットワーク化に力を注いでいきます。あわせて、個々のグループの個性や特徴を尊重しつつも、統一的なコンセプトのもと、いなみ野ため池ミュージアムの創設に向けた取り組みが展開できるような仕組みづくりにも努めていきます。

これらのことに重点をおいて、ミュージアム創設プロジェクトを多彩に展開し、持続的発展可能な運営組織の創設をめざしていきます。

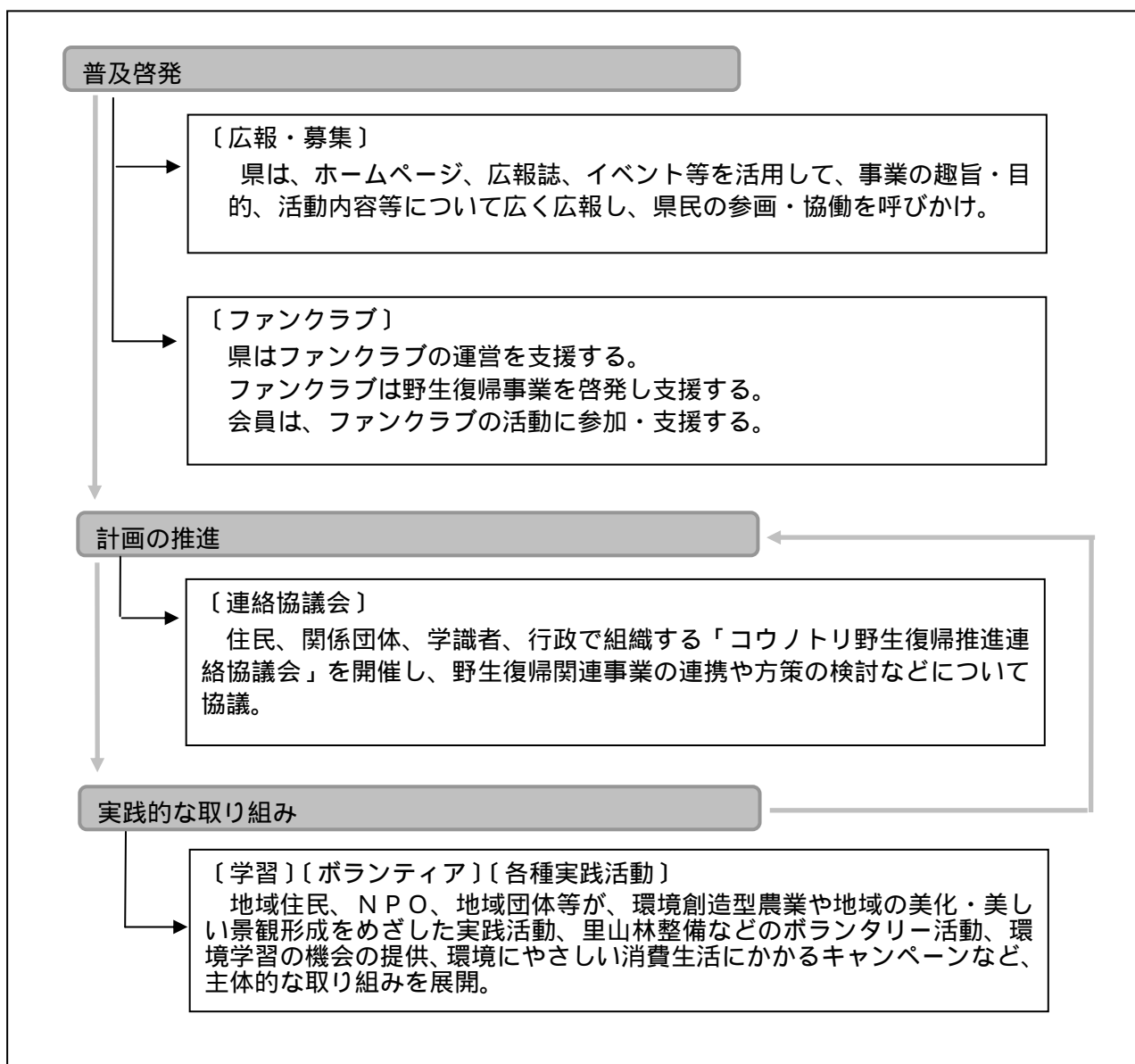
コウノトリと共生する地域づくりの推進（但馬県民局）

事業概要

昭和 46 年に、国内の野生コウノトリが但馬地域を最後に姿を消して以来、30 余年が経過する中、地域あげての保護・増殖の取り組みにより、現在、県立コウノトリの郷公園において 100 羽を超えるコウノトリを飼育するに至っています。

このような状況下、平成 17 年 9 月の自然放鳥に始まるコウノトリの野生復帰に向け、平成 15 年 3 月に「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定し、平成 15 年 7 月には、この計画の具体の推進に向けて、住民、関係団体、学識者、国・県・市町の行政で組織する「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を設置し、コウノトリと共生する地域づくりを推進します。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

(1) コウノトリ野生復帰推進連絡協議会の開催状況

- ・住民、関係団体、学識者、行政で組織する「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を開催し、野生復帰関連事業の連携や方策の検討などについて官民協働による事業の総合的な推進を図っています。

時期	内容
平成16年9月	「第3回コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」開催
平成17年3月	「第4回コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」開催

- ・コウノトリの野生復帰の取り組みに、より県民の理解を得るため、「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を公開し議事概要をHPに掲載しています。
- ・関係団体の具体的事業・活動を「コウノトリ野生復帰推進事業・活動一覧」としてとりまとめ、住民の参画と協働によるコウノトリと共生する地域づくりの普及啓発に努めました。

(2) コウノトリファンクラブの設立

- ・コウノトリの野生復帰の取り組みに地域内外の理解と参加を得るため、平成16年12月にコウノトリファンクラブを設立し、会員を募集しました。
- ・平成17年3月末会員数
一般会員 648人 賛助会員33人

(3) 住民参加による具体的な取り組み

	内容	実施時期、実施回数	参加者数
転作田のビオトープ化・常時湛水稲作等環境創造型農業の推進	野生復帰を推進する上で大きな課題は、餌場の確保である。農家の理解と協力を得て、転作田のビオトープ化や常時湛水稲作、有機栽培農法等の環境創造型農業の促進を図り田園の餌場としての機能を確保している。	H15 7.9ha	94人
		H16 12.8ha	94人
ボランティアによる里山林整備	かつてのコウノトリの営巣地において営巣木を再生するため、森林ボランティアによる林間歩道・松林等を整備している。	H15 5回	177人
		H16 6回	149人
花いっぱい事業	コウノトリの郷公園周辺の地域住民が主体となって「花のあるまちづくり」を進め美しい風景、生活環境の整備を図っている。	H15 4地区	156人
		H16 4地区	156人
クリーン但馬5万人大作戦	地域住民がより一層クリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬をアメニティに富んだ地域とするため、毎年、但馬全域の住民が参加する美化活動「クリーン但馬5万人大作戦」を実施している。	H15 36日	H15 69千人
		H16 38日	H16 68千人
田んぼの学校等	NPOのコウノトリ市民研究所では、生き物調査を通じて子供たちの環境に対する意識を高め、自分たちの生活環境を見直す、田んぼの学校等を実施している。	H15 12回	H15 1000人
		H16 12回	H16 1000人
環境にやさしい消費生活の促進	但馬地区消費者団体連絡協議会では、「環境にやさしい消費生活」を推進するため買い物袋持参運動をはじめとする「環境にやさしい買い物運動キャンペーン」を実施している。	H15 5回	H15 1134人
		H16 5回	H16 953人

平成16年度は、台風23号の影響により里山林整備などで参加人員が減少しました。

参画と協働の今後の主な取り組み方向

（参加の促進）

各団体の取り組みやコウノトリファンクラブの設立により、コウノトリと共生する地域づくりの取り組みに理解と参加が得られつつあります。

9月の自然放鳥に始まるコウノトリの野生復帰に向けて、餌場の確保となる水田のビオトープ化・常時湛水稻作等の環境創造型農業や河川の自然再生、また、営巣木確保のための里山林整備の推進、放鳥後のコウノトリのモニタリングなどについて、より多くの人々の理解と参加が必要となります。

今後、コウノトリ野生復帰推進連絡協議会を中心に関係団体や行政等の連携、また、愛知万博等への出展、コウノトリファンクラブの会員拡大等により事業への理解と参加を促します。

（主体的活動への支援）

住民の多様な取り組みに対応するため、主体的活動への支援の方法を検討していく必要があります。

（コウノトリファンクラブ事業の推進）

平成17年9月の自然放鳥に始まるコウノトリの野生復帰に向けた取り組みを地域住民と行政が一体となって進めているところですが、これらの取り組みの一層の推進を図るため、地域内外の人々に理解と参加を得るためのコウノトリファンクラブ事業を推進します。

あわじ菜の花エコプロジェクトの推進（淡路県民局）

事業概要

淡路花博の開催により形成された「花と緑の島」としてのイメージのもと、休耕田や棚田等に菜の花を栽培し、観光資源として活用したうえで、菜の花から菜種油を精製して特産物とするとともに、廃食用油を回収してバイオ・ディーゼル燃料(BDF)等に再生利用することにより、公共水域の保全、大気汚染防止、地球温暖化防止に取り組み、「資源循環型淡路島づくり」の実現をめざします。

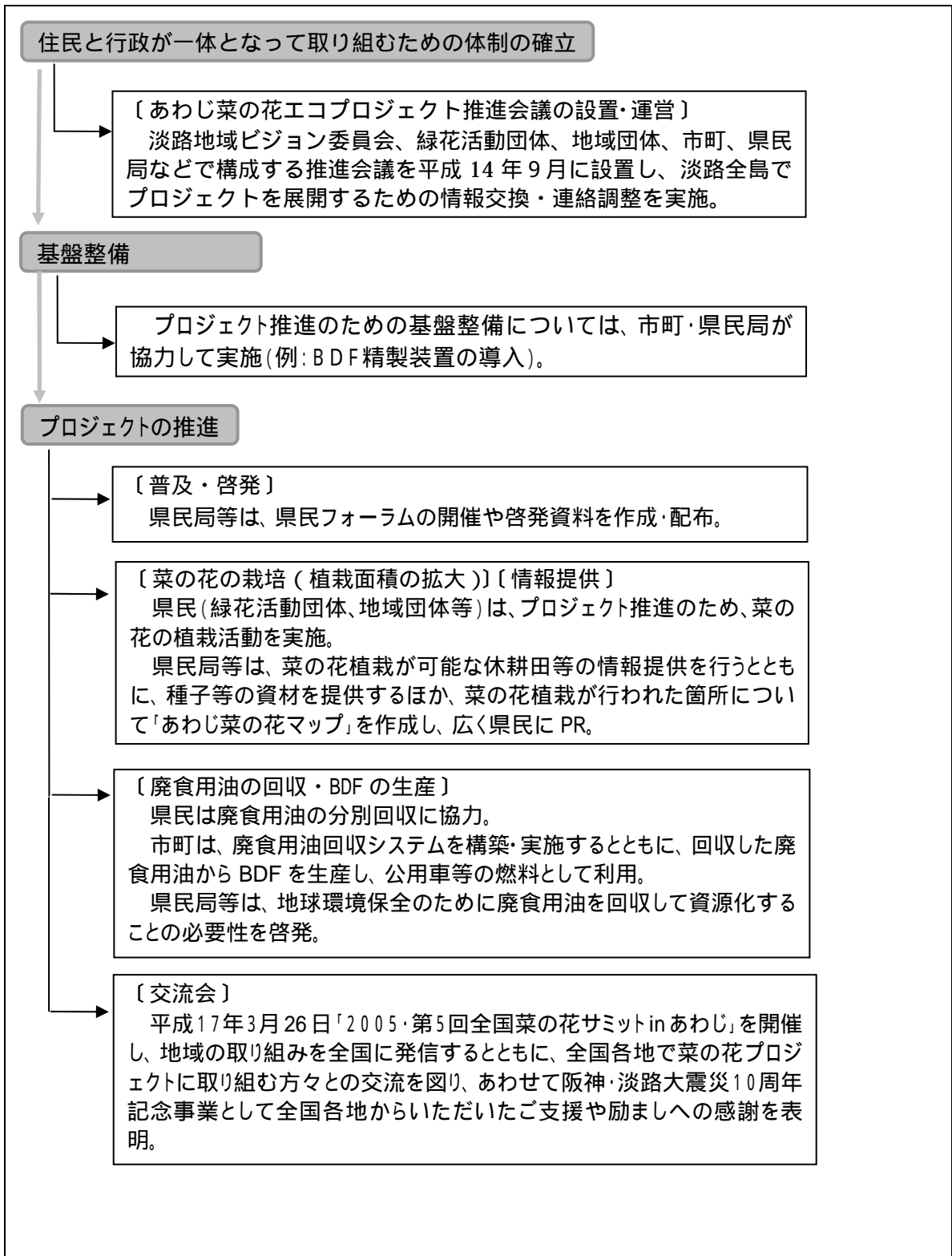
参画と協働の方法

（各主体の役割分担と推進計画の概要）

あわじ菜の花エコプロジェクトは、淡路地域ビジョン推進プログラムにおいて、県民行動プログラムと行政推進プログラムの両方に位置づけられており、住民主導の推進体制のもと、県民、行政など多様な主体が次のような役割分担により、地域が一体となって取り組んでいます。

区分		平成16年度まで	平成17年度以降
県民		<ul style="list-style-type: none"> ・菜の花栽培・収穫 ・菜種の搾油 ・廃食用油回収への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・菜の花栽培・収穫 ・菜種の搾油 ・廃食用油回収への協力 ・環境学習の実施
行政	市町	<ul style="list-style-type: none"> ・廃食用油回収システムの構築・実施 ・BDF精製機設置（東浦町、五色町：各1基） ・BDF生産(精製機運用)と公用車等への利用 ・2005・第5回全国菜の花サミット開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃食用油回収システムの構築・実施 ・BDF生産(精製機運用)と公用車等への利用 ・環境教育の実施
	県	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議設置・運営（地域ビジョン委員会、関係団体、地域団体、県、市町等） ・BDF精製機設置補助（2基） ・普及啓発（フォーラム開催、マップ作成等） ・2005・第5回全国菜の花サミット開催支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議の運営 ・菜の花種まきの集い ・フォーラム開催等による普及啓発 ・第6回全国菜の花サミット参加

(具体的な手法)



参画と協働の実施状況

項 目	平成 1 5 年度	平成 1 6 年度
推進体制	推進会議の運営	推進会議の運営
菜の花栽培	種子を花づくりグループに配布し、植栽面積の拡大を図った。(下表参照)	
花づくり グループ数	706 グループ (8,578 人)	730 グループ (8,849 人)
廃食用油の 回収 BDF の生産	<p>五色町 (廃食用油) 公共施設等から毎月 100～200 ㍓回収。平成 15 年 12 月からは都志地区において家庭からも回収を開始。 (BDF)平成 15 年 4 月以降月に 1～2 回程度生産し、公用車に使用。</p> <p>東浦町 (廃食用油) 4 月～5 月はモデル町内会で、6 月からは全町において廃食用油を分別回収品目に加え、毎月 200～300 ㍓回収。 その他、事業所等から毎月 300～500 ㍓持ち込みがある。 (BDF)平成 15 年 7 月以降月に 4～5 回程度生産し、公用車に使用。</p>	<p>五色町 (廃食用油) 平成 16 年 12 月から町内の全世帯、公共施設等から毎月 200～300 ㍓回収。 (BDF) 月に 1～2 回程度生産し、公用車に使用。</p> <p>東浦町 (廃食用油) 全町内において廃食用油を分別回収品目に加え、毎月 200～300 ㍓回収。 その他、事業所等から毎月 300～500 ㍓持ち込みがある。 (BDF) 月に 4～5 回程度生産し、公用車に使用。</p>
普及・啓発	<p>あわじ菜の花フォーラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 16 年 3 月 28 日 ・ウェルネスパーク五色 ・満開の菜の花の中、パネルディスカッションのほか、地元でとれた菜種油で揚げた天ぷら試食等のイベントを通じてプロジェクトを紹介した。参加者 8,000 人。 ・あわじ菜の花マップの作成・配布 	<p>「2005・第 5 回全国菜の花サミット in あわじ」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 17 年 3 月 26 日～27 日 ・ウェルネスパーク五色、GOGOドーム外 ・初日： 基調レポートや講演の後、児童生徒による環境学習発表会やパネルディスカッション、全国各地でプロジェクトに取り組む 9 団体の活動報告も行われ、約 1,000 人が参加。 ・2 日目： 「あわじ環境立島まつり」として廃食油を利用したバイオディーゼル燃料(BDF)によるカートの乗車体験やBDF精製装置、風力発電施設の見学会などを実施。 ・あわじ菜の花マップ 2005 年版の作成配布

花づくりグループ数は、毎年増加しており(631、 706、 730) あわせて参加者数も増加傾向にあります(7587、 8,578、 8,849)。また、五色町では、廃食用油の回収対象が、平成 16 年 12 月から町内の全世帯に拡大されるなど、資源循環型淡路島づくりに向けた取り組みは確実に進んでいます。

花づくりグループ等による菜の花の植栽面積

(単位:a)

市町	平成16年春開花(平成15年秋播種)分					平成17年春開花(平成16年秋播種)分				
	切り花	生食	採油	景観形成	合計	切り花	生食	採油	景観形成	合計
洲本市	30				30	30	30		187	247
津名町	1,000				1,000	1,000			500	1,500
淡路町				10	10				70	70
北淡町				50	50				200	200
一宮町			366		366			380	250	630
五色町		80	200	500	780		100	200	800	1,100
東浦町	586			650	1,236	600			1,100	1,700
緑町			30	10	40				100	100
西淡町				40	40				100	100
三原町					0				250	250
南淡町					0		100		50	150
合計	1,616	80	596	1,260	3,552	1,630	230	580	3,607	6,047

花づくりグループ等を中心とした取り組みにより、菜の花植栽面積は約 1.7 倍と大きく増加しています。特に、生食と景観形成での伸びが大きくなっています。また、島内全市町で植栽が進んでいることがわかります。

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(活動の普及啓発)

フォーラムや県民局の各種イベント等におけるPRを通じてプロジェクトの認知度は徐々に高まってきました。特に17年3月に開催された「2005・第5回全国菜の花サミット in あわじ」では、「震災の島から花の島へ」をテーマに全国各地から約1000人の参加者を迎え、あわじ菜の花エコプロジェクト等資源循環型の島づくりの取り組みをはじめ1000万本菜の花の装い事業等により、元気になった淡路島を全国に発信し、交流を深めることができました。

今後はこの成果を踏まえ、「菜の花種まきの集い(仮称)」や環境立島まつりを開催してプロジェクトの実証展示を行うとともに、地域の児童・生徒をはじめとする地域住民のプロジェクトを題材とした環境学習・環境教育を推進し、全島的な取り組みとしていくため一層の普及啓発に取り組みます。

(住民主導で継続できる推進体制の構築)

菜の花植栽面積の一層の拡大を図るため、住民・事業者・花づくり団体・行政が一体となって1000万本菜の花の装い事業に取り組みました。今後、休耕田等への植栽から菜種の採取、菜種油の搾油とその利用等の「採油」システムの構築を図ります。また、旧東浦町、五色町の町内全世帯実施の成果を踏まえ、島内の全市町において廃食用油の分別回収が実現するように取り組みを進めていきます。これらを通じて、住民主導で恒久的に継続していくことのできる推進体制の構築に取り組んでいきます。

ひょうごボランティアプラザの運営（県民政策部）

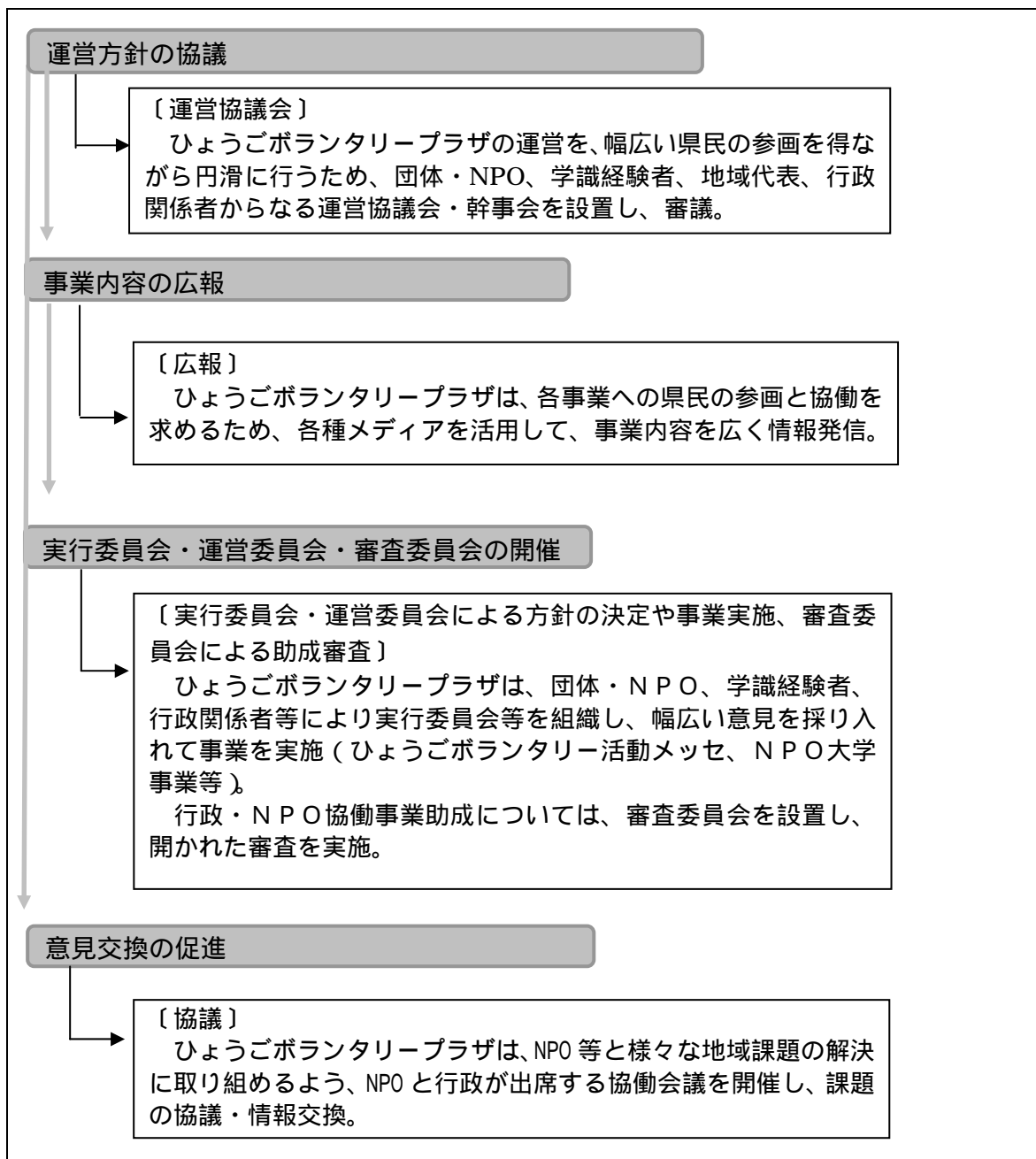
事業概要

県民ボランティア活動を支援・促進する全県的なネットワーク拠点として、開かれた、見える、柔らかい運営を基本的な考え方として、交流・ネットワーク、情報の提供・相談 人材養成 活動資金支援 調査研究を実施する「ひょうごボランティアプラザ」の効果的な運営を行います。

なお、運営にあたっては、団体・NPO や県民が主体的に参画できるようにするため、市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンターや地域の基盤的団体とのネットワークを有している兵庫県社会福祉協議会に運営を委託するとともに、ひょうごボランティア基金を同協議会に設置し、県民ボランティア活動の基盤的・総合的支援を展開します。

参画と協働の方法

ひょうごボランティアプラザは、参画と協働を進めるための多彩な事業を展開していますが、運営の基本的な枠組みについても、次のようにプロセスを重視しています。



参画と協働の実施状況

ボランティアプラザへの来所者数

ボランティアプラザの来場者数は増加しており、活動・交流の場として活用がなされています。

	来所者数	月平均来所者数 (対前年比)	うち交流サロン利用者数	月平均利用者数 (対前年比)
平成 14 年度 (6月~3月)	10,580 人	1,058 人	6,634 人	663 人
平成 15 年度	18,370 人	1,531 人 (1.45 倍)	9,613 人	801 人 (1.21 倍)
平成 16 年度	24,065 人	2,005 人 (1.31 倍)	12,320 人	1,027 人 (1.28 倍)

運営協議会の開催状況

運営協議会及び幹事会を開催して、プラザの運営方針、事業計画、予算、決算等、プラザの事業・運営に関する基本事項や個別事業について協議し、団体・NPO、学識経験者、地域代表等の意見を反映して機動的な対応を行いました。

	運営協議会	運営協議会幹事会
役割	事業計画の企画及び事業の執行等を協議。	個別事業及び個別課題に対して、柔軟かつ機動的に協議。
委員構成	団体・NPO 関係者、学識経験者、地域代表、行政など 23 名で構成	団体・NPO 関係者、学識経験者、マスコミ関係者、行政など 9 名で構成
開催回数	2 回	5 回
主な協議内容	・ボランティアプラザの事業計画及び事業の執行に関する事を協議	・ひょうごボランティア基金の新しい助成制度の個別課題等について協議

広報の状況

団体・NPO等はもとより、地域の支援拠点としての市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンター、地域生活創造情報プラザ（文化会館等）や中間支援組織の活動を応援するため、情報誌等によるきめ細かな情報提供を行いました。

- ・ 地域づくり活動情報システム「コラボネット」の運用
活動登録件数 2,515 件 団体登録件数 3,187 件
- ・ ボランティア活動情報誌「コラボレーション」の発行
年 6 回、各 1 万部発行

市町ボランティアセンターとの連携

地域におけるボランティア活動のさらなる活性化を図るため、県民ボランティア活動を支援・促進する全県的な支援ネットワーク拠点である「ひょうごボランティアプラザ」と市町単位での支援拠点である「市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンター」をはじめとする多様な主体との連携を進めています。

・情報の共有化

市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンターとの連絡会議を平成 16 年の 5 月に開催するとともに、県内市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンターとメーリングリスト（VC ネット）を開設し、ボランティアセンターとの情報の共有化を図りました。

・市町ボランティアコーディネーター研修

ボランティアコーディネーターのエンパワーメントを図るため、コープこうべと協働で専門技術・知識を習得する研修会を実施しました。

台風等災害救援ボランティアの支援

福井における水害、台風第 23 号による水害並びに新潟県地震においては、県とひょうごボランティアプラザが連携してボランティア募集に関する情報発信を行うなど、災害ボランティア活動の支援を行いました。

特に、台風第 23 号による水害ではひょうごボランティアプラザに県社会福祉協議会災害救援本部ボランティア担当を設置し、先遣隊を県 4 箇所（但馬、北播磨、淡路 2 箇所）に派遣するとともに、被害が非常に甚大である豊岡市・洲本市へ現地ボランティアセンターの立ち上げ支援のためにボランティアプラザ等の職員を派遣し、また、被災市町支援のためボランティアバスの運行を行いました。

NPO 専門相談(法律、会計・財務)の実施

NPO の運営に関する法律や会計・財務などの諸問題に対し、弁護士・公認会計士による専門的な対応が可能な相談窓口を設置しました。

- | | | | |
|----------|----------------|------|------|
| ・法律相談 | 原則として毎月第 1 土曜日 | 実施件数 | 7 件 |
| ・会計・財務相談 | 原則として毎月第 3 土曜日 | 実施件数 | 13 件 |

調査研究事業の実施

ボランティア活動に関する課題や支援方策等について、毎年テーマを設定し、調査研究を行う「団体・NPO 等活性化調査・研究事業」を実施しました。

・市民活動の基盤強化にかかる調査研究

ボランティア活動を振興する観点から中間支援組織に関する調査研究事業として、ひょうご市民活動協議会（HYOGON）に委託して、ひょうごボランティアプラザと協働して調査研究を行いました。

・市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンター基盤強化に関する研究事業

市町域でのボランティア活動推進団体により「市町域でのボランティア活動推進方策検討委員会」を設置し、市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンターが抱える課題を中心に、県域でのボランティアセクター形成のための研究、協議を行いました。

県民ボランティア活動実態調査

県内のボランティア、市民活動を行う団体やグループの活動実態や課題、ニーズ等を把握し今後のボランティア活動の推進・支援方策等を検討するための基礎資料としました。また、震災を契機としたボランティア・市民活動の動向を検証しました。

地域づくり活動の登録制度の運用（14 ページ参照）

ひょうごボランティア基金、阪神・淡路大震災復興基金による助成（67 ページ参照）

NPO 大学事業の実施（70 ページ参照）

NPO と行政の協働会議の開催（72 ページ参照）

ひょうごボランティア活動メッセ（74 ページ参照）

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(全県ネットワークセンターとしての機能強化)

全県的ネットワークセンターとしての機能を強化するため、地域生活創造情報プラザ(文化会館等)などの県関係機関や市区郡町社会福祉協議会ボランティアセンター等の広範な機関とより一層連携を密にし、協力して支援策を充実していきます。

活動支援ネット及びサポーターズネット等による全県的支援ネットワークの構築

ひょうご活動支援ナビ(仮称)による情報提供機能の充実

災害救援ボランティア支援機能の充実

特に、全県的ネットワークセンターとして、情報発信・調査研究機能、活動資金支援機能の充実をめざします。

(活動・交流拠点機能の充実)

ボランティアセクターの形成をさらに支援するため、団体・グループ、NPO、企業、学識経験者等と協働しながら、ボランティア活動の充実を支えるしくみづくりに取り組んでいきます。

また、地域、世代、活動分野を超えた交流会の開催などを通じて、団体・グループ、NPO等の多様なネットワーク化によるボランティア活動の広がり、深まりを支援します。

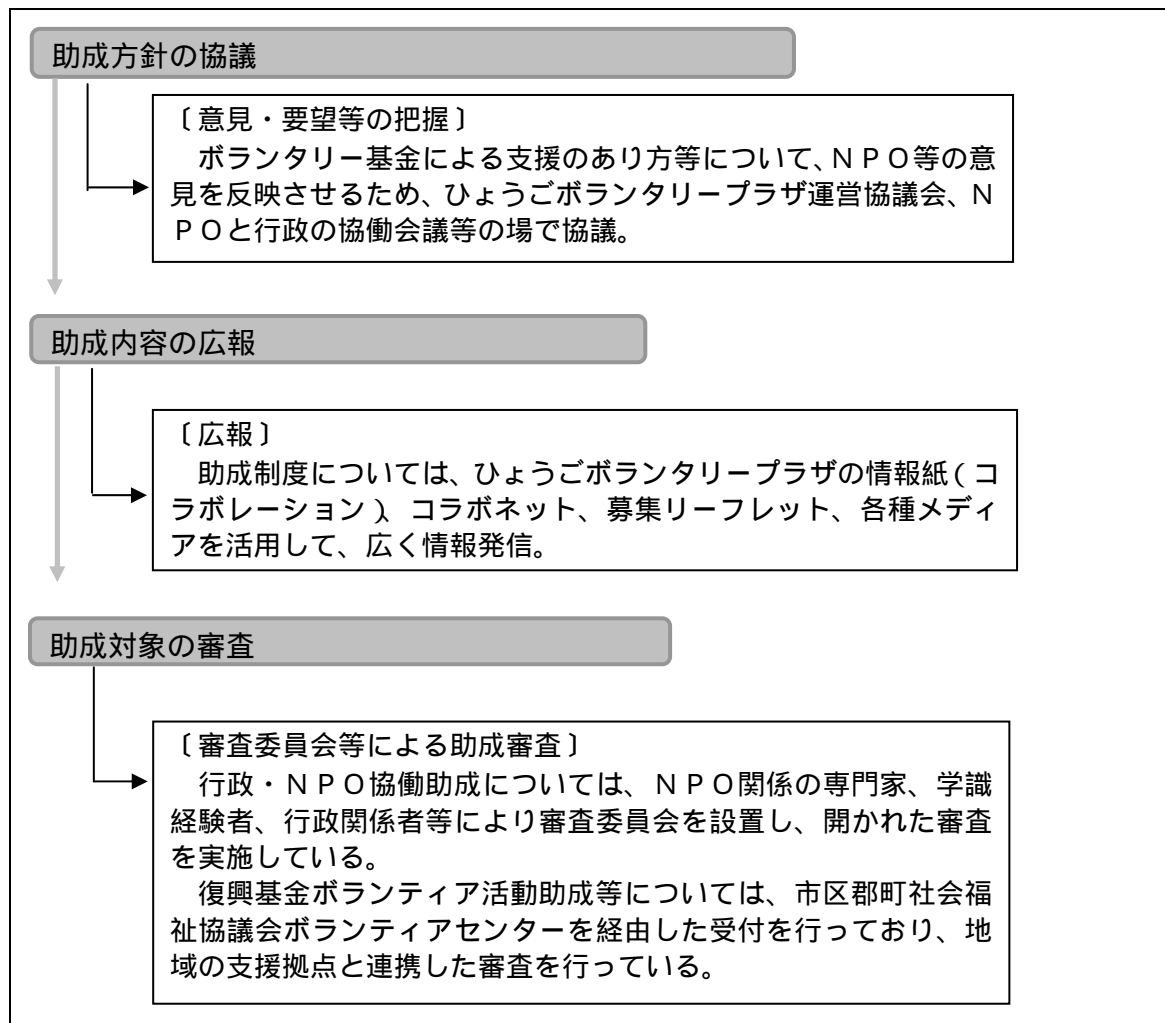
ひょうごボランティア基金、阪神・淡路大震災復興基金による助成（県民政策部）

事業概要

県民ボランティア活動の支援強化を図るため、県社会福祉協議会に平成14年4月に創設したひょうごボランティア基金を活用し、NPOやボランティアグループへの助成を行います。

また、阪神・淡路大震災復興基金については、平成7年度から被災者の生活や自立を支援するボランティア活動団体への助成を実施しています。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

ひょうごボランティア基金事業の概要

・ボランティアグループ活動助成

ボランティアグループの安定的かつ継続的な振興を図るため、ボランティア活動を行うグループ及び団体等に対し、助成しています。

- ・ 1グループ及び団体に対し、30,000円を助成
- ・ 件数 999件(29,970千円)

・ボランティア活動振興助成

ボランティア活動を行う団体等の健全な発展を促進するとともに、県民のボランティア活動への意識の高揚を図ることを目的に、団体等の事業に対して助成しています。

- ・ 1件あたり、原則300,000円を限度に助成
- ・ 件数 14件(1,586千円)

・行政・NPO協働事業助成(復興基金と併用)

NPOが企画した行政との協働事業を進めるために、第1年次に事業企画を提案し、第2年次にNPOが行政の協力を得て事業化計画を立案し、第3年次で事業を軌道にのせる3段階の助成プログラムで実施しています。

区分	第1年次	第2年次	第3年次
助成対象となる活動	地域の課題解決や活性化を目的に、NPOと行政とが協働して取り組む事業の提案作成活動	第1年次に作成した提案の事業化に向けた具体的計画策定活動	第2年次に策定した計画に基づくNPOによる協働事業の実施
助成金額	30万円以内	60万円以内	100万円以内
助成件数	7件	11件	8件

・NPOパワーアップ助成(復興基金と併用)

NPOの組織としてのマネジメント能力を高め、NPO全体の社会的信用を高めることを奨励するため IT 活用による情報公開 定期的な機関紙、情報紙の発行 セミナー、講演会等の開催を通じた団体ミッションの普及啓発事業の実施 役職員のスキルアップのための研修会等への参加 団体のマネジメント能力向上のための体制整備 - の特定の項目の要件を満たす場合に助成しています。

- ・ 1項目5万円(各項目1回限り、3項目以上の規準を満たした段階で申請)
- ・ 件数 82件(4,100千円)

阪神・淡路大震災復興基金事業(災害復興ボランティア活動補助)の概要

阪神・淡路大震災の被災者の生活及び自立を支援するボランティア活動を行うグループ・団体に対して助成しています。

・一般経費助成(活動を行うに必要な経費)

- ・ 1グループ・団体に対し、30,000円~100,000円
- ・ 件数 1,759件(120,228千円)

・特別活動経費助成(事業を行うために必要な経費)

- ・ 1事業あたり150,000円以内(年間2回を限度)
- ・ 件数 59件(7,934千円)

- ・事務所借上経費助成（活動を行うために利用する事務所の借上経費の一部に対する補助）
 - 500,000円以内（借上経費の1/2）
 - ・件数 53件（16,300千円）

参画と協働の今後の主な取り組み方向

（復興基金終了後に備えた助成制度の見直し、充実）

被災地内活動に対応してきた復興基金事業が平成17年3月に終了することに伴い、平成17年度以降は、被災地外活動に対応してきたボランティア基金事業を全県版に拡大することとしました。

これに伴い助成メニューも見直し、グループ・団体等による草の根の活動からNPOによる中間支援活動まで、多様な活動内容に対応したきめ細かなメニューとしました。

〔主な助成メニュー〕

- ・ 県民ボランティア活動助成
 - 福祉、環境創造、国際協力等NPO法17分野のボランティア活動に助成し、団体の自立支援を促す。（上限3万円・1/2助成）
- ・ チャレンジ事業助成
 - 地域課題の解決のための広域性の高い活動や斬新な活動の拡大、発展を図る。
 - （新規事業100万円上限、既存事業50万円上限）
- ・ 企業・NPO協働奨励事業
 - 地域の活性化や課題解決につながる企業とNPOの協働事業を奨励する。
 - （30～50万円）
- ・ 中間支援活動助成
 - 「ネットワーク構築」「調査研究」「講座等の開設」及び「情報提供・相談」等の活動・事業に実績があり、このうち特定部門の機能強化を重点的に行おうとする中間支援活動のレベルアップを図ることを目的に支援する。
 - （1団体年額100万円上限）

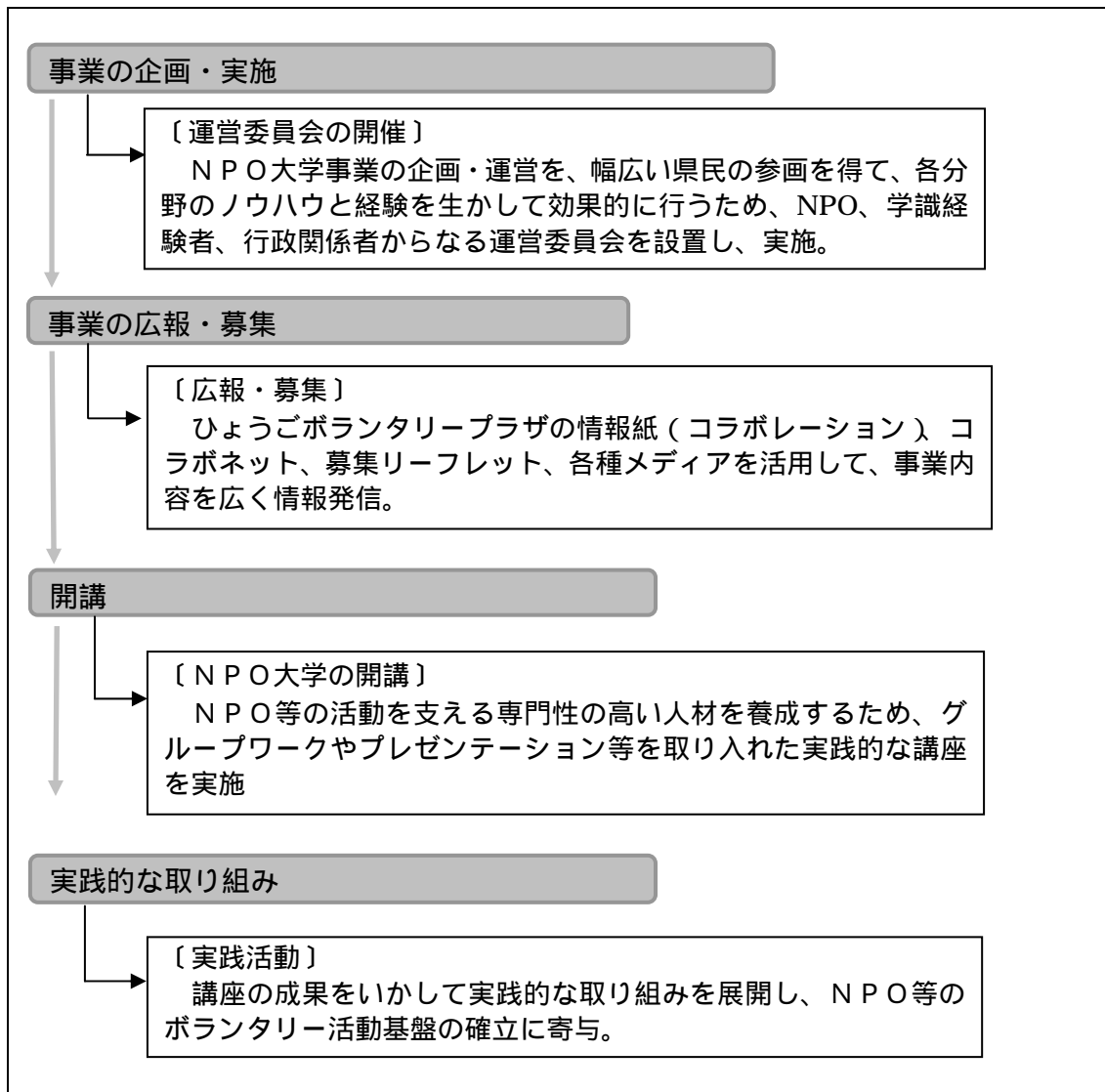
NPO大学事業の実施（県民政策部）

事業概要

NPO など、ボランティア活動を行う団体の運営基盤の確立を支援するため、組織運営、人材活用、資金調達などに関して、専門性の高い知識や技術等を習得する講座を、NPO・行政等で構成する運営委員会方式により実施します。

参画と協働の方法

学識経験者、NPO、行政関係者等で構成される運営委員会方式で事業を実施しています。



参画と協働の実施方法

NPOマネジメントコース、NPOガバナンスコースの2コースで実施
(NPOマネジメントコース)

NPOでの実務経験が2年以上のスタッフ又は常勤の実務責任者を対象に、NPOの基盤を確立するために必要な知識を学びます。

(NPOガバナンスコース)

マネジメントコース修了者又はこれに準ずる方(団体代表者等)を対象に、NPOの適正な経営とさらなる発展を学びます。

NPO大学事業の応募・受講状況

	NPO トライアルコース		NPO マネジメントコース		NPO ガバナンスコース	
	応募数	受講者数	応募数	受講者数	応募数	受講者数
H14年度	44人	40人	41人	30人	46人	20人
H15年度	54人	40人	36人	30人	24人	20人
H16年度	-	-	13人	13人	18人	18人

- ・ 毎年、受講者や修了者から講義内容についても好評を得ており、人材養成のひとつとして効果をあげています。
- ・ NPOトライアルコースについては、平成14年度、15年度にNPO向け講座の少ない神戸市以外の地域で実施し、中間支援組織等の実施する講座とのすみ分けを図りました。
- ・ 中間支援組織等で実施している初心者向けのNPO講座との分野調整を図るとともに、PR面については協力して制度を周知させるなど、事業実施面で連携を図っていきます。

H16年度では、NPOが育ってきていることから、NPOトライアルコースを廃止し、NPOマネジメントコース、NPOガバナンスコースの2コース制とし、中間支援組織で実施しています。

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(NPO等の基盤強化)

NPO大学事業の受講者数は平成9年度の開講以来、延べ618名に達しており、NPO法人の実務経験者や役員等が受講するなど、人材面での基盤強化に役立っています。

今後ともNPOの活動への参画とNPOの運営基盤の確立を支援するためにNPOと協働して、組織運営、人材活用、資金調達などに関する知識や技術等を習得するためにグループワークやプレゼンテーション等を取り入れた、実践的な講座を実施し、内容のさらなる充実を図ります。

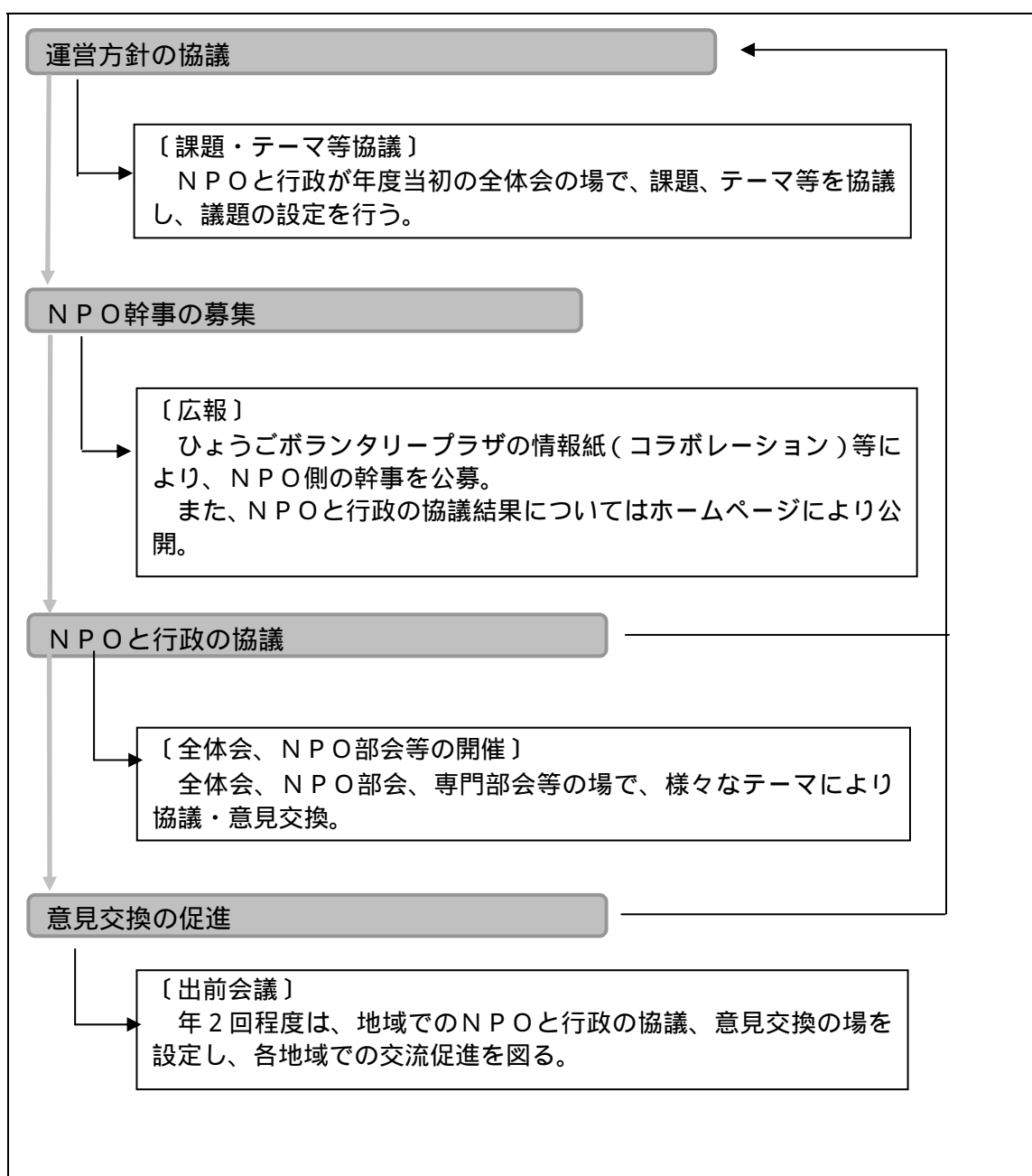
NPOと行政の協働会議の開催（県民政策部）

事業概要

平成9年7月に被災地におけるNPO等と行政の関係者が、地域課題への対応について、意見交換する場として「生活復興ラウンドテーブル」を設置しました。平成11年6月には、これを拡充し「NPOと行政の生活復興会議」とし、全体会、NPO部会の設置等の現在の枠組みを整えました。平成13年10月からは、被災地のみでなく、全県的な視点に立った「NPOと行政の協働会議」として開催しています。

この会議は、NPOと行政が協働して、福祉、子育て、環境、まちづくり等の様々な地域課題に取り組みめるよう、対等の立場で定期的に協議・情報交換を行う、先駆的なしくみとして実施・運営しているものです。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

NPOと行政の協働会議の設置

- ・全体会議
NPO部会構成員、行政部会構成員の全員、テーマに応じた県関係課室が集まり、地域課題解決に取り組むための施策や事業について、協議・情報交換を行っています。
- ・NPO部会(NPO関係者から構成員を公募)
NPOとしての課題整理や提案内容を公開で議論しています。(おおむね月1回開催)
- ・行政部会
NPOとかかわりの深い業務を担当する課室長を構成員とし、NPOと協働で実施する施策の情報交換等を行っています。
- ・専門部会
NPOと行政の協働に関して、特に集中的に協議・情報交換、調査研究等を必要とする特定のテーマについて随時設置しています。

全体会議(出前出張会議を含む)の開催状況

	開催数	会議のテーマ
全体会議	10回	・「協働のしくみづくり」について ・「指定管理者制度」について ・「ポスト復興基金」について 等
全体会(出前出張会議)	2箇所で開催 (姫路・豊岡)	姫路：NPOと行政の協働について 豊岡：NPOと行政の協働について

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(意見交換の実効性の向上)

NPOと行政の協働会議は、様々な地域課題をNPOと行政が協働して解決していくため、関係者が施策等の企画段階から協議、意見交換を行い、NPOと行政が施策検討、論議する過程を通じて、相互理解を深め、参画と協働による県民ボランティア活動支援施策を推進していきます。

これまでに「NPO活動応援貸付制度」「ひょうごボランティアプラザの開設」等の新たな制度の立ち上げを協働作業で行ってきました。

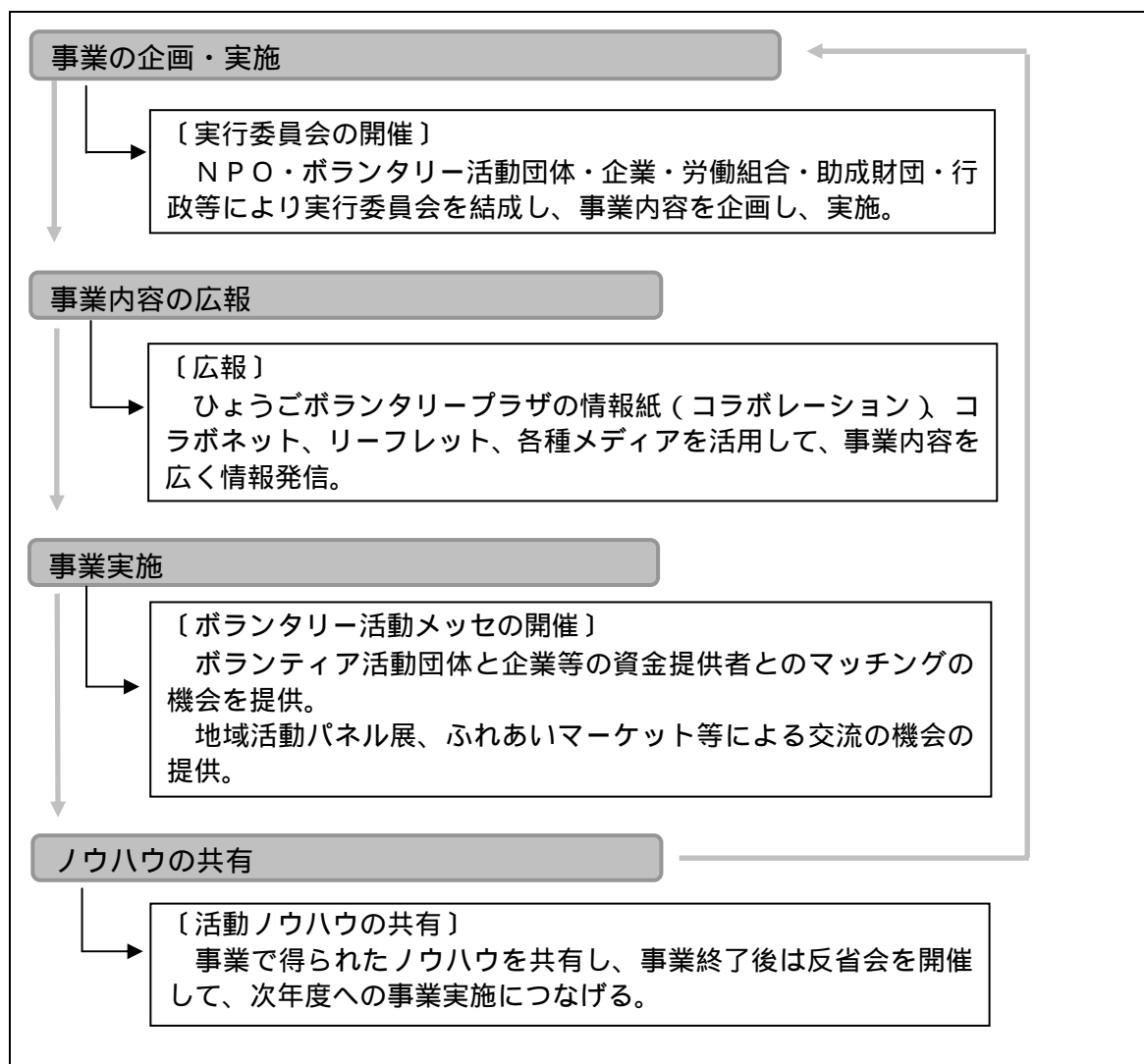
今後は、県下各地域で多様な地域課題に取り組んでいるNPOの声を、より本会議に反映させるしくみづくりや、各地域における活動ネットワーク形成に対する支援など、本会議の地域展開を通じてより効果的な会議運営を図ることとします。

ひょうごボランティア活動メッセ（県民政策部）

事業概要

活動団体間の交流の促進、活動団体と企業等の資金提供者とのマッチング等を促進するとともに、県民の県民ボランティア活動への理解と参加の促進を図るため、県内各地域のボランティア活動団体が一堂に会するイベントをNPO等との実行委員会方式により開催します。

参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

開催日・開催場所

神戸クリスタルタワー 3階クリスタルホール等で、平成17年1月29日(土)、30日(日)の2日間を中心に実施しました。

ボランティア・市民活動元気アップアワード

アワードという新たな仕組みにより、活動団体がこれから取り組もうとする事業等の提案発表を通じて、活動団体と企業等の資金提供者とのマッチングの機会を提供し、県民のNPO等への寄付意識の醸成を図りました。

コース	応募団体数	受賞団体数	
元気アップコース	49	元気アップ大賞(賞金100万円)	1団体
		元気アップ賞(賞金20万円)	4団体
こつこつコース	79	こつこつ大賞(賞金20万円)	1団体
		こつこつ賞(賞金5万円)	15団体

元気アップコース：企画提案型のコースで、これからの新たな企画内容を審査

こつこつコース：活動実績評価方のコースで、これまでの活動実績を審査

ボランタリーステージ

ボランティア・市民活動団体、その他開催趣旨に賛同する団体(地元の学校、音楽グループ等)の活動を発表する場として開設しました。

ふれあいマーケット

ボランタリー活動のPRを行うとともに、障害者の社会参加について広く市民に啓発することを目的として開催し、県内のボランタリー活動団体の情報交換と交流を図りました。

ひょうごボランティア・市民活動フォーラム

「見つけよう新しい地域連携！手をつなぐ地縁とNPO・ボランティア」をテーマに、パネルディスカッション、グループディスカッションを行いました。

地域活動パネル展

県内の地域団体等が、取り組み事例の報告やパネル等の成果物を展示し、地域組織とNPO等の交流連携及び地域活動の一層の活性化を図りました。

また、県民ボランタリー活動標語・写真コンテスト入賞作品を展示し、県民のボランタリー活動への啓発を図りました。

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(参画の促進)

多様な主体が参画・協働する実行委員会の特色を活かし、さらにより多くの主体の参画を得られるよう広く呼びかけを行っていきます。また、「寄附のしくみづくり」の検討を踏まえた新たな工夫を行うことにより、県民ボランタリー活動への理解を促進し、企業、団体、個人等の資金提供者の拡大を図ります。

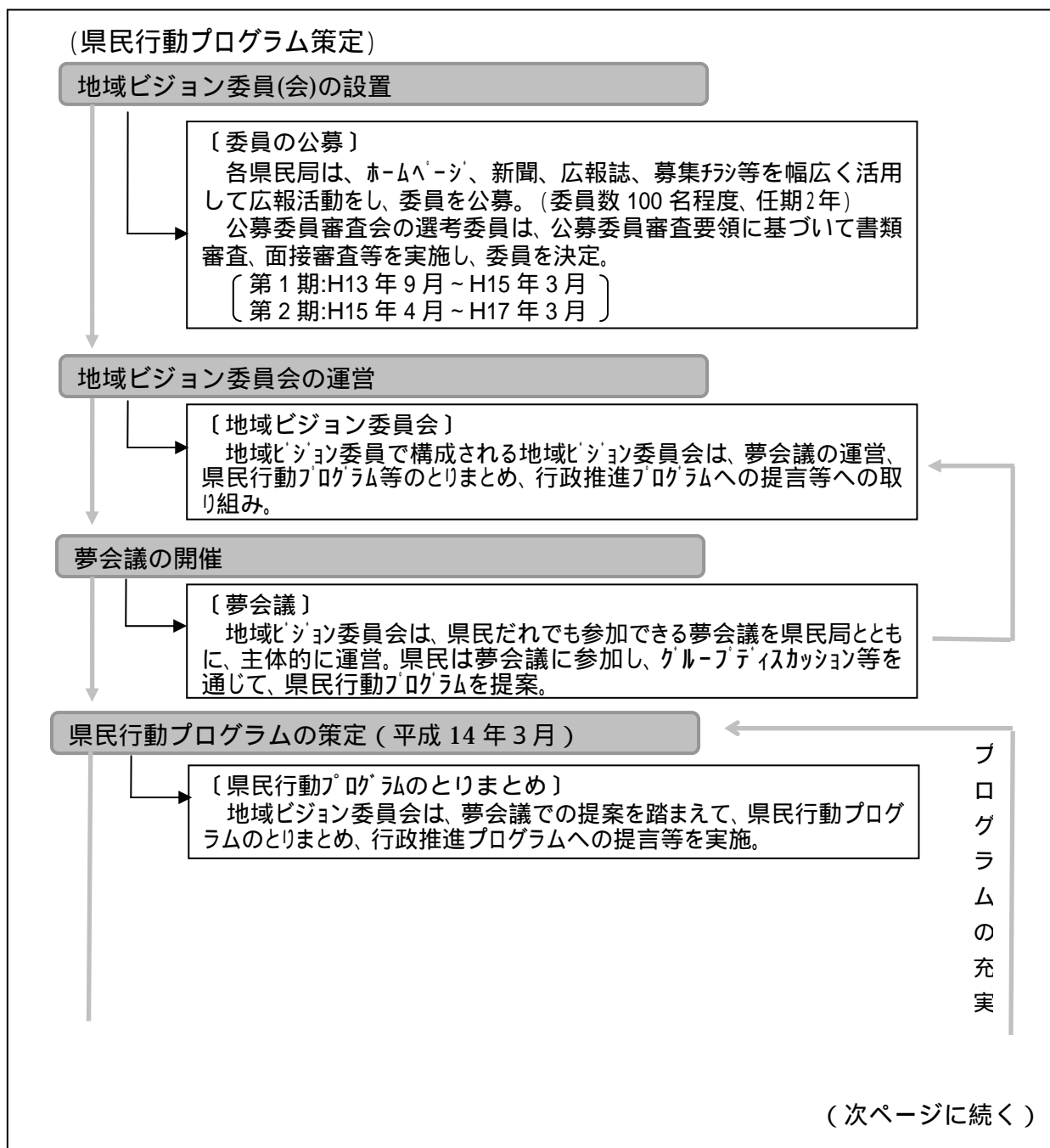
県民行動プログラムに基づく活動の促進（県民政策部）

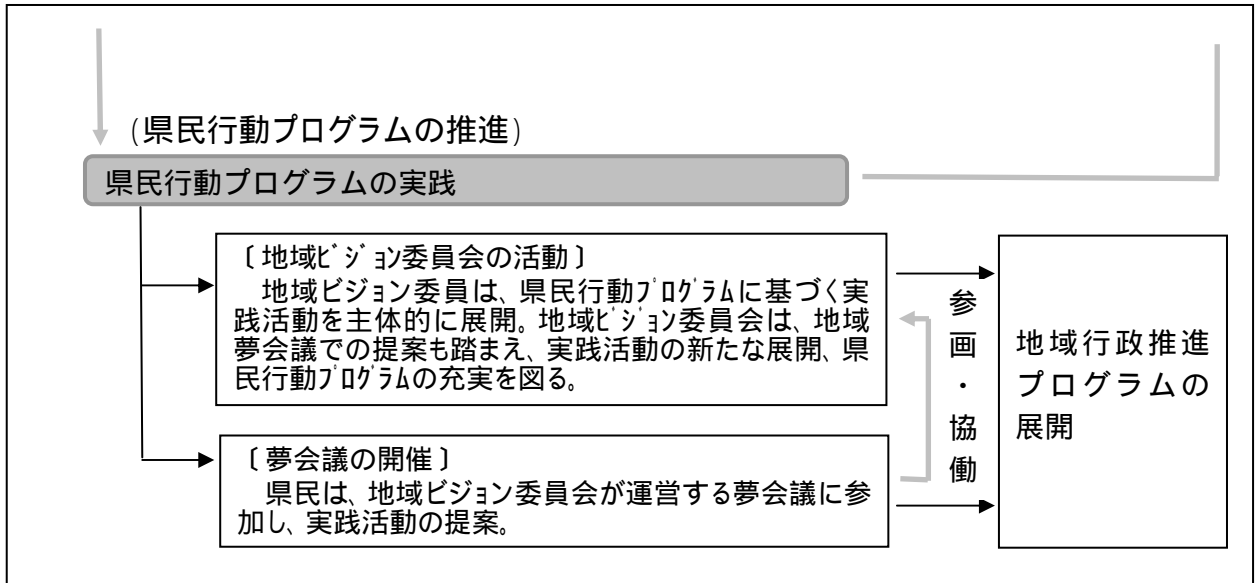
事業概要

地域ごとの個性と特色を生かし策定した地域の将来像である「地域ビジョン」の実現をめざし、県民の主体的な取り組みとして策定した「県民行動プログラム」の展開を支援します。県民局では、各種情報や議論の場の提供、関係機関との連携方策の助言などの支援のほか、中期的な施策体系である「地域行政推進プログラム」を進める中で、相互に連携しながら取り組んでいます。

参画と協働の方法

県民行動プログラムは、以下のようなサイクルで各地域がそれぞれ工夫しながら展開しています。県民局や地域ビジョン委員が協働し、事務局として会議の準備や活動支援を行っています。





今後の主な取り組み方向

(これまでの取り組みの本格的な評価・検証、次期プログラム策定への反映)

県民行動プログラムは、多くの県民の方々の参画と協働を得て、議論を積み重ね、とりまとめられました。

ビジョン策定から5年を経過することから、今後、第3期地域ビジョン委員(平成17年4月～平成19年3月)による地域ビジョン委員会を設置し、引き続き、実践活動の展開を図るとともに、幅広い県民の方々の参画のもと、地域夢会議を開催しながら、これまでの取り組みの点検・評価を行い、次期プログラムの策定に取り組んでいきます。

神戸地域県民行動プログラムの推進状況

1 神戸地域ビジョン委員会の取り組み

(1) 地域ビジョン委員が中心となり取り組む実践活動

平成15年4月に第2期神戸地域ビジョン委員会が発足して以来、委員自らがグループをつくり、プログラムの「行動提案」に呼応した先導的実践活動に取り組んでいる。

なお、委員会が取り組む実践活動について、研究会等資料等の提供、広報・調査実施経費の助成、活動成果物印刷・配布など、県民局としても、支援又は協働して取り組んでいる。

グループ名・活動概要	活動状況
<p>農都・神戸づくりグループ</p> <p>「農」と結びあえるまち「農都・神戸」づくりに取り組む。地産地消をテーマに、神戸で盛んに行われる農業、漁業の現状を学ぼうと、現地を訪れ、生産者と交流・意見交換を行ってきた。</p>	 <p>地産地消をテーマにして産地・直売所情報をまとめた「農都・神戸マップ」づくりに取り組み、このほど完成した。今後、マップを使ったスタンプラリーや食文化イベントの開催なども視野に入れて、活動を広げて行く。</p>
<p>六甲山グループ</p> <p>多くの市民に六甲山に上がってもらおう、良さを知ってもらおうと、一昨年から「六甲山の楽しみ発見」ウォークを開催してきた(5回)。参加者と一緒に見つけた楽しみをとりまとめて「楽しみ発見マップ」を作った。</p>	<p>また、県立六甲山自然保護センターを知ってもらおうと、周辺散策マップも作成。</p>   <p>今年度は、これらのマップを使ったのイベントを企画開催(3回)。</p>
<p>神戸経済の活性化グループ</p> <p>地域の核をめざす商店街を考えた第1期。第2期は、周辺から商店街を活性化するにはと、商店街を舞台に活動する学生たちの取り組み事例を調べた。</p>	  <p>今年度は、経済の分野で人と人をつないでいくしくみ(コミュニティファン等)の研究から始めた。</p>
<p>グローバルな魅力づくりグループ</p> <p>留学生と地域コミュニティとのコーディネート活動がテーマ。留学生が地域で活躍できるしくみづくりや、多文化共生の課題を考える。</p>	<p>今年度は留学生と市民が交流できる企画を実施。留学生とともに北区の田植えと東灘の酒蔵を訪ねる「留学生のための酒づくり体感ツアー」などを開催。</p>  
<p>環境・循環型社会グループ</p> <p>「環境にやさしく美しいまち神戸」をめざして、「神戸らしいリサイクル」をテーマに生ごみリサイクル活動の事例とくに生ごみの堆肥化の実践事例を調べてきた。</p>	  <p>今年度は、生ごみの堆肥化装置を使った実践とそれを使っての花づくりの実践レポートを作成したうえで、循環型社会をめざした提案づくりに取り組んでいる。</p>

子育ての支援グループ

子育ての悩みを抱え引きこもりがちな若いお母さんに、子育て情報の整理・発信など、地域ぐるみで子育て中の母親を支援するしくみを考える。



夢会議「日本と外国の子育ての違い」

HPで子育て情報の受発信実験



地域での子育て支援活動の事例を集めてきたが、今年度は引きこもりの母親に対して情報発信や相談などができる情報システムづくりに取り組んでいる。

青少年育成グループ

地域で青少年の健全育成に取り組む委員たちそれぞれの活動を、新しい結びつきによって拡大し、深めていこうとしている。本年4月初旬に、夢会議「子どもがつくる人・まち・こころ」(子ども絵画展、科学実験教室、若者の居場所づくり

フォーラムの共同企画)を開催したが、今年度も「ひかりの公募展 2005」フォーラムなどの共同イベントを企画開催する。(3/31~4/3)



居場所づくりフォーラム



わくわく！科学実験教室

高齢者が高齢者のお世話をするグループ

高齢社会では、高齢者をお世話する人材の不足と高齢化が大きな問題と、高齢者の生きがいづくりやより良い介護方法の研究などに取り組んだ。

夢会議「育ち喜び～高齢者のための園芸療法」
バリアフリー体験も



夢会議「癒される音～高齢者のための音楽療法」

今年度は、介護を受ける側の心理や園芸療法・音楽療法など、高齢者のお世話をする上で、必要な知識や考え方などの勉強会から始めている。勉強会は委員以外の参加も求め、得た情報を事例として発信、悩み相談のしくみづくりにも広げていく。

担い手の連携グループ

自治会・婦人会・PTA・ボランティアグループなど、地域づくりの様々な担い手たちが、連携して地域を支える仕組みや場の提供などについて考える。



大規模単独自治会や地域円卓会議の運営事例の研究や、地域の中での各地縁団体の連関図作成・分析など、担い手の連携を進める上での課題解明を進めていく。

また、公的施設の指定管理者制度についての、研究・議論へも進めていきたい。

楽校ネットワークグループ

趣味や一芸を出前して子どもたちと一緒に楽しみ、青少年の健全育成や地域のコミュニティづくりに役立ててもらおう「楽校(がっこう)」のしくみとネットワークづくりに取り組んできた。



夢会議「楽校の開校式」

出前メニューの一例



一昨年11月に開校以来、各地で活動を進めており、今後は分校づくり(メニューの豊富化、出前先の拡充)に取り組んでいく。

(2) 実践活動事例の収集と発信

行動提案の実践成果や地域ビジョンネットワークでの情報交流などから、様々な活動事例を収集し、行動提案集や情報誌等で広く県民に提示する。

平成15年度地域ビジョン委員会の活動事例等を取りまとめ、「神戸地域県民行動プログラム(第3集)」を作成した。(本年度第4集作成中)

2 神戸地域ビジョンネットワークによる交流と連携

地域で活動する団体・グループ・個人などが、様々な活動の情報を交換し、相互の活性や交流に取り組む「神戸地域ビジョンネットワーク」を運営している。

情報誌「神戸ゆめネット」の発行(年4回発行)
ホームページ「web版神戸ゆめネット」の運営



県民行動プログラムの進捗状況

阪神南地域の県民行動プログラムは、ビジョンのめざす阪神市民文化社会を築くため、次の三つを行動目標にして、県民の参画と協働により推進している。

行動目標 県民の自立と協働により、人と人、人と地域がふれあうなかで、それぞれの生活の質を高めよう


行動目標 県民自らによる都市環境を維持し、創造する取り組みを進めよう

行動目標 県民のアイデアと行動により、地域経済の活性化を進めよう






(1) 実践グループの活動状況

【行動目標 県民の自立と協働により、人と人、人と地域がふれあうなかで、それぞれの生活の質を高めよう】




グループ名	平成15年度の取り組み	平成16年度の取り組み
活動グループ間のネットワークづくり	市域を超えて様々な出会いができる仕組みをめざした活動グループ間の交流会の実施 (尼崎市1回:20グループ、芦屋市1回:15グループ)	3市で個別に活動する市民グループの活動の輪を広げるための3市合同のネットワークづくり交流会の開催 (H16.12.4 西宮市40グループ)  交流会
いきいきフォーラム・シニア21	高齢者の元気・勇気・やる気づくりのため、杉良太郎の「ボケたらあかん長生きしなはれ」の歌に踊りの振り付けをした 長生き音頭の作成・普及 (発表会等参加者:延べ238名)  1/21 発表会	高齢者の積極的な社会参加を促進するためにも、阪神南100万人健康体操や老人クラブ、婦人会、各町内会とも連携を図りながら、長生き音頭の普及啓発を推進するとともに、友好グループとも合同してのイベントの実施 (福祉センター、宮水学園、町内会主催のお祭り等で披露)  長生き音頭
青少年健全育成	「明るい家庭、住みやすい地域」を作るため「家族」のあり方をテーマにフォーラムの開催 (H16.2.7:参加者数45名)  「家族」をテーマにフォーラム	若者に家族、地域のあり方を考えてもらうための「子育てフォーラム」の開催 (H16.8.25:参加者数23名)  子育てフォーラム
ユニバーサルデザインによるまちづくり	阪神武庫川駅西側のバリアフリー化に向け、調査活動の実施	阪神武庫川駅のバリアフリー化工事についての現地勉強会の実施 (H16.10.5)  西出口駅前スロープ改修
芸術文化スポーツ王国づくり	県立芸術文化センターなどで活躍できるアーティストの育成のため、県民交流コンサートの開催 (3回:参加者数延べ251名)  3/19 県民交流コンサート	県立芸術文化センターを核とした芸術文化スポーツの振興と人材の発掘 (H17.3.18 阪神ニューアーティストコンテスト実施)  コンテスト授賞式

阪神2号線文化街道づくり	国道2号線を文化街道と位置づけ、国道沿いの企業、文化芸術家等の協力による音楽会の開催(3回:参加者数延べ170名)	県立芸術文化センターの完成に向けたプレイベントの開催 H16.10.13 音楽会参加者数:34名 H16.11.20 落語会参加者数:190名	 落語会
--------------	---	---	--

【行動目標 県民自らによる都市環境を維持し、創造する取り組みを進めよう】

グループ名	平成15年度の取り組み	平成16年度の取り組み
土地・花・緑	「美しいまちづくりに向けた花と緑づくり」を推進するため、「生ゴミを使った堆肥づくりセミナー」や「『テラリウム』実践セミナー」の開催(参加者数延べ260名)  堆肥づくりセミナー	園芸療法講習会の開催や子どもたちによる「うつくしいまちなみ絵画展」など花とみどりのイベント等の開催  (園芸療法講習会開催3回) 園芸療法講習会
阪神環境ネットワークづくり	ごみ問題、川の保全、自動車の削減を念頭とした『E C Oライフの推進』のためのイベントへの出展、交流会、見学会の開催  見学会	引き続き、ごみ、川の保全、E C Oライフの推進に取り組む。兵庫の川サミット(16.11.3)に参加  兵庫の川サミット in 芦屋川
21世紀の森・阪神エコベルト	尼崎、西宮、芦屋の海岸沿いに人と自然の共生できる環境エコベルトを構築するため、自然・眺望・健康・観光・産業等を考える見学会の実施(4回)	県民局の重点事業である阪神南地域・再発見運動と連携を図りながら、阪神南地域のPR、イメージアップに寄与するための「阪神南地域ガイド養成講座」の開催(講座回数:10回)  6/17 実地講座(戎社)

【行動目標 県民のアイデアと行動により、地域の経済の活性化を進めよう】

グループ名	平成15年度の取り組み	平成16年度の取り組み
土地・花・緑(再掲)	地域経済の活性化を図り、地域のにぎわいをもたらすため、土地活用の現状と課題についての学習会の実施(15.10.29:48名)	阪神臨海部の公有地、工場跡地等の未利用地について定期借地方式の導入などの調査研究(16.8.27 阪神臨海部の船上視察)
もの・ひとづくり	・地域の資源を生かした“食”と“職”の創造セミナーの開催(2回:参加者数延べ59人) ・丹波地域(おさん茂兵衛交流列車)との交流の実施(16.3.20)  “食”と“職”のセミナー  おさん茂兵衛交流列車	・丹波地域との交流の実施 「尼名産一寸豆交流栽培結果の視察とホタル鑑賞会」(16.6.19~20) ・「阪神南地域城下町楽市楽座の集い」開催(16.11.14)  尼名産一寸豆交流

(2) 広報活動の状況




県民行動プログラムを实践する阪神南地域ビジョン委員会の10のグループの広報委員から構成される広報グループでは、各グループ間のネットワークの構築、各グループの活動状況、地域イベントの情報発信をおこなうため、平成15年度には、ホームページを立ち上げ、平成16年度にはアナログ情報誌見本号(5/30)及び創刊号(12/10)を発売した。

阪神北地域ビジョン推進プログラムの進捗状況について



1 県民行動プログラムの進捗状況について

地域ビジョンの以下の4つの行動目標に即し、地域ビジョン委員会を中心にビジョン実現に向けた取組を進めている。




行動目標1 多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる

活動目標	主な取組内容
プレーパークづくりなどを通じた社会活動への参加促進	<p>「冒険広場(プレーパーク)」を、猪名川町つつじが丘及び川西市北陵地区の地域住民との協働により実施。プレーパークのノウハウが川西市多田小学校区防災会の防災訓練に展開。</p> <p>地域団体の活動情報のITネットワーク化の検討のため、管内のコミュニティを対象に「ホームページ設置についてのアンケート」を実施。</p> 
世代間交流を通じ、高齢者の地域活動を考える	<p>高齢社会における新たなライフスタイルを考える「高齢者ふれあいフォーラム」を宝塚市で開催。地域の方々から募集した「高齢者の主張・提案」を発表するとともにパネルディスカッションを実施。</p> <p>定年退職した男性の社会復帰方策や、地域での子育て支援のあり方などを考える「世代間交流のあり方を考える」フォーラムを、三田市、伊丹市で開催。</p> 
小中高生参加交流イベントなどを通じて青少年の育成を支援	<p>スポーツのすばらしさを通じ青少年の目を外に向けさせようと、地域のファミリースクールやNPO、地域のスポーツ団体などと協働。プロスポーツ選手を招き、中高生参加の交流イベント「ドリームスポーツ」、小中学校生を対象とした「バスケットボールクリニック」を開催。</p> <p>「青少年の健康について考える講演会」を宝塚市で開催。</p> 


行動目標2 自律と協働による温かいコミュニティをつくる

活動目標	主な取組内容
特に高齢者、障害者を対象に、健康で安心して暮らせるコミュニティづくり	<p>「シニア組織の活性化」に向け、川西市内の老人会をモデルに、現状を検証。川西市に新しい発想で発足した“悠々シニアクラブ”の事例を研究し、シニアの活性化、組織率の向上方策を検討。</p> <p>高齢者でも安全にすることができ、減塩など栄養バランスにも配慮した料理をつくる「元気で長生きできる料理教室」を各市で開催。</p> 
地域の温かいコミュニティづくり	<p>イベントを通じたコミュニティづくりに向け、ありまふじフェスティバル実行団体の一員として、健康増進や参加者相互が交流する「ふれあい健康ウォークラリー」を実施。“音楽でつなごう温かい地域コミュニティの輪”をテーマに、阪神北地域の合唱団体等が参加し、「阪神北地域ふれあいこんさあと」を宝塚市で開催。</p> <p>活動内容を紹介したホームページを作成。</p> 


行動目標3 自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する

活動目標	主な取組内容
ゴミの再資源化等への取り組み (地球温暖化防止の取り組みを含めて)	 <p>「エコバスツアー」に参加し、リサイクルやゴミ処理の現状について学習するとともに、各市町のゴミ収集状況の調査を実施。 「環境家計簿」を作成し、各委員家庭でエネルギー使用量の対前年比10%減に取り組むとともに、ゴミの減量化や再資源化に向け、環境家計簿の普及方策などの活動を実施。</p>
河川愛護への参画	<p>一般県民の参加もえて、青野ダムなど武庫川流域の現状を調査する「エコ研修バス」を実施。 武庫川、猪名川の市民の視点で見た親水拠点を紹介するマップ「川に親しむ ~みんなの水辺を取り戻そう~」を発行。 各小学校での環境改善に向けた取り組みを紹介し、今後の取組を探る「こどもと地域の環境会議」を、伊丹市で県民局と協働開催。</p> 
不法看板撤去等への取り組み	 <p>美しい都市景観を守るため、市民による不法看板・違法広告物の撤去活動について、宝塚市から「ボランティア活動員」などの説明を受け、実際に撤去作業を体験。 「不法看板等の実態と対策に関する提言」を作成して、市町や県と意見交換を実施。また、夢会議等で、市民、事業者に啓発。</p>

行動目標4 豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

活動目標	主な取組内容
地域経済の活性化	<p>地産地消の取組を進めている「道の駅いながわ」や「パスカル三田」などの現地調査を実施、地域の産物を再発見。 互いにミステリーハンターの気持ちで、地域の見どころ、食べどころ、名物、名産等を調査探索。夢会議などで「おすすめ散策ルート」を紹介するとともに、「散策ルートマップ」を作成して活動成果を集約。</p> 

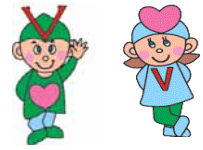
ビジョン活動の普及啓発等

活動内容	主な取組内容
広報活動	<p>ビジョン委員会だより「夢じゃーなる」の発行や活動紹介パネルにより、委員活動を普及啓発。夢じゃーなるでは、管内市町長へのインタビュー「トップと語る」シリーズの実施や委員所属の団体の活動も発信。 県民だよりひょうご 阪神北版(ビジョン委員コーナー)や県民局ホームページ「各グループの活動状況」を、県民局と協働運用。</p> 
ビジョン勉強会	<p>ビジョンをもっと深く知ろう、そして活動につなげようと委員有志で開催。全県ビジョンの輪読や講演会などによる勉強会を実施。</p>

東播磨地域ビジョン県民行動プログラムの推進状況

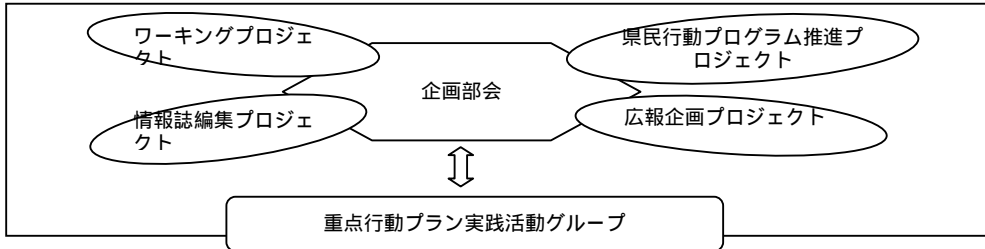
東播磨地域ビジョン委員会では、委員会活動を活性化し、県民行動の推進を図るため、下記概念図のとおり、各種プロジェクトを設置し、県民行動プログラムのあり方や新プランの提案促進について検討するとともに、ビジョン委員会活動の住民への浸透を図っている。

特にビジョン委員会の広報活動としては、イメージキャラクターの作成、情報誌「東播磨ハートランド通信」の発行、「ハートランド月間」(11月)設定による活動行事の集中実施、市町庁舎に「広報コーナー」の設置等を行っている。



(ピくん) (ハートちゃん)
イメージキャラクタ

東播磨地域ビジョン委員会概念図





東播磨ハートランド通信第7号


(2) 重点行動プランの実施状況


第2期ビジョン委員会において、現在、8プランの取組が行われている。

【誰にも心地いいハートランド】




プラン名	目標	実施状況	今後の取組
バリアフリー東播磨基準づくり 	駅舎及びその周辺について住民の目線で考えたバリアフリーの基準をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者が公共施設等で感じるバリアを实地に体感チェックするため、県立高砂海浜公園ほか7か所で検証会を実施した。 ・現在、山陽電鉄各駅で障害者が駅の利用に際して不安や危険を感じることを中心にバリアフリー度の調査を実施している。 	調査結果をまとめ、障害者が外出する際に必要な各種情報を盛り込んだ「バリアフリーおでかけサポートブック(山電編)」を作成して、行政、関係団体等に情報発信する。 来年度は、行政との協働を推進しながら、駅周辺に広げた「お出かけマップ」を作成する。
地域に住民が気軽に集える場(サロン)づくり 	地域に様々な世代の人が集える場(サロン)をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・別府西小学校で学校、PTAとの協働で地域交流イベント「別府西フェスティバル」を平成14年から毎年開催し、地域の常設サロンのきっかけづくりを進めてきた。また、播磨南小学校でも本年2月から「播磨南小フェスタ」がスタートした。 ・加古川寺家町商店街の店舗を使用して、毎月、絵手紙等の作品展示を行い地域住民が集える「寺家町ふれ愛サロン」を開設した。 	サロンの実践活動は終え、来年度は、2期メンバーが中心になって、「子育て」をテーマに活動プランを立ち上げていく予定である。

【いつも楽しいハートランド】


プラン名	目標	実施状況	今後の取組
ハートランド弁論大会の開催 	こどものやる気を引き出し、地域における世代間の意志疎通を図るため、弁論大会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度から毎年、「ハートランド弁論大会」を実施し、弁論集を発行してきた。 ＜対象＞ 東播磨地域内の中学生 ＜テーマ＞自由課題(今年度は震災) また、今年度から、東播磨青少年本部と協働で実施している。 ・さらに、今年度、震災10周年記念事業 	今後も毎年開催方法・内容を工夫しながら弁論大会を開催する。

<p>ハートランドぐり石ネット</p> 	<p>地域のボランティア活動をサポートするため、登録バンクの設置、新サービスの開拓やスキルアップ研修等を行い、ボランティアの振興を図る。</p>	<p>・これまでホームページの開設、「ボランティアの井戸端会議」、「東播磨レクリエーション大会」などの研修会の開催のほか、「東播磨ちょっといいとこシリーズ」冊子の発行、「坐禅と手打ちうどんにチャレンジ」などのイベントを開催した。 ・また、今年度から県民局から「地域づくり活動サポーター設置事業」の委託を受け、地域づくり活動の支援やネットワーク化の活動事業に着手した。</p>	<p>今後とも地域のボランティア活動をサポートし、その振興を図っていく。</p>
---	--	---	--

【いつまでも美しいハートランド】

プラン名	目標	実施状況	今後の取組
<p>水辺に学ぶプロジェクト</p> 	<p>東播磨の個性である川やため池など水辺について自ら学び、行政への参画、協働により、美しい水辺空間にするための取り組みを行う。</p>	<p>・ため池等の自然・歴史を学ぶため、「加古大池現地研修会」峠池で「スローフードフェアとミニフォーラム」を実施した。 ・別府川再生に向けた取り組みとして「身近な水辺再発見」「別府川ウォーク」「身近な川を地域のみんで考えよう」を実施した。 ・「水辺の達人、水辺に学ぶ指導者養成講座」を開催した。(全7回)</p>	<p>17年度は、県民局の提唱する「いなみ野ため池博覧会」に参画する。</p>
<p>みんなでつくろう - 美しいまちを</p> 	<p>「美しいまち(景観)・環境を住民の参画と協働でつくる」を目標に活動を進める。</p>	<p>・景観を阻害しているものをピックアップし、その対策を考えた。 ・美しいまちの概念、ツール、コンセンサスを得るための共通の利害を明確にした。 ・3市2町の「参画と協働」の推進状況を把握した。 ・美しいまちづくりの交流会を3回開催してきた。</p>	<p>住民が主体的に美しいまち(景観)づくりを行うための人材を育成するため、「まちづくりリーダー養成講座」を開催する。(3市2町各1回 計5回)</p>
<p>循環社会をめざして - ゴミの削減と資源化</p> 	<p>エネルギー削減とゴミ削減を図るため、住民一人一人が実践できる循環型のライフスタイルを提案する。</p>	<p>・循環社会の実現に向けてゴミの減量と自然エネルギー活用を図るため「地域創造市民塾」(全5回)、ゴミの循環や循環型社会実践の問題点についての「環境フォーラム」を開催した。また、「地球を守る環境展」に出展した。 ・五色町においてケナフの植樹、収穫、炭焼きを実施した。</p>	<p>来期からは循環社会に向けた新たな取り組みを計画する。</p>

【どこよりも力強いハートランド】

プラン名	目標	実施状況	今後の取組
<p>エコマネー導入に向けての検討</p> 	<p>地域のなかで、ボランティア活動やサービスの価値を交換し、循環させるエコマネー導入に向けての研究を行う。</p>	<p>「かがわエコマネー実験研究会」の活動に参画するとともに、新たな形式のエコマネーの展開について検討した。</p>	<p>自治会を舞台にしたエコマネーの実践を検討していく。</p>

(3) 県民局の支援状況

- ア 活動の自立化の支援
ビジョン委員会が主体的に活動できるよう、**拠点スペースの確保**、情報交換手段として**メーリングリスト**を作成するとともに、**実践活動経費や情報誌発行経費の補助**を行った。
- イ 県民局アドバイザーの設置
重点行動プラン毎に施策目標を同じくする参事を**県民局アドバイザー**として配置した。

北播磨地域ビジョン県民行動プログラム

心肺蘇生法を普及させ「命の教育」を推進していこう	
概要	<p>平成 15 年度は、13 中学校（管内 27 校）で「命の教育」講習と心肺蘇生法の実技講習会を実施した。また、講習を受けた中学生が核になり、講習をふり返りながら、家族や友達に命の大切さや心肺蘇生法を広められるよう、心肺蘇生法ハンドブック、心肺蘇生講習修了証を作成した。</p> <p>平成 16 年度は、15 中学校で講習の実施を計画しており、AED 講習を追加するとともに受講者には昨年度作成したハンドブック、修了証を交付することとしている。</p> <p>なお、心肺蘇生法ハンドブックは、新聞報道等を見た自治会等の防災講習関係者からも問い合わせが多く、多くの団体の防災講習等にも配布している。</p>
今後の展望	
<p>医師会、学校、消防、行政と地域のボランティアとして活動している北播磨地域ビジョン委員が核となってネットワーク化し活動を展開している。</p> <p>今後もさらにこのネットワークを広げ、北播磨地域のどこにでも「命の大切さ」を実践できる人がいるよう活動していく。</p>	
地域子どもの日をつくろう	
概要	<p>平成 15 年度は子どもと遊ぶイベントを 20 回実施し、3800 人の参加があった。このうち、子ども議会の開催にあたっては、管内市町長の出席を得て「大人になってやってみたいこと」をテーマに様々な提言の発表を行った。このようなイベントは、子ども会、PTA、自治会、各種サークルで多く実施されるようになってきているため、北播磨地域ビジョン委員会としては新たな展開を検討したい。</p> <p>今年度も管内小学 6 年生から“僕と私の夢づくり”みんなで創ろう わたしたちのまち” 作文を募集し、その提案を取り入れ、発表会を夢会議で実施した。</p>
要	
今後の展望	
<p>北播磨地域ビジョン委員会が主催するイベントは調整しながら、地域の各種団体が実施するイベントのコーディネートや情報提供を行い、側面支援的な活動を広めている。</p>	
歩いて見ようよ北はりま	
概要	<p>地域の自然、文化、歴史や人々との交流、歩く人の健康の維持などをめざし作成した 24 コースを収録したウォーキングマップを完成させた。</p> <p>平成 16 年度は、このコースマップを地域内外の人に利用してもらうため、他の県民行動プログラムとタイアップしたイベントの実施やマップ P R のための完歩記念バッジの作成を計画しており、ウォーキングで交流する人を増やしていく。</p>
要	
今後の展望	
<p>「北播磨交流の祭典～きらっと北播磨交流の大舞台 2005」でウォーキングイベントを実施するため準備を進めている。</p>	

北バーン！ 創祭り	
概要	平成 15 年度は、先人たちの執り行ってきた祭りから北播磨を特徴づけた歴史や風土を学ぼうと、身近な隣保や町内会が行う小さな祭から、村や里の氏神さんの祭、市や町などが関わる大きな祭、寺院にまつわるものなど、北播磨地域各地で開催されている祭情報を収集し、小冊子「祭 ぎょうさん」を発行した。
今後の展望	
収集した情報をもとに、地域のコミュニティや祭りの原点を探り、新しい北播磨の交流の場を創造していく。	
女性にも住みやすい「ハートランド」をめざして	
概要	男女の性別に関わりなく、社会、組織、家庭等さまざまな場面で個性と能力が発揮でき、男女が共にいきいきと暮らすことができる男女共同参画社会実現のため、女性や子ども等が住みやすい地域社会づくりをめざし、セミナーや寸劇等をつうじて意識変革や普及啓発に努めている。
今後の展望	
女性問題や社会問題について、セミナーの開催や情報交換等をつうじ、学び、気づき、考え、男女共生の立場に立って一人ひとりが自分に合ったライフスタイルを選択できる社会の実現をめざしていく。	
街づくりダイエット推進会議	
概要	資源循環サイクルをめざす菜の花エコ・プロジェクトとバイオディーゼルエンジンの活用について研究するため、購入した廃食油を燃料にバスを走らせている。今後、このデータをまとめ、バイオディーゼル車の普及を図りたい。
要	また、国体のゴミの問題にも関わるため、アンケートを実施した。
今後の展望	
菜の花の栽培から菜の花の利用、廃食油の回収、精製、燃料としての利用等の資源循環サイクルの確立をめざす。	
J R 加古川線沿線駅を交流の場に	
概要	北播磨地域の J R 加古川線の駅を地域の玄関としてふさわしい地域住民の交流の場にしようと、まず手始めに黒田庄町で計画されている J R 黒田庄駅の周辺整備と駅舎立替計画の委員会に参加している。
要	黒田庄駅は現在建替え中である。
今後の展望	
ハード面は委員会に参加しながら意見を述べていくことにし、今後は、駅周辺を含めた活用ソフトを検討するとともに、北播磨地域の他の駅にも広げていきたい。	

中播磨地域ビジョン委員会の実践活動（平成16年度）

中播磨地域ビジョン委員会では、県民行動プログラムの取り組み方向を踏まえて、ビジョン委員自らが提案した、環境やコミュニティ活動、ネットワークづくりなどに関する具体的なテーマを掲げて、それぞれのグループごとの実践活動に取り組んでいます。

水を通じたネットワークづくり - 「中はりま水縁隊」グループ



白浜・播磨灘の現状について考える
 白浜・播磨灘の現状について考える
 を開催し、川を生かしたまちづくりやまちを生かした川づくりなどについて意見を交わしました。

市川・夢前川の再生をめざし、水をテーマとして、川遊びやゴミ、水質、水生物の生息、保水など、中播磨の山・川・海の問題について考え、環境保全活動のネットワークを広げています。

昨年9月には、白浜海岸・播磨灘の現状について、地元の漁業関係者の方々と意見交換を行いました。また、10月には、「北はりま田園空間博物館」でため池についてお話をうかがいました。今年の1月には、「川とつき合おう」をテーマとするセミナー



北はりま田園空間博物館での学習会

高齢者の体力測定の実施 - 「高齢者の体力測定」グループ



体力測定の様子（10m障害物歩行）
 体力測定の様子（10m障害物歩行）
 た。また、測定結果をもとに、今後の体力づくりや日常の運動で留意すべきことなどについて、個別のアドバイスをさせていただきました。

高齢者が、自分の体力や健康状態にあわせて楽しみながら身体を動かし、健康づくりや体力の保持を行うとともに、シニアスポーツへの参加を通じている人々との交流を図ることができるよう、地区老人会などの協力のもと、小学校などの施設を利用して体力測定会を実施しています。

姫路市立荒川小学校で行った体力測定会（H16.10）では、約150名が参加して、握力や上体起こし、10m障害物歩行など6種目の測定を行いました。



測定後の個別指導

夢サロンの開催 - 「夢サロン」グループ



ビジョン委員によるリラックス体操
 ビジョン委員によるリラックス体操
 食やティータイムで楽しい語らいのひとときをすごしました。

地域の人々一人ひとりの自己実現を促し、生きがいをもった暮らしができるよう、創作活動のための環境づくりに取り組んでいます。公民館などを利用して、地域住民自らが創作した絵画や工芸の展示、演奏や踊りの発表を行いながら、お年寄りから子どもまで、すべての地域の住民が気軽に集うことができる「サロン」を開催しています。

17年2月に姫路市平松公民館で開催した「平松サロン」では、近隣の方など延べ約180人の参加のもと、バンド演奏や舞踊、かっぽれなどを鑑賞しながら、昼食やティータイムで楽しい語らいのひとときをすごしました。



バンド演奏にあわせて即興のダンスも

ふれあい広場づくり - 「地域のふれあいの場づくり」グループ



3世代が仲良く集う北原ふれあい喫茶
 3世代が仲良く集う北原ふれあい喫茶



地域住民が世代を越えて、ふれあい、交流することができるよう、公民館などを活用して、健康や福祉などをテーマに、「ふれあいの場づくり」をすすめています。昨年10月には、グループメンバーのビジョン委員が地域で中心となって運営している「北原ふれあい喫茶」を見学し、地元自治会の方と意見交換を行いました。また、11月に開催した「福崎町ふれあい健康広場」では、パーキンソン病家族の会の皆さんの協力を得て、車いすダンスや健康体操などで地域の人々との交流の輪を広げることができました。

地域の情報拠点づくりとネットデイの支援 - 「いきいき・ワクワク」グループ、「なかはりま夢21倶楽部」グループ

「いきいき・ワクワク」グループでは、「地域の頑張る人」を応援するために、地域活動情報の受発信を行う拠点づくりに取り組むとともに、学校の情報環境を整備するネットデイ活動の支援を行っています。



千人近い参加者で賑わった別所小ネットデイ

また、「なかはりま夢21倶楽部」グループでは、「夢21委員会」から「地域ビジョン委員会」へと積み上げられた専門家や実践家の人的ネットワークを活用して、ビジョン委員会の活動や様々な地域づくり・まちづくり活動のサポートに取り組んでいます。

昨年11月に行われた坊勢中学校（家島町）と別所小学校（姫路市）のネットデイでは、2つのグループが共同して、地元のPTAや住民、ボランティアの方々とともに、配線工事や交流行事などに汗を流しました。



島の魅力を世界に発信！（坊勢中ネットデイ）

まちの魅力マップづくり - 「中播磨マップ部会(まちの魅力部会)」グループ



家島町での魅力探訪（H15.8）

「まちの魅力はそこに住み生活している人々の魅力からつくられる」、「人のつながりがまちを活性化させる」、「まちづくりはひとづくり」の視点から、地域の名所・旧跡、特産品や伝統文化、人などをテーマに、地域の魅力をまとめたマップづくりを行っています。

今年度は、まちの様々な魅力と地域の特色を生かしながら自分の生活の場で頑張っている魅力ある人を発見しようと、大河内町（8月）と家島町（11月）を訪ねました。昨年度は、家島町、夢前町、香寺町で魅力探しを行いました。



こんにゃくづくりに挑戦（大河内町）

ゴミ減量化のためのコンセンサス会議の開催 - 「ゴミ減量化のためのコンセンサス会議」グループ



第1回コンセンサス会議（県姫路庁舎）

ゴミの減量化の問題については、家庭や地域の身近な問題として、私たち一人ひとりが真剣に考え、取り組む必要があります。

そこで、市民参加による「コミュニティ・コンセンサス会議」の手法を用いて、ゴミの減量化への課題や解決方法などを探り、意識啓発を図っています。

「家庭ゴミの有料化」をテーマに、12月と2月に2回のコンセンサス会議を開き、専門家と県民代表との公開による質疑応答を行いました。その内容を踏まえて、提言書として取りまとめることにしています。



第2回コンセンサス会議（県立大学）

子育て支援活動とネットワークづくり - 「よんでヤ！いっよ・子育て応援ダン」グループ



親子のふれあいゲーム（坊勢幼稚園）

子育てに悩むお母さんたちを支援するために、「実践に勝る学びなし」をモットーに、紙芝居や木工クラフトなどの遊びを通じた子育て教室の開催や様々な子育て支援活動のネットワークづくりに努めています。

今年度は、家島町坊勢幼稚園（6月）や夢前町ゆめさきの森公園（7月）などで親子ふれあいイベントを実施したほか、10月には、姫路市のあいめっせホールで、まちづくりの専門家や子育て支援の実践家の方々とパネリストを迎えて、「広がれ子育て支援の輪」をテーマにシンポジウムを開催しました。



楽しい人形劇（シンポジウム）

西播磨フロンティアを拓くプログラム 「西播磨地域ビジョン推進プログラム」の進捗状況について

1 県民行動プログラムの進捗状況について

第2期「西播磨地域ビジョン委員会」では、第1期より継続した活動を展開し、県民行動プログラムに掲げた西播磨重点アクション項目を推進するため、4つの分科会、8つの推進チームによる以下の実践活動を行い、ビジョンの普及啓発に取り組んでいる。

【重点アクション項目の主な取り組み】

出る杭大会の開催・出る杭大賞の選定	
趣旨・実績	<p>意欲ある人の社会的認知・応援のため、西播磨フロンティア祭のイベントにあわせ、「第2回出る杭大会(参加:38団体)」(H15.4.29)、「第3回出る杭大会(参加:45団体)」(H16.4.24)を開催した。両大会とも約1万人の来場者で賑わった。</p> <p>来場者の投票や地域ビジョン委員による審査により「出る杭大賞」などを選定した。受賞団体にはビジョン委員が自らの募金活動により集めた活動資金を副賞として贈呈した。</p> <p>この大会には、高校生のボランティアが多数参加し、会場の運営その他に活躍した。</p> <p>「ふれあいフェスタ2004inテクノ」等のイベント会場において、大会参加へのPR及び募金活動を実施した。</p>
展開後の	<p>「第4回出る杭大会」(H17.4.29)開催に向け、ビジョン委員を中心とし、第3回出る杭大賞受賞団体との協働のもと企画・運営について準備を進めている。</p> <p>機会がある度に、出る杭大会参加へのPR及び副賞のための募金活動を継続実施する。</p>
西播磨CI(コミュニティ・アイデンティティ)運動の推進	
趣旨・実績	<p>西播磨の誇りを地域内外の多くの人にアピールするため、西播磨の地域資源を収集し、情報発信する。</p> <p>ビジョン委員から寄せられた地域資源情報(約300件)の整理、検討を進め、「西播磨の誇り」データベースとして構築した。</p> <p>このデータベースは、ビジョン委員自らがホームページを立ち上げ、より良いものを目指し試行錯誤しながら内容の改善に努めつつ、現在発信中である。</p>
展開後の	<p>西播磨ツーリズム振興協議会等と連携して、データベースの件数・内容の充実を図るとともに、モデルコース設定等による活用を図る。</p>
「みんなの保育室」の開設、育児ボランティアによる一時預かり	
趣旨・実績	<p>地域内各地で活動している「西はりま子育て応援団」と連携を図るため、合同交流会(H15.7.18、H16.8.27)を開催した。</p> <p>各団体とも個々の活動を中心に継続した活動を展開しているが、各団体のレベルアップを図り、西播磨地域に子育て支援のネットワークの輪を広げることと、子育て奮闘中の方々への支援情報の提供を目指し、ビジョン委員自らが各市町へ出向き、「まちの子育てひろば」、幼稚園、保育所等の資料・情報を収集し「あなたの町の子育てサポートブック」(5,000部)を作成、配布した。(H16.10.31)</p>
展開後の	<p>「あなたの町の子育てサポートブック」の関係者へのPR、普及を進めて、子育て支援ネットワークの構築を目指す。</p> <p>子供たちを中心にしたイベントを企画・検討する。</p>
福祉マップ等の作成	
趣旨・実績	<p>平成14年度に障害のある人の社会参加支援を目的として、車イスの方が外出した際の利便性・安全性の向上を図るため、「西播磨福祉トイレマップ」を発行し、県民局ホームページに掲載するとともに、新規情報等を逐次ホームページに更新し、利用に供している。</p> <p>小規模作業所等を地域に認知してもらうことを目的に「西播磨の小規模作業所等紹介冊子-いのち・かがやく-」の作成のため、作業内容・製品の紹介や小規模作業所が今何を必要としているか等、ビジョン委員自ら現地を訪問し、資料を収集の上、発行作業を進めている。</p>
展開後の	<p>小規模作業所等紹介冊子の発行を契機として、小規模作業所等間のネットワーク化を進める。</p>



西播磨「森と川と海の月間」の設定	
趣旨・実績	<p>西播磨地域の恵まれた「森・川・海」を活かし環境創造活動につないでいくとともに、環境保全の意識を醸成するため、子供たちの夏休みである7月・8月を西播磨「森と川と海の月間」として設定した。</p> <p>夏休み期間中に森・川・海で行われる行事をとりまとめたリーフレットを作成し、西播磨地域の小学生全員に配布した。</p> <p>平成16年7月29日開催の森・川・海子ども交流会（県民局、教育事務所主催）に参加し、子供たちとの交流のなかで環境保全について共に学習した。</p>
展 今 開 後の の	引き続き、森・川・海で行われる行事を紹介しつつ、水生生物観察会等の自然と親しむためのイベント活動を展開する。
地域通貨制度（エコマネー）の導入	
趣旨・実績	<p>西播磨地域におけるボランティアの輪を広げ、高齢者の介護、育児補助など、多様な分野で助け合いを進めるための手段として、地域通貨制度（エコマネー）の導入を図り、地域に拡充させて行く。</p> <p>先進地視察として、龍野地区地域通貨「とんぼ」（H15.9.5）の実施状況を調査した。</p> <p>平成16年5月13日に太子町において、地元団体と共催で地域通貨制度に詳しい県立大学：岡田眞美子教授（ビジョン委員会副委員長）の講演会を開催し、地域住民に地域通貨制度をアピールした。</p> <p>太子町では、地域通貨「ひまわり」の第2回流通実験を実施中であり、相生市では、2月20日に地域通貨「ぺいろん」の会設立総会が開催された。</p>
展 今 開 後の の	地域内において、エコマネーの導入を検討している個人・団体を支援するとともに、ビジョン委員会内においても、具体的な導入についての検討を行う。
西播磨統一「マイバッグ持参キャンペーン」の展開	
趣旨・実績	<p>ゴミの減量化や省資源化への意識を高めることを目的とし、既存の取り組みをネットワークしつつ、西播磨統一「マイバッグ持参キャンペーン」を実施する。</p> <p>イベント等での啓発資材として、運動への参加を呼びかける独自のステッカーを作成し、率先してバッグ等に帖布するとともに、イベント等で配布した。</p> <p>「出る杭大会・西播磨ふるさとバザール」や「ふれあいフェスタ2004 in テクノ」の会場において、ゴミ持ち帰りパトロール隊による『ゴミ持ち帰り運動』を実施し、会場ゴミの減量化に成果をあげた。</p> <p>相生市「羅漢の里もみじまつり」（H15、H16）等の会場において、『ゴミ持ち帰り運動』に協力した。</p> <p>毎月5日の「ノーレジ袋の日」運動について、地元スーパー等の取り組み状況を平成15年7・8月に調査、同時に買い物客のマイバック持参の状況調査を実施した。</p>
展 今 開 後の の	<p>業者及び買い物客ともにマイバッグに対する意識の希薄なことが判明したため、毎月5日を中心に意識啓発活動を展開する。</p> <p>西播磨地域で開催されるイベントにおいて、ゴミ持ち帰り運動の輪を広げる。</p>
上下流の人をつなぐ森林保全のための意識啓発	
趣旨・実績	<p>豊かな清流を育む森林を保全するため、上下流住民が交流を進め、森林保全の必要性について意識啓発を進めて行く。</p> <p>平成16年11月9日に、山林（上流域）を対象に波賀町で観察会を開催し、台風の被害現況を含め、森林保全の意識啓発の必要性・重要性についての再確認の場とした。</p> <p>平成17年3月6日に、海（下流域）を対象に相生湾の観察会に併せて、「第2回環境フォーラム in あいおい」を開催し、西播磨各地より参加者を得て、上下流住民の交流を図り、意見交換等を行い森林保全に対する再確認の場とした。</p>
展 今 開 後の の	<p>中流域における水生生物観察会を行う等により、上下流住民の交流と相互の理解を深めながら、併せて森林保全の意識啓発を行う。</p>



第2期県民行動プログラムの取組状況

但馬夢テーブル委員会では、以下の10プログラムに取り組んでいる。

なお、今年度2グループ（巨木・伝統行事）において、プログラムグループが母体となって新たな活動組織を設立し自主的な活動を展開している。

プログラム項目	活 動 内 容
プログラム1 映像で但馬を発信	地域の映像情報等の発信等の取り組みを通して、映像やまちづくりに関心のある人の輪を広げ、映像を核にしたまちづくりを進める。 (取組状況) ・NHK等で地域の映像情報を発信 ・映像作家を招き、映像鑑賞会「但馬夢しあたあ」を開催
プログラム2 山陰海岸国立公園を世界の公園にしよう	山陰海岸国立公園の学術的な価値や景観の素晴らしさを広く紹介し、ジオパークとして認知されるための活動を進める。 (取組状況) ・現地調査を実施し、映像記録を作成 ・山陰海岸国立公園指定40周年記念フォーラムを開催 ・サンケイリビング等で活動等を紹介
プログラム3 花いっぱい運動	自分たちの住む自然環境について学ぶとともに、花づくりに関する研修会や活動の発表会を開催しながら、但馬らしい花の植栽・保全を進める。 (取組状況) ・自然観察会の実施 ・花と緑あふれる但馬づくりフォーラム（環境課主催）で活動発表 ・さし木づくり教室の開催
プログラム4 まちづくり人フォーラムの実施	「但馬を元気に！」を目標に、但馬の「人財」から学び、「人財」を紹介するためのまちづくり人フォーラムを開催する。 (取組状況) ・まちづくり人フォーラムを開催 ・たじままちづくり人探訪を開催
プログラム5 男女共同参画セミナー・フォーラムの実施	男性・女性を問わず経済的自立を促進するため、年金・税制からワークスタイルを考えるセミナーを開催するとともに、家事、育児、介護等家庭内での男女の役割分担などの身近な問題を考えるフォーラムを開催する。 (取組状況) ・自分の生活設計を考える3回の連続セミナーを開催
プログラム6 障害者・高齢者・青少年を結ぶトライアングルネットワークの形成	障害者についての理解を深めながら、地域住民とのネットワークを構築し、多くの住民と交流を進めるとともに、福祉、教育、まちづくり等様々な分野で障害者、高齢者、青少年と一緒に参画できるような橋渡しの活動を検討する。 (取組状況) ・障害者支援施設等へのアンケート調査を実施（95施設・団体） ・冊子「但馬内の障害者施設・団体・グループ」の作成
プログラム7 地域での伝統行事・民俗芸能の復活・継承への支援	伝統行事・民俗芸能の復活・継承に関する情報発信や交流の場となる住民レベルの情報センター（但馬文教府内）の設立を検討するとともに、伝統行事・民俗芸能への理解を深めるフォーラムを開催する。 (取組状況) ・市町の伝統行事・民俗芸能の調査 ・伝統行事・民俗芸能の復活・継承をともに考えるフォーラム開催

	<ul style="list-style-type: none"> ・おまつり探検隊の実施 ・但馬民俗芸能応援隊の設立(H16.5)
プログラム8 巨木百選マップづくり	<p>但馬の豊かな自然を象徴する巨木に焦点を当て、巨木マップを作成し、巨木を取り巻く生態系を守り育てる意識の高揚と地域振興のための活用策を検討する。</p> <p>(取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巨木見学会の実施 ・「但馬の巨木百選」の発行 ・たじまの森・川・海を考える環境セミナーの開催 ・サンケイリビング等で活動等を紹介 ・但馬巨木保存会の設立(H16.5)
プログラム9 ゴミゼロ但馬の実現に向けた行動の展開	<p>持続可能な循環型社会の構築をめざし、但馬地域内でのレジ袋の減量・有料化に向けた活動を進める。</p> <p>(取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・但馬地区5R生活推進会議での活動発表 ・但馬マイバッグ持参運動推進会議の開催 ・「但馬ノー・レジ袋デー」の設定(H16.6～毎月第1土曜日) ・但馬マイバッグキャンペーン運動の実施
プログラム10 環境学習団体のネットワークの形成と学習プログラムの検討	<p>安全・安心な食の確保に向け、生産者と消費者との橋渡しとなる活動を検討するとともに、たじま緑のネットワークへの支援を検討する。</p> <p>(取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習会・現地見学会の開催 ・有機農業実践者を囲む会の開催 ・流通業者との懇談会の開催

丹波地域ビジョン推進プログラムの推進状況

1 県民行動プログラムの推進状況

丹波地域ビジョン委員会では、丹波地域ビジョンが掲げる5つの将来像ごとに分科会を設け、その下で12のプロジェクトに分かれて実践活動に取り組んでいる。

将来像1 丹波のことは自分たちで決める仕組みがある地域

情報公開プロジェクト

緑条例をケーススタディとして条例の概要や住民主体のまちづくりの方法を学び、住民団体間の橋渡し役として、地域づくりに取り組んでいる集落の参加を得ながら、フォーラムを開催し、丹波のことは自分たちで決める仕組みづくりに取り組む。

- ・緑条例フォーラム 15年1月25日 かいばら生学習の森 120人
- ・まちづくりフォーラム 16年12月5日 篠山市民センター 122人

情報発信プロジェクト

NPO法人「たんばぐみ」の発行する丹波情報発信誌「きのわ」を利用してビジョン委員会活動、地域団体活動などの情報発信

- ・年4回 各5000部



緑条例フォーラム

将来像2 都会に近い田舎の良さを活かす地域

都会に近い田舎を調査しようプロジェクト

丹波の自然調査を通じて丹波の自然を知り、地域内外の人と交流を深める。

- ・ヒメボタルサミットに参加
15年7月5日 やまなみホール 280人
16年5月8日 箕面文化センター 100人
- ・県下地域ビジョン委員交流会 薬草薬樹公園（丹波市） 20人
- ・ヒメボタル・ゲンジボタル調査（5月～7月）
- ・加古川水生生物調査 15年7月、10月 16年8月、9月
- ・岩屋谷川水生生物調査（トライやるウィーク受け入れ） 16年6月
- ・加古川鳥類調査



トライやるウィーク中学生による水生生物調査

都会に近い田舎を活用しようプロジェクト

丹波の農産物、里山等都会に近い田舎にある優れた資源を活用する方策を、阪神南地域ビジョン委員など都市部の住民と交流しながら考える。

- ・阪神南ビジョン委員とアミング潮江フェスタ（尼崎市JR尼崎駅北地区）で丹波産物産販売 15年11月18日
- ・阪神南ビジョン委員と神楽の郷訪問、交流開始 15年12月28日
- ・近松門左衛門生誕350周年記念事業「作魅っ人 作味っ都」参加
16年3月20日 丹波の森公苑（阪神南ビジョン委員、知事参加）
- ・阪神南ビジョン委員、都市住民との交流会 16年4月29日 春日町栢野



都市住民との交流会

将来像3 多世代が支え合う豊かなコミュニティがある地域

青少年健全育成を考えようプロジェクト

丹波地域の青少年問題の現状調査をし、若者との意見交換しながら地域で育む取り組みを考える。

- ・丹波青少年本部長を招いて学習会 15年7月26日

高齢者を支え合う仕組みをつくらうプロジェクト

丹波地域の集落毎の高齢化率や高齢化進行地区を調査し、高齢化意識調査を通じて高齢者を支え合う仕組みを考える。

- ・地区別高齢化調査 15年7月実施
- ・高齢化に関する住民アンケート 16年5月～6月

男女共同参画を実現しようプロジェクト

小規模なワークショップを実施し、議論を深めながら、県や市町が推進する男女共同参画推進団体のフォーラム等にも参加し、団体間のネットワークを広げる。

- ・男女共同参画ワークショップの実施
 - 15年6月14日 丹波の森公苑 20人
 - 9月14日 ライフピアいちじま 23人
- ・16年5月26日 「たんば本音でしゃべり場」
かいばら生涯学習の森 23人
- ・16年9月11日 「たんば本音でしゃべり場」part 2
篠山市西紀支所 27人
- ・16年11月19日 「たんば本音でしゃべり場」part 3 かいばら生涯学習の森 18人



男女共同参画ワークショップ

将来像4 幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動ができる地域**丹波の森何でも百貨店をオープンしようプロジェクト**

朝市や直売所のネットワークづくりや、丹波ブランドの直販所への拡大を目指す。

- ・こんだ薬師温泉「ぬくもりの郷」に「たんばブランド」直販所設置 16年2月
- ・16年10月2・3日 丹波伝統の「衣」と「食」について発表
（「ほっ！」んまの丹波 このぬくもりを伝えたい）
（3プロジェクト合同）かいばら生涯学習の森 300人

丹波の食文化を発掘しようプロジェクト

丹波の山、野原、田畑など身近にある食材、薬草など古来から利用してきたものを調査し、丹波の食文化を発掘し、その活用を通じて地域の活性化を目指す。

- ・丹波の食材・薬草調査（15年度）
- ・16年2月14日 食の復活サミットin丹波に参加 篠山市民センター 100人
- ・16年10月2・3日 柿酢、黒豆茶等の試食会

丹波をつなごうプロジェクト

丹波木綿など丹波に眠っている様々な資源を掘り起こし、相互につなぎ合わせて地域活性化につなげる。

- ・16年2月14日 食の復活サミットin丹波に参加 丹波木綿展示 篠山市民センター 100人
- ・16年10月2・3日 丹波の木綿、丹波布の実演と講演会



無形文化財「丹波布」の糸紡ぎ実演

将来像5 バリアのない地域**地域内・男女のバリアをなくそうプロジェクト**

地域（集落）内での男女間のバリアに視点を置いて、集落規約や組織役員の男女比等現状を調査し、バリアをなくすようなモデル規約の作成やモデル集落による規約の検討を通じて地域内でのバリア解消を目指す。

- ・バリアのない地域フォーラム 16年2月15日 篠山市民センター 70人
- ・活力ある地域づくりフォーラム 16年11月28日 黒豆の館 50人



バリアのない地域フォーラム

障害者・高齢者・外国人のバリアをなくそうプロジェクト

公共施設や集客施設等を実地調査し、フォーラム等を通じて、問題点を把握して各設置者等への提言をまとめる。在日外国人とのバリア解消についても、NPO法人とも連携しながら検討する。

- ・バリアフリー状況実地調査 15年9月24日～10月20日
（3回：車いす利用者、聴覚障害者も参加）
- ・県土整備部主催の道路現場見学会と意見交換会参加 15年11月27日
- ・バリアのない地域フォーラム 16年2月15日 篠山市民センター 70人



道路現場見学会

県民行動プログラムの取組み状況

淡路地域ビジョン委員会では、地域ビジョンの実現に向け、ビジョン委員を中心に地域の方々とともに次のような実践活動に取り組んでいます。

プログラム名	概 要	取組み状況
まちぐるみ やさしいまちを 知ろう調べよう プラン	島内の各市町や社会福祉法人等が運営・実施している福祉・医療施設等について、障害者や高齢者等の立場になって、実体験等することによりその問題点を提言し、見直しを求めていく。	・モデル的に公共施設等の一部の現地調査を行い、その結果についてパンフレットを作成（600部） 市町や老人クラブ等に配布
花づくり・まちづ くりの交流	花づくりを家庭からまちへ広げ、淡路島全体を花壇に見立てた花壇づくりを行う。 また、花づくりグループと連携を図りながら、花や緑の遊び方、技術の講習会、情報の提供を行う。	・関係団体等との連携による講習会の開催（年間20回） ・「あわじオープンガーデン」の開催（参加庭園42箇所） ・島内各地において、花づくりグループ等による「2005・第5回全国菜の花サミット in あわじ」に向けた菜の花の播種を実施
あわじ菜の花エ コプロジェクト	休耕田等の有効活用により、菜の花を植栽し、花の名所づくりを行うとともに、廃食用油を回収し、軽油代替燃料や石けんとして利用する。	・10～11月には花づくりグループによって菜の花の播種を実施。 ・3月26日～27日にウェルネスパーク五色をメイン会場として淡路島一円で開催される「2005・第5回全国菜の花サミット in あわじ」の普及啓発
地域でつくる自 然ふれあい手づ くり公園	里山、休耕田や棚田などを活用して、学校や地域の人々、子どもたちが一体となって自由に冒険遊びができるプレーパークや自然とのふれあいや観察のできるピオトープの要素を備えた「手づくり公園」を地域住民の手でつくる。	・『「みなもとの森」で自然に学び楽しく遊ぼう』の開催 10月24日（日） 参加者 134名 植物観察や、ロープを使っての手づくりアスレチックづくり、小枝・草木を使った小枝細工、リースづくり ・3月26日（土）南あわじ市伊加利において、自然体験イベントを実施予定

プログラム名	概要	取組み状況
淡路島の多彩な魅力の情報発信による地域産業の活性化	淡路島の住民が本物と認め、地域自慢できる「淡路ブランド」をあぶり出し、効果的な媒体を活用して住民の視線に立った情報を発信し、住民による地域の活性化行動を誘導する。	・冊子「淡路自慢コレクション淡路がいちばん」を作成（25,000部） 関係団体の会合、研修会等で活用願うとともに、島内公立小中学校や各市町等に配布して情報発信の媒体として活用願ひ、消費拡大、地域活性化活動につなげていく。
資源循環型農業の推進	たい肥の安定供給により有機物資源の有効活用、有機農産物の栽培を推進し、自然循環型農業の推進と環境の保全を図る。	・有機農業技術会の開催 有機農業実践者を対象に新技術の講習 参加者 30名
あわじのマップづくり	淡路の魅力要素である「はな」「ひと」「道」「風景(風土)」等の情報をマップにまとめ、情報発信と観光PR、また、これらの財産を活かす整備や緑花活動に役立たせる。	・「花」「風景(風土)」グループに分かれ、2つのテーマに絞り、情報をネットワーク化させるマップづくりに取り組んだ。マップだけでは、記載できる情報量が限られているので、多くの情報が提供できるホームページを作成し、マップは、花と風土に関する主な情報を発信するとともに、ホームページに誘導させるものを作成（3,000部）
淡路島フェスティバル エンデワールド	県民行動プログラムの広域的横断的実行と検証の場として、また、持てる力を顕在化させるため、環境立島推進をテーマに様々な催しを行う。	・～エンデ・ワールド2004～ 21世紀『淡路学セミナー』の開催 「自然エネルギー導入先進国デンマークという国」 講師 ケンジ・ステファン・スズキ氏 日時 平成16年5月15日(土) 参加者 延べ80人 「淡路の魅力を満喫しよう！」別処塾～スモモ物語～ 日時 平成16年6月20日(日) 参加者 100名